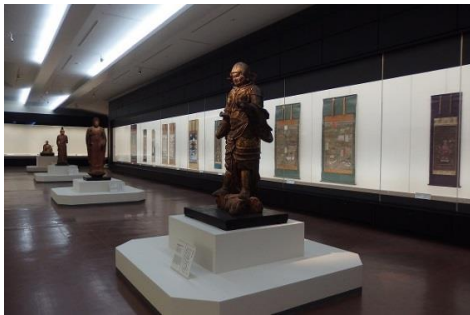


中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 展覧事業の充実 ①-1平常展								
【年度計画】 展観事業の中核と位置づけ、各国立博物館の特色を十分発揮した特集陳列等を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。 (4館共通) 平常展来館者数について、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期計画期間の年度平均の確保を目指す。 (東京国立博物館) ア 定期的な陳列替の実施 (年5,800件) イ 陳列総件数 約7,500件 ウ 本館「日本美術の流れ」を始めとする日本美術関係の展示、平成館の日本考古展示の更なる充実を図る。平成27年1月より黒田記念館の一般公開を再開する。黒田記念館内の展示室のうち黒田記念室については、本館等と同様、原則週6日の公開とする。 エ 特集 特別展「日本国宝展」の開催に合わせた「国宝再現―田中親美と模写の世界―」(10月15日～12月7日)を開催する。東洋館の展示を中核に据えた「博物館でアジアの旅」期間を秋に設け、「中国書画精華」(9月30日～12月7日)、「唐物ってなに? 唐物受容のその後」(9月30日～11月24日)などを開催する。すでに恒例となった「博物館に初もうで」関連企画、上野動物園・国立科学博物館との動物を取り上げた連携企画、台東区立書道博物館との連携企画「趙之謙の書画と北魏の書」(7月29日～9月28日)などを実施する。 ・「日本人が愛した官窯青磁」(5月27日～10月13日) ・「伊能忠敬の日本図」(6月24日～8月17日) ・「甦った飛鳥・奈良染織の美―初公開の法隆寺裂―」(8月19日～9月15日)等 オ 文化庁関係企画 ・「平成26年 新指定 国宝・重要文化財」(仮称)(4月22日～5月11日) 平成26年に新たに国宝・重要文化財に指定される文化財を展示する。									
担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	列品管理課長	富田 淳					
【実績・成果】(4館共通) 総合文化展(平常展)は、平成館1階考古展示室が27年10月のリニューアルオープンに向け、26年12月～27年3月まで工事のため閉室したが、黒田記念館のリニューアルオープンや「博物館に初もうで」などの事業の充実によって、平常展来館者数の目標値である前中期計画期間の年度平均を上回った。 (東京国立博物館) ア 定期的な陳列替を実施し、5,506件の展示替を行った。 イ 陳列総件数 8,161件 ウ 展示ケースの修理点検、清掃などで保存環境及び観覧環境の向上を図った。東洋館・法隆寺宝物館の展示ケースの補修を行った。また、26年12月より平成館1階考古展示室を閉室し、展示環境の改善のための工事を開始した(27年10月再開予定)。耐震改修のため24年4月8日より休館していた黒田記念館は、27年1月2日より展示を再開した。以前は週2日の限定公開であったが、再開後は東京国立博物館の休館日・開館時間に準じた。 エ 22件の特集を実施した。 オ 「平成26年 新指定国宝・重要文化財」を実施した(26年4月22日～5月11日)。また、新指定の重要文化財となった彫刻の一部を、同時期の本館11室においても展示した。									
【補足事項】※陳列替については、23年度より定量的評価の項目を陳列替回数から陳列替件数に変更した。									
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	22	23	24	25
平常展来館者数 (23年度より黒田記念館を含む)		587,528人	362,470人	A		373,068	324,597	416,430	484,429
陳列替件数		5,506件	5,800件	C		290	4,914	6,989	5,708
陳列総件数		8,161件	7,500件	B		5,610	7,394	9,190	8,824
特集陳列等実施回数		22件	―	―		53	32	47	33
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 本館特別1室を緊急に改修する必要があったため陳列替件数が目標に達しなかったが、黒田記念館のリニューアルオープンや「博物館に初もうで」などの事業の充実によって目標を上回る来館者があった。							
【中期計画記載事項】平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 平常展示とともに、テーマ性を持った特集展示、「博物館でアジアの秋」などのイベント等を充実させることによって国内外の多くの来館者があり、中期計画に向け順調にすすんでいる。							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1)展覧事業の充実 ①－1平常展								
【年度計画】 (4館共通) 平常展来館者数について、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期計画期間の年度平均の確保を目指す。 (京都国立博物館) ア 平成26年9月13日に平成知新館を開館し、平成知新館開館記念展「京（みやこ）へのいざない」を開催する（9月13日～11月16日）。 イ 定期的な陳列替を行い、テーマ性を持った展示を行う。（陳列替件数 年700件） ウ 陳列総件数 約1,000件 エ 特別展示室において、部門を超えた特別展示を行う。 オ 特集陳列 ・「ひなまつりと人形」（平成27年2月21日～4月7日）									
担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長 宮川禎一						
【実績・成果】（京都国立博物館） ア26年9月13日に平成知新館を開館し、平成知新館開館記念展「京（みやこ）へのいざない」を開催した（26年9月13日～11月16日）。 イ定期的な陳列替を行い、各展示室ごとにテーマ性を持った展示を行った。（陳列替件数 693件） ウ陳列総件数 980件 エ特別展示「桃山 秀吉とその周辺」（26年10月13日～11月16日）、特別展観「島根鰐淵寺の名宝」（27年1月2日～2月15日）等、特別展示室において、分野を超えた特別展示を行った。 オ特集陳列「雛まつりと人形」（27年2月21日～4月7日）、特別展観「天野山金剛寺の名宝」（27年3月4日～3月29日）を開催した。									
【補足事項】 ・平成知新館の開館を機に、一般の方々がより親しみがもてるよう、平常展を「名品ギャラリー」と改称した。 ・金剛寺丈六本尊をはじめ、類を見ないほど高水準かつ多彩な展示内容を実現したことにより、従来の実績を元とした目標値の4倍以上にのぼる来館者数を達成した。 ・当初目標としていた陳列替件数・陳列総件数は、旧来の展示館の実績を新館（平成知新館）の平面図に単純に当てはめて算出したものであった。しかし、実際に新館での展示を始めたところ、陳列ケースや陳列台等の形状や仕様の違いにより、想定していた数量の文化財を陳列するには無理のあることが判明し、現状に最もふさわしい数量の文化財を陳列するに留めたことにより、目標値を若干下回ることとなった。 ※平常展来館者数の、26年度目標値算出について $(H26目標来館者数) = 171,110人(前中期平均来館者数) \times 174日(平成知新館開館後の年度内開館実績) \div 307日(工事がなかった場合の開館日数) = 96,980.912 \cdots \approx 96,981人$									
						平成知新館開館記念展「京（みやこ）へのいざない」会場			
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
平常展来館者数		265,791人	※96,981人	S		—	—	—	—
陳列替件数		693件	700件	C		—	—	—	—
陳列総件数		980件	約1,000件	C		—	—	—	—
特集陳列等実施回数		—	—	—		—	—	—	—
【年度計画に対する総合評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 判定根拠：陳列替件数・陳列総件数は目標値をわずかに下回ったものの、粒よりの名品を効果的に展示したことにより、予期以上の好評を博し、目標値の4倍以上に達する来館者を迎えることができた。 対応と課題：26年秋の混雑した平成知新館も新年度では沈静化が見込まれるので来館者確保のために各種特集陳列の企画・広報及びイベントの実施などを強化して来館者減を極力抑えるように努める。							
【中期計画記載事項】平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。なお、京都国立博物館においては、耐震化を図るための平常展示館建て替え終了後、国際文化観光都市・京都において京都文化発信の核となる博物館を目指した平常展を平成26年度までに開催する。									
【中期計画に対する評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 判定根拠：平成知新館の開館に伴い京都文化の様相をよく示す「京へのいざない」展を開催することによって日本人およびアジア・欧米からの来館者に向けて日本の伝統美術工芸作品を紹介することができた。音声ガイドも日・英・中・韓の4言語を用意して来館者対応を強化した。 課題と対応：京都文化の本質を紹介できる平常展示・特集陳列を積極的に推進することが欠かせない。							



平成知新館開館記念展「京（みやこ）へのいざない」会場

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 展覧事業の充実 ①－1平常展 (1/2)								
【年度計画】 (4館共通) 平常展来館者数について、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期計画期間の年度平均の確保を目指す。 (奈良国立博物館) ア 活発な収集と新しい資料の発掘により名品展（平常展）の充実を図る。 ・西新館 絵画・書跡・工芸・考古部門の名品展 絵画・書跡・工芸・考古の各ジャンルにわたる日本仏教美術の粋ともいべき作品群を展示する。 ・なら仏像館 彫刻部門の名品展 大きな仏像を中心に、できるだけケース外での展示を増やし、より見やすい環境で、優れた仏教彫刻を展示する。 (ただし年度の下半期は展示ケース等改修工事のため休館予定) ・青銅器館 中国青銅器の名品展 国内における屈指の青銅器コレクションを展示する ・特集展示コーナー等を設け、観覧者の関心を喚起する イ～エ(略)									
担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長	野尻 忠					
【実績・成果】 (4館共通) 平常展来館者数は、今年度の目標値である94,338人を若干下回った。なお目標値は、工事による閉館を勘案して補正した。 (奈良国立博物館) ア 名品展においては、多数の優れた文化財をバランス良く展示することができた。 ・西新館 彫刻・絵画・書跡・工芸・考古部門の名品展 26年12月9日～27年3月31日の日程で開催した。なら仏像館の休館に伴い、彫刻の一部を西新館名品展で陳列した。 ・なら仏像館 彫刻部門の名品展 26年4月1日～9月7日の日程で開催した。館内では通常展示のほか、以下の特別公開を実施した。 特別公開「金剛寺 降三世明王坐像」(23年10月24日～26年9月7日) 特別公開「定朝様の丈六阿弥陀像」(24年6月26日～26年9月7日) ・青銅器館 中国青銅器の名品展 館が所蔵する中国・商（殷）～漢時代までの青銅器の逸品を展示した。ただし、26年10月23日～11月12日は臨時休館した。また、26年9月9日以降は、上記休館期間を除き、観覧無料とした。 ・西新館で特集展示「新たに修理された文化財」(26年12月23日～27年1月18日)、及び特集展示「和紙－文化財を支える日本の紙－」(27年1月27日～3月15日)を開催した。									
【補足事項】 当館のメインの展示館である「なら仏像館」は、建物内外の改修工事のため、9月8日から休館した。それに伴い、26年度平常展来館者数の目標値は、前中期計画期間の平均値を基に、下記にて補正して算出した。その上で来館者数の目標値に実績が達しなかった要因としては、なら仏像館の改修工事による閉館が、想定以上に来館に影響を及ぼしたものと推察される。 ※平常展来館者数の目標値の補正算定式 (1) 補正前の目標値118,032人を展示面積で按分 なら仏像館： 118,032人×1,261㎡÷1,731㎡≒85,984人 青銅器館： 118,032人× 470㎡÷1,731㎡≒32,048人 (2) 工事による閉館日数を考慮 なら仏像館： 85,984人×240日（開館実績）÷321日（工事がなかった場合の開館日数）≒64,287人(a) 青銅器館： 32,048人×301日（開館実績）÷321日（工事がなかった場合の開館日数）≒30,051人(b) (3) 補正目標値＝(a)＋(b)＝94,338人									
									
				名品展「珠玉の仏像美術」(26年12月9日～27年3月31日)会場風景					
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
平常展来館者数		92,147人	94,338人※	C		71,566	130,839	145,914	122,075
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 近年新たに見出され当館寄託となった内山永久寺の扁額を展示するなど、新資料の公開に成果を上げた。							
【中期計画記載事項】平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 当館の特色である仏教美術のテーマに沿って、時に特別公開や特集展示を設けながら、充実した平常展を実施できている。							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 展覧事業の充実 ①ー1平常展 (2/2)								
【年度計画】 (奈良国立博物館) ア(略) イ 定期的な陳列替の実施(年80件) ウ 陳列総件数 約475件 エ 特別陳列により名品展の充実を図る。 独創的な研究テーマ及び地域に密着した研究テーマによる特別陳列の充実 ・「おん祭と春日信仰の美術」(12月9日～平成27年1月18日) ・「お水取り」(平成27年2月7日～3月15日)									
担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長	野尻 忠					
【実績・成果】 (奈良国立博物館) イ 定期的な陳列替を実施し、208件を替えた。 ウ 陳列総件数 791件(特別陳列を含む) エ 下記特別陳列を開催し、平常展の充実を図った。 ・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」(26年12月9日～27年1月18日) 陳列件数54件(陳列替13件) ・特別陳列「お水取り」(27年2月7日～3月15日) 陳列件数62件(陳列替2件)									
【補足事項】 特別陳列等を除き、名品展(平常展)における陳列総件数は次のとおり。 珠玉の仏たち(なら仏像館)137件 珠玉の仏教美術(西新館) 281件 特集展示「新たに修理された文化財」(西新館) 7件 特集展示「和紙—文化財を支える日本の紙—」(西新館) 13件 中国古代青銅器(青銅器館)237件 計675件 西新館での名品展の開催期間が予定よりも長くなったため、陳列替件数・陳列総数ともに計画より増加した。 ※陳列替については、23年度より定量的評価の項目を陳列替回数から陳列替件数に変更した。									
									
				特集展示「和紙」(展示室風景)					
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
陳列替件数		208件	80件	A		101	481	465	130
陳列総件数		675件	約475件	A		340	1,092	814	632
特集陳列等実施回数		6回	—	—		5	12	6	10
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 奈良の地域に根ざした内容の特別陳列や世界的に価値の認められた和紙に関する特集展など、当館ならではの企画を織り込み、充実した平常展を展開することができた。							
【中期計画記載事項】平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 和紙に関する特集展示を組むなど、日本の伝統文化理解の促進に寄与する展示ができた。							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 展覧事業の充実 ①ー1平常展								
【年度計画】 (4館共通) 平常展来館者数について、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期計画期間の年度平均の確保を目指す。 (九州国立博物館) ア 定期的な陳列替の実施（年800件） イ 陳列総件数 約1,000件 ウ 文化交流展（平常展）のリニューアルに向けて引き続き検討する。 エ トピック展示により、独創的なテーマ及び地域に密着したテーマを掘り下げる。 ・「館蔵 近世絵画名品展」（平成26年2月25日～4月6日；4月8日～5月18日） ・「中国を旅した禅僧の足跡」（5月27日～7月6日） ・「全国高等学校 考古名品展」（7月15日～9月23日） ・「大涅槃展」（平成27年1月14日～2月15日）									
担当部課	学芸部企画課	事業責任者	文化交流展示室長 河野一隆						
(4館共通) 平常展来館者数は、前中期計画期間の年度平均に届かなかった。 (九州国立博物館) ア 定期的かつ計画的に陳列替を実施し、1,027件の陳列替を行った。 イ 陳列総件数 1,904件 ウ 開館10周年のリニューアルに向けて、基本展示室のケース配置やグラフィックを抜本的に見直すべく、秋からテーマ会議を招集し、計画を進めた。 エ 独創的な着想に基づいたトピック展示・特別公開を11回開催し、新鮮な展示を提供することができた。									
【補足事項】(4館共通) イ 特別展「台北 國立故宮博物院一神品至宝一」では多くの来館者を見込み、開館日を増やしたことに伴い、文化交流展示室の展示替を当初予定以上に行ったことにより展示品陳列替件数と陳列総件数が増加した。 エ 26年度に開催したトピック展示・特別公開のうち、特に注目すべき内容を持つものについて以下に記す。 ・トピック展示「館蔵 近世絵画名品展」（26年2月25日～5月18日） 17世紀から19世紀の絵画を中心に、当館がこれまで収集した作品を広く紹介した。 ・トピック展示「中国を旅した禅僧の足跡」（26年5月27日～7月6日） 14世紀の日本僧、無夢一清の中国での旅と生涯をたどり、個性豊かな禅書の魅力と、日中禅僧による文化交流を紹介した。 ・トピック展示「全国高等学校 考古名品展」（26年7月15日～9月23日） 全国の高等学校に所蔵されている考古資料から選りすぐった優品を通して、日本の考古文化に光をあて、あわせて高等学校の考古学に関する研究活動を紹介した。 ・特別公開「海を越えた再会ークリーブランド美術館の仲間たち」（26年7月15日～9月23日） 特別展「クリーブランド美術館一名画でたどる日本の美一」を記念し、クリーブランド美術館所蔵の優品にゆかりの深い、日本国内に所蔵されている作品を公開した。 ・トピック展示「大涅槃展」（27年1月14日～2月15日） 当館所蔵の「涅槃図」修理完成を記念して、涅槃図の意義やその変遷について紹介した。									
中国を旅した禅僧の足跡展 会場風景 全国高等学校考古名品展 会場風景									
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
平常展来館者数		357,362人	380,690人	C		274,545	358,366	460,525	349,848
陳列替件数		1,027件	800件	A		334	1,373	1,195	1,157
陳列総件数		1,904件	約1,000件	S		1,668	2,417	2,416	2,750
特集陳列等実施回数		11回	—	—		12	13	12	14
【年度計画に対する総合評価】 評定：C		【判定根拠、課題と対応】 判定根拠：文化交流展示室の展覧会事業のうち、トピック展示・特別公開は特別展的な性質を持っており、当初想定していた来館者の動員を行うことができず、目標値に達することができなかった。 課題と対応：今後、平常展に関する広報を充実させ、かつ効率的に展開すべく広報戦略の見直しも含め、効果的に機能させることで対応していく。来館者増加につながるような広報のあり方について検討する必要がある。							
【中期計画記載事項】平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。									
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 判定根拠：全体として順調に推移している。 課題と対応：今後、広報戦略も含め実績の分析・対策を積極的に打っていくことで、来館者増加を図っていく。							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ①ー2展示説明の充実							
【年度計画】 (4館共通) 1) 作品キャプションについては全てに英語訳を付す。 2) 展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を80%以上設置する。								
担当部課	東京国立博物館学芸研究部列品管理課 京都国立博物館総務課 奈良国立博物館学芸部 九州国立博物館学芸部企画課			事業責任者	課長 富田 淳 総務課長 植田義雄 美術室長兼列品室長 岩田茂樹 文化交流展室長 河野一隆			
【実績・成果】 1) 東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館及び九州国立博物館の展示説明において作品キャプション全てに英語訳を付した。 2) 展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を各館とも80%以上設置した。 (東京国立博物館) 展示テーマ数131件のうち、131件(100%)について外国語パネルを設置した。また、74件(56%)については中国語、韓国語での解説も付している。 (京都国立博物館) 展示テーマ数63件のうち、63件(100%)について外国語パネルを設置した。 (奈良国立博物館) 展示テーマ数65件のうち、65件(100%)について外国語パネルを設置した。 (九州国立博物館) 展示テーマ数54件のうち、50件(92%)について外国語パネルを設置した。また、33件(61%)については中国語、韓国語での解説も付している。								
【補足事項】 (東京国立博物館) ・黒田記念館のリニューアルでは、それまでは無かった英語による解説パネルを設置した。 (京都国立博物館) ・京都国立博物館は平成知新館(新平常展示館)開館に伴い、展示テーマの紹介パネル全てに英語訳を付した。また4言語による音声ガイドを導入した。 (九州国立博物館) ・九州国立博物館では、3言語による音声ガイド、展示テーマパネルを4言語で提供しているほか、トピック展示の趣旨や時代背景についても、必ず英語を併記している。 ・特別展「古代日本と百済の交流―大宰府・飛鳥そして公州・扶餘」では、韓国からの来館者を想定して、すべての作品名にハングルを併記するなど、多言語対応を行った。								
								
(京都国立博物館) 特別展観「山陰の古刹 島根鰐淵寺の名宝」 解説パネル(日英)			(九州国立博物館) 全国高等学校考古名品展 挨拶パネル(日英)			(九州国立博物館) 特別展「古代日本と百済 の交流―大宰府・飛鳥そ して公州・扶餘」章解説 グラフィック(日英韓)		
【定量的評価】項目								
外国語パネル等の設置	26年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	23	24	25	26
東京国立博物館	100%	80%以上	A		96%	97%	100%	100%
京都国立博物館	100%	80%以上	A		—	—	—	—
奈良国立博物館	100%	80%以上	A		84%	89%	100%	91%
九州国立博物館	92%	80%以上	B		83%	94%	87%	85%
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 4館とも作品キャプション英訳100%、テーマ解説英訳80%以上であり、年度計画を達成している。加えて、中国語・韓国語による解説も整備が進んでいる、今年度リニューアルオープンの東京国立博物館黒田記念館(27年1月2日)、京都国立博物館平成知新館(26年9月13日)においても、海外からの来館者への対応ができており、順調である。						
【中期計画記載事項】 展示に関する説明を一層充実させることに努め、作品キャプションについては全てに英語訳を付すとともに、展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を80%以上設置する。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 外国語パネルを設置することにより、外国語解説の充実とサービスの向上に努め、中期計画達成に向け順調である。						

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信																																																									
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展																																																									
【年度計画】 特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (東京国立博物館) 年3～4回程度 (京都国立博物館) 年2～3回程度 (奈良国立博物館) 年2～3回程度 (九州国立博物館) 年2～3回程度																																																										
担当部課	東京国立博物館学芸企画部企画課 京都国立博物館学芸部 奈良国立博物館学芸部 九州国立博物館学芸部企画課			事業責任者	学芸企画部長 伊藤嘉章 学芸部長 松本伸之 部長 内藤 栄 課長 臺信祐爾																																																					
【実績・成果】 (東京国立博物館) 特別展を8回開催した。 内訳：当館開催7回、海外展1回 (京都国立博物館) 特別展を2回開催した。 (奈良国立博物館) 特別展を3回開催した。 (九州国立博物館) 特別展を5回開催した。																																																										
【補足事項】 (東京国立博物館) ・当初の年度計画になかった特別展「3.11大津波と文化財の再生」を、急遽開催することとなった。 (京都国立博物館) ・特別展覧会「国宝 鳥獣戯画と高山寺」と平成知新館（新館）開館記念展「京へのいざない」の開催時期が重なり、相乗効果によって共に多数の観覧者を迎えることができた。その一方、待ち時間が長時間に及んだり、会場内が多数の観覧者が身動きがとりづらくなる場合があったことなど、混雑対策に課題が残った。 (九州国立博物館) ・特別展覧会「古代日本と百済の交流 一大宰府・飛鳥そして公州・扶餘一」及び「日本発掘—発掘された日本列島2014—展」を同時開催した。																																																										
																																																										
(京都国立博物館) 国宝鳥獣戯画と高山寺展会場																																																										
<table><tr><td>【定量的評価】項目</td><td>26年度実績</td><td>目標値</td><td>評価</td><td rowspan="6">経 年 変 化</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td></tr><tr><td>特別展等の開催回数</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>東京国立博物館</td><td>8回</td><td>年3～4回程度</td><td>A</td><td>10</td><td>7</td><td>9</td><td>8</td></tr><tr><td>京都国立博物館</td><td>2回</td><td>年2～3回程度</td><td>B</td><td>5</td><td>6</td><td>5</td><td>3</td></tr><tr><td>奈良国立博物館</td><td>3回</td><td>年2～3回程度</td><td>B</td><td>4</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td>九州国立博物館</td><td>5回</td><td>年2～3回程度</td><td>A</td><td>5</td><td>5</td><td>4</td><td>5</td></tr></table>									【定量的評価】項目	26年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	22	23	24	25	特別展等の開催回数									東京国立博物館	8回	年3～4回程度	A	10	7	9	8	京都国立博物館	2回	年2～3回程度	B	5	6	5	3	奈良国立博物館	3回	年2～3回程度	B	4	3	3	3	九州国立博物館	5回	年2～3回程度	A	5	5	4	5
【定量的評価】項目	26年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	22	23	24	25																																																		
特別展等の開催回数																																																										
東京国立博物館	8回	年3～4回程度	A		10	7	9	8																																																		
京都国立博物館	2回	年2～3回程度	B		5	6	5	3																																																		
奈良国立博物館	3回	年2～3回程度	B		4	3	3	3																																																		
九州国立博物館	5回	年2～3回程度	A		5	5	4	5																																																		
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 判定根拠：4館とも目標値を達成し、年度計画通り特別展を順調に開催できている。 混雑対策については引き続き検討していく。																																																								
【中期計画記載事項】 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (東京国立博物館) 年3～4回程度 (京都国立博物館) 年2～3回程度 (奈良国立博物館) 年2～3回程度 (九州国立博物館) 年2～3回程度																																																										
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 判定根拠：東京国立博物館においては年度計画外の特別展も開催するなど、4館とも中期計画達成に向けて順調である。 課題と対応：京都国立博物館では特別展会場である明治古都館の耐震強度が必ずしも充分ではないため、開催の在り方を検討する予定である。																																																								

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (1/7)							
【年度計画】								
ア 開山・栄西禅師800年遠忌 特別展「栄西と建仁寺」(平成26年3月25日～5月18日) 建仁寺開山・栄西の事跡と建仁寺の法脈をたどり、建仁寺に関わる文化にも注目する。(目標来館者数20万人)								
担当部課	学芸企画部企画課		事業責任者		学芸研究部調査研究課 絵画・彫刻室長 田沢裕賀			
【実績・成果】								
・展覧会名 開山・栄西禅師 800年遠忌 特別展「栄西と建仁寺」 ・会 期 26年3月25日(火)～ 5月18日(日)(49日間) ・会 場 平成館 特別展示室第1～4室 ・主 催 東京国立博物館、建仁寺、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション ・協 賛 ジェイティービー、日本写真印刷 ・協 力 あいおいニッセイ同和損保 ・作品件数 183件(うち、国宝4件、重要文化財37件、重要美術品3件) ・来館者数 252,116人(目標200,000人・達成率126.1%) ・入場料金 一般1,600円(1,400円／1,300円)、大学生1,200円(1,000円／900円)、高校生900円(700円／600円)、中学生以下無料 ＊()内は前売り／20名以上の団体料金 ・アンケート結果 満足度72%								
建仁寺山内の塔頭に伝わる工芸や絵画の名品、栄西をはじめとした建仁寺歴代名僧の書跡、全国の建仁寺派寺院などが所蔵する宝物を展示することで、近年研究の進展している栄西の著述のほか、建仁寺に関わりのある禅僧の活動を通して、栄西の伝えようとしたもの、そして建仁寺が日本文化の発展に果たした役割を広く検証することができた。								
【補足事項】								
								
					展覧会風景			
								
					ポスター			
【定量的評価】項目	26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
来館者数	252,116人	200,000人	A		—	—	—	—
【年度計画に対する総合評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 目標を大きく上回る来館者数を達成し、全国の建仁寺派寺院に関わる多様な分野の調査研究の成果をわかりやすく展示することができたため。						
【中期計画記載事項】特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (東京国立博物館) 年3～4回程度								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 所期の目標を上回る来館者数を達成し、かつ質の高い展示ができたため。						

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (2/7)							
【年度計画】								
イ 特別展「キトラ古墳壁画」(4月22日～5月18日) キトラ古墳壁画の修理や、今後の保存活用の展開をより広く国民に紹介する。(目標来館者数8.7万人)								
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部調査研究課 考古室長 白井克也					
【実績・成果】								
・展覧会名 特別展「キトラ古墳壁画」 ・会 期 26年4月22日(火)～5月18日(日)(25日間) ・会 場 本館 特別5室 ・主 催 文化庁、東京国立博物館、東京文化財研究所、奈良文化財研究所、国土交通省近畿地方整備局、奈良県教育委員会、明日香村 ・共 催 朝日新聞社 ・協 賛 岡村印刷工業 ・特別協力 情報通信研究機構、大塚オーミ陶業、日本通運 ・作品件数 18件(そのほか、参考出品13件) ・来館者数 119,268人(目標87,000人・達成率137.1%) ・入場料金 一般900円(800円)、大学生700円(600円)、高校生400円(300円) 中学生以下無料 *()内は前売り/20名以上の団体料金 ・アンケート結果 満足度63% 我が国で2例目の大陸風極彩色壁画古墳であるキトラ古墳の保存管理への取り組みも紹介しながら、複製陶板により剥ぎ取り以前の壁画全体を実感してもらい、四神のうち高松塚古墳壁画では確認できなかった躍動的に描かれた朱雀やほぼ完全な姿で残る玄武などを広く紹介することができた。								
【補足事項】								
 展覧会風景  ポスター								
【定量的評価】項目	26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
来館者数	119,268人	87,000人	A		—	—	—	—
【年度計画に対する総合評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 目標を大きく上回る来館者数を達成し、かつ修理完了後には移動して展示することが不可能な文化財を観覧できる貴重な機会を提供できたため。						
【中期計画記載事項】 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (東京国立博物館) 年3～4回程度								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 所期の目標を上回る来館者数を達成し、積年の研究成果を各研究機関と連携して十全に提示できたため。						

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (3/7)							
【年度計画】								
ウ 特別展「台北 國立故宮博物院 ー神品至宝ー」(6月24日～9月15日) 台北故宮博物院の収蔵品の中から、北宋山水画、王羲之に始まる名筆、青磁・汝窯、玉器・青銅器などの名品を初めて日本で展示する。(目標来館者数45万人)								
担当部課	学芸企画部企画課		事業責任者		学芸研究部列品管理課長 富田淳			
【実績・成果】								
・展覧会名 特別展「台北 國立故宮博物院ー神品至宝ー」 ・会 期 26年6月24日(火)～9月15日(月・祝)(78日間) ・会 場 平成館、本館特別5室 ・特別後援 日華議員懇談会 ・主 催 東京国立博物館、國立故宮博物院、NHK、NHKプロモーション、読売新聞社、産経新聞社、フジテレビジョン、朝日新聞社、毎日新聞社、東京新聞 ・特別協力 TBS、テレビ朝日、日本テレビ放送網、共同通信社 ・協 力 チャイナ エアライン (中華航空) ・作品件数 186 件 ・来館者数 402,241人 (目標450,000人・達成率89.4%) ・入場料金 一般1,600円(1,400円／1,300円)、大学生1,200円(1,000円／900円)、高校生700円(600円／500円)、中学生以下無料 * ()内は前売り／20名以上の団体料金 ・アンケート結果 満足度63%								
「翠玉白菜」をはじめとする台北 國立故宮博物院が収蔵するひととき優れた中国の文化財によって、中国文化の特質や素晴らしさを広く提示することができた。								
【補足事項】								
・本展は、政府による美術品補償制度の適用を受けた。 ・國立故宮博物院との十分な事前確認ができなかったため、十分な広報活動ができず、展覧会周知が不足したことで、目標来館者数に届かなかった。 ・長年にわたる台北 國立故宮博物院との人的・学術交流のもと、門外不出の名を品含む諸文物を借用し、アジアで初めて実現した。さらに刊行物・講演等についても当初の予定を大幅に上回る質と内容を誇るものとなった。また事前の調査研究による皇帝コレクションに対する深い理解のもとに、多くの鑑賞者に分かりやすく、その魅力を提示することができた。								
								
								
					展覧会風景			
								
					ポスター			
【定量的評価】項目	26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
来館者数	402,241人	450,000人	C		—	—	—	—
【年度計画に対する総合評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 所期の目標の来館者数に達しなかったが、我が国で初めて台北 國立故宮博物院のコレクションを展示したことで国民に極めて貴重な鑑賞機会を提供できたため。						
【中期計画記載事項】特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (東京国立博物館)年3～4回程度								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 国民の知的好奇心を刺激する極めて貴重な展示機会となったため。						

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (4/7)							
【年度計画】								
エ 2014年日中韓国立博物館合同企画特別展「東アジアの華 陶磁名品展」(9月17日～11月24日予定) 日中韓国立博物館の合同企画として、東京国立博物館、中国国家博物館、韓国国立中央博物館それぞれの蔵品の中から、東アジアの陶磁器の名品を選び一堂に展示する。(目標来館者数3.4万人)								
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	企画課特別展室 横山梓					
【実績・成果】								
・展覧会名 2014年日中韓国立博物館合同企画特別展「東アジアの華 陶磁名品展」 ・会 期 26年9月20日(土)～11月24日(月・休)(57日間) ・会 場 本館 特別5室 ・主 催 東京国立博物館、中国国家博物館、韓国国立中央博物館 ・作品件数 45件(うち、国宝1件、重要文化財10件) ・来館者数 65,075人(目標 34,000人・達成率 191.4%) ・入場料金 一般620円(520円)、大学生410円(310円) 総合文化展観覧料、*()内は20名以上の団体料金 ・アンケート結果 満足度60%								
日本、中国、韓国の3カ国の国立博物館が合同で実施する初めての国際共同企画展という極めて意義深い展覧会となった。各館の陶磁器コレクションの特徴をふまえて厳選された名品を一堂に展示することによって、各国の陶磁器の特質をわかりやすく展示できた。								
【補足事項】								
 展覧会風景  ポスター								
【定量的評価】項目	26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
来館者数	65,075人	34,000人	A		—	—	—	—
【年度計画に対する総合評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 3カ国の国立博物館が合同で実施する初めての国際共同企画展であり、3カ国の陶磁器の特質を各国ブロックにより明確に区分した展示構成によって、わかりやすく示すことができた。さらに所期の目標を大きく上回る来館者数を集めた。						
【中期計画記載事項】特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (東京国立博物館)年3～4回程度								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 3カ国の国立博物館が合同で実施する初めての国際共同企画展という極めて意義深い展覧会を開催することができたため。						

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (5/7)							
【年度計画】								
オ 「日本国宝展」(10月15日～12月7日) 大切に継承されてきた「信ずるもの」の評価の結晶こそが「国宝」であると考え、国宝によって日本文化形成の精神をたどる。(目標来館者数35万人)								
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	広報室長 伊藤信二					
【実績・成果】								
・展覧会名 「日本国宝展」								
・会 期 26年10月15日(水)～12月7日(日)(47日間)								
・会 場 平成館 特別展示室第1～4室								
・主 催 東京国立博物館、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション								
・協 賛 損保ジャパン日本興亜、大伸社、日本通運、みずほ銀行								
・作品件数 130件(うち、国宝119件、正倉院宝物11件)								
・来館者数 386,708人(目標350,000人・達成率110.5%)								
・入場料金 一般1,600円(1,400円／1,300円)、大学生1,200円(1,000円／900円)、高校生900円(700円／600円) 中学生以下無料 * ()内は前売り／20名以上の団体料金								
・アンケート結果 満足度70%								
類い稀な国の宝としての「国宝」を人々の篤い信仰心が結実した文化的遺産として捉え、日本文化形成の精神を見つめ直し、日本文化の粋の結集を提示することができた。								
【補足事項】								
								
								
展覧会風景								
								
ポスター								
【定量的評価】項目	26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
来館者数	386,708人	350,000人	B		—	—	—	—
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 所期の目標来館者数を達成することができ、かつ様々な分野の国宝によって、日本文化の信仰心がいかに表現されたかを広く提示することができたため。						
【中期計画記載事項】特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (東京国立博物館)年3～4回程度								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 所期の目標の来館者数を達成し、かつ「信じる」というテーマ設定により、質の高い展示ができたため。						

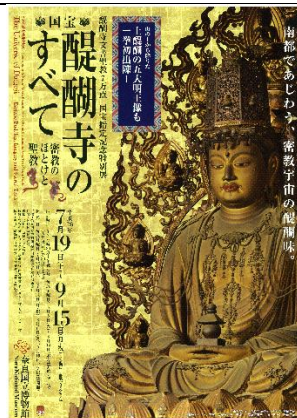
中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (6/7)							
【年度計画】								
カ 特別展「みちのくの仏像」(平成27年1月14日～4月5日) 東京において、東北の優れた仏像がまとめて展示される初めての展覧会とする。(目標来館者数14万人)								
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部列品管理課平常展調整室長 丸山士郎					
【実績・成果】								
・展覧会名 特別展「みちのくの仏像」 ・会 期 27年1月14日(水)～4月5日(日)(73日間) ・会 場 本館 特別5室 ・主 催 東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション、読売新聞社 ・後 援 文化庁、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県 ・協 賛 大伸社 ・協 力 あいおいニッセイ同和損害保険 ・作品件数 19件(うち、国宝1件、重要文化財8件) ・来館者数 179,521人(目標140,000人・達成率128.2%) ・入場料金 一般1,000円(900円)、大学生700円(600円)、高校生400円(300円)、中学生以下無料 *()内は前売り/20名以上の団体料金 ・アンケート結果 満足度79% 「東北の三大薬師」とも称される、黒石寺・双林寺・勝常寺に伝わる薬師如来像が一堂に会して展示されるなど、東京において東北の仏像に的を絞って展示する初めての機会となり、東北の優れた仏像の特色を魅力的に示すことができた。								
【補足事項】								
 展覧会風景  ポスター								
【定量的評価】項目	26年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	22	23	24	25
来館者数	179,521人	140,000人	A		—	—	—	—
【年度計画に対する総合評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 目標を上回る来館者数を達成し、かつ東京ではじめて東北地方の仏像をまとめて鑑賞できる貴重な機会を提供でき、東北の仏像の魅力を示せたため。						
【中期計画記載事項】特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (東京国立博物館)年3～4回程度								
【中期計画に対する評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 東北の優れた仏像を東京で初めて、まとめて展示したことで、その特色を十全に示すこととなり、さらに今後の東北地方の仏像研究に資することとなったため。						

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (7/7)							
【年度計画】 (東京国立博物館) (年度計画外に実施) 特別展「3.11大津波と文化財の再生」 (平成27年1月14日～3月15日) 東日本大震災における被災文化財の再生の取り組みの成果とその現状を紹介する。								
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部保存修復課長 神庭信幸					
【実績・成果】 ・展覧会名 特別展「3.11大津波と文化財の再生」 ・会 期 27年1月14日(水)～3月15日(日)(53日間) ・会 場 本館 特別2室・特別4室 ・主 催 東京国立博物館、津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト実行委員会 ・作品件数 73件(うち、登録有形民俗文化財4点) ・来館者数 この特別展は会場が平常展の一部で別途カウントを行っていない。 参考値：78,615人(開催期間中の平常展来館者数) ・アンケート結果 満足度59% 当館が、陸前高田市立博物館、岩手県立博物館やその他の機関と協力し、被災文化財の再生に取り組んできた約4年にわたる成果と現状を、修理に関わる具体例とともに示すことができた。								
【補足事項】 本展は本年に入り、被災文化財レスキュー活動の一定の成果が蓄積され、展示できることとなり、活動の意義、必要性を広く周知するため、当初年度計画になかったが急遽開催することとなった。								
								
				展覧会風景				
								
				ポスター				
【定量的評価】項目	26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
来館者数(参考値)	78,615人	—	—		—	—	—	—
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 考古資料、歴史資料、仏像、民俗資料、自然史資料など多岐にわたる陳列された再生文化財によって具体的な再生事業を示すことができた。						
【中期計画記載事項】 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (東京国立博物館)年3～4回程度								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 約4年にわたる被災文化財の再生事業について、各関係研究機関と連携して十全に提示できたため。						

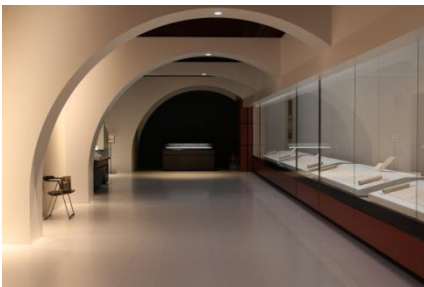
中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (1/2)							
【年度計画】 ア 特別展覧会「南山城の古寺巡礼」(4月22日～6月15日) 京都府南部、木津川流域には奈良時代以来の古い寺院が分布している。この展示ではそれらの古寺に伝来した彫刻や絵画・工芸作品などの名宝を展示し、南山城地域(京都府南部木津川流域)の歴史と文化風土を紹介する。 (目標来館者数5万人)								
担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長兼考古室長 宮川禎一					
【実績・成果】 ・展覧会名 特別展覧会「南山城の古寺巡礼」 ・会 期 26年4月22日(火)～6月15日(日)(49日間) ・会 場 京都国立博物館 明治古都館(本館) ・主 催 京都国立博物館、朝日新聞社 ・後 援 文化庁、京都府、木津川市、京田辺市、井手町、宇治田原町、笠置町、(公財)京都文化交流コンベンションビューロー ・協 賛 岡村印刷工業、きんでん、京阪電気鉄道、竹中工務店、福寿園 ・特別協力 京都南山城古寺の会、飛鳥園 ・協 力 日本香堂 ・作品件数 139件(うち、国宝2件、重要文化財27件) ・来館者数 69,443人(目標50,000人・達成率138.9%) ・入場料金 一般1,500円、大学・高校生900円、中学・小学生500円 ・アンケート結果 満足度92%								
京都市と奈良市に挟まれて従来観光寺院としてはあまり注目されなかった南山城地域の小規模な寺院にスポットを当てた展覧会として、来館者の評価も高く、「現地でお寺を見てみたい」との感想が多く寄せられた。木津川流域の歴史と仏教文化のありかたへの理解が高まった展覧会であると評価できる。								
【補足事項】 京都府南部、木津川流域の古寺の文化財調査を前提とした展示であり、展覧会後に一部作品の寄託を受けるなど、ご所蔵寺院との連携が深まったことも成果のひとつといえる。								
 展覧会風景  展覧会ポスター								
【定量的評価】項目	26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
来館者数	69,443人	50,000人	A		—	—	—	—
【年度計画に対する総合評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 共催新聞社の紙面広報も多数行われて目標来館者数を大きく上回った。同時期の関西地域の仏教彫像関係の展覧会と比較しても第一位の来館者数を数えた。						
【中期計画記載事項】特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (京都国立博物館) 年2～3回程度								
【中期計画に対する評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 南山城地域の古寺に関して3年間にわたる京都国立博物館による文化財調査の結果を展覧会に反映できた。また出陳寺院との信頼関係が生まれて、展覧会後において文化財の一部の寄託を受けることができ、今後の平常陳列にも利用できるようになった。						

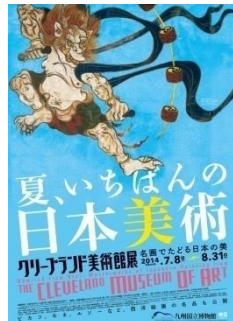
中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (2/2)							
【年度計画】								
イ 特別展覧会「修理完成記念 国宝 鳥獣戯画と高山寺」(10月7日～11月24日) 平成21年から修理が行われていた、国宝「鳥獣人物戯画」4巻(高山寺蔵)の修理が平成25年3月をもって無事終了した。これを記念して修理後の国宝「鳥獣人物戯画」4巻を特別展覧会で一般に公開し、併せて高山寺の名宝の数々を公開する。(目標来館者数10万人)								
担当部課	学芸部		事業責任者		上席研究員兼保存修理指導室長 赤尾栄慶			
【実績・成果】								
・展覧会名 特別展覧会「修理完成記念 国宝 鳥獣戯画と高山寺」								
・会 期 26年10月7日(火)～11月24日(月・休)(43日間)								
・会 場 京都国立博物館 明治古都館(本館)								
・主 催 京都国立博物館、高山寺、朝日新聞社								
・後 援 公益財団法人京都文化交流コンベンションビューロー								
・特別協力 岡墨光堂								
・協 力 朝日放送、日本香堂								
・協 賛 カネカ、京都銀行、きんでん、JR西日本、竹中工務店、凸版印刷								
・作品件数 84件(うち、国宝8件、重要文化財54件)								
・来館者数 203,900人(目標100,000人・達成率 203.9%)								
・入場料金 一般1,500円、大学生1,200円、高校生900円、中学生以下無料								
・アンケート結果 満足度84%								
予備調査や修理を通じて得られた最新の知見を盛り込みながら、鳥獣人物戯画を核として高山寺の名宝の数々を公開し、鎌倉時代を代表する僧明恵や「学問寺」である高山寺の文化財及び中世の日本文化に対する理解を深めることができた。								
【補足事項】								
・国宝「鳥獣人物戯画」4巻(高山寺蔵)の修理の様子や成果をパネルなどによって随所に散りばめ、鑑賞の一助とした。特に、修理過程に発見された料紙の表裏接合の状況に関する新知見を詳細に解説し、文化財修理に対する理解が深まるように配慮した。								
・国宝「鳥獣人物戯画」全巻の本格的な修理終了後、初のお披露目となったことから、連日、多数の来館者で賑わったものの、絵巻物を鑑賞するために長蛇の列ができ、入場制限を実施せざるを得なかった。その結果、連日、長時間の待ち行列が生じたことは、今後に課題を残すこととなった。								
展覧会風景								
ポスター								
【定量的評価】項目	26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
来館者数	203,900人	100,000人	S		—	—	—	—
【年度計画に対する総合評価】 評価：A	【判定根拠、課題と対応】 判定根拠：目標値の倍以上に上る来館者数を達成し、図録販売数(31,366冊)、オーディオガイド利用台数(40,221台)なども大きな伸びを示すなど、全体的に予期した以上の実績を残すことができた。 課題と対応：待ち時間対策に工夫が必要であるため、引き続き検討する。							
【中期計画記載事項】特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (京都国立博物館)年2～3回程度								
【中期計画に対する評価】 評価：A	【判定根拠、課題と対応】 判定根拠：来館者数をはじめとして、目標を大きく上回り、アンケート等でも多大な好評を得た。							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (1/3)							
【年度計画】 ア 特別展「武家のみやこ 鎌倉の仏像―迫真とエキゾチシズム―」(4月5日～6月1日) 鎌倉の地に根づいた仏教文化の中から生まれた迫真性とエキゾチシズムに富んだ魅力ある仏像の数々を―一挙紹介する。(目標来館者数5万人)								
担当部課	学芸部	事業責任者	美術室長兼列品室長 岩田茂樹					
【実績・成果】 ・展覧会名 特別展「武家のみやこ 鎌倉の仏像 迫真とエキゾチシズム」 ・会 期 26年4月5日(土)～6月1日(日)(51日間) ・会 場 奈良国立博物館 東新館・西新館 ・主 催 奈良国立博物館、鎌倉国宝館、読売新聞社 ・後 援 文化庁、NHK奈良放送局、奈良テレビ放送 ・協 力 日本香堂、仏教美術協会 ・協 賛 あいおいニッセイ同和損保、岩谷産業、大伸社、大和ハウス工業、非破壊検査 ・作品件数 53件(うち重要文化財26件) ・来館者数 37,022人(目標50,000人・達成率74.0%) ・入場料金 一般1,300円、高校・大学生800円、小・中学生500円 ・アンケート結果 満足度85% 関西においてはじめて東国の仏教美術の中心地である鎌倉の仏像の代表作を多数展示し、関西とは異なる東国独自のエキゾチックなものへの美意識を紹介できた。仏像を中心に、仏教美術を専門に展示し、その普及に努めている奈良国立博物館として、意義深い展覧会が行えた。								
【補足事項】 ・なかなか見ることのできない仏像が一堂に会していたことがたいへんよかった、あるいは、展示された仏像に迫力と勢いがあり、関西の仏像とは異なるエキゾチックな雰囲気がおもしろかった、という感想がアンケートでは多く寄せられた。 ・近畿圏の仏像愛好家にとって、東国の仏像に対する関心が予想よりも低かったことも来館者数が目標を下回った一因と推察される。								
								
展覧会風景					展覧会チラシ			
【定量的評価】項目	26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
来館者数	37,022人	50,000人	D	—	—	—	—	—
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 来館者数は目標値よりも下回ったが、関西において初めて鎌倉の仏像が一挙多数展示された本展覧会は、仏教美術を専門に展示し、その普及に努めている当館としては意義深く、また来館者アンケートでも好評であったことから充実した展覧会であった。							
【中期計画記載事項】特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (奈良国立博物館)年2～3回程度								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 本展覧会の来館者数は目標値を下回ったが、関西ではじめて東国の中心である鎌倉の仏像に焦点を当てた展覧会を開催できたこと、また来館者アンケートでも好評であったことから我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行えたことは非常に意義深いものである。							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (2/3)							
【年度計画】								
イ 醍醐寺文書聖教7万点 国宝指定記念特別展「国宝 醍醐寺のすべて 一密教のほとけと聖教一」（7月19日～9月15日） 醍醐寺の歴史を伝える古文書・聖教69,378点が国宝に指定されたことを記念し、平安時代から近世に至る醍醐寺の歴史と美術をたどる。（目標来館者数5万人）								
担当部課	学芸部		事業責任者		教育室員 斎木涼子			
【実績・成果】								
・展覧会名 醍醐寺文書聖教7万点 国宝指定記念特別展 「国宝 醍醐寺のすべて一密教のほとけと聖教一」								
・会 期 26年7月19日(土)～9月15日(月・祝) (52日間)								
・会 場 奈良国立博物館 東新館・西新館								
・主 催 奈良国立博物館、総本山醍醐寺、日経新聞社								
・共 催 NHK奈良放送局								
・後 援 文化庁、奈良テレビ放送								
・協 賛 岩谷産業、オリックス、京都銀行、住友林業、ダイキン工業、大和ハウス工業								
・協 力 朝日生命保険、日本香堂、日本通運、仏教美術協会								
・作品件数 192件（うち、国宝62件、重要文化財85件）								
・来館者数 78,476人（目標50,000人・達成率157.0%）								
・入場料金 一般1,500円、高校・大学生1,000円、小・中学生500円								
・アンケート結果 満足度84%								
本展覧会のメインテーマに据えた下記の3つの要素について、展示構成に十分反映させることができ、また観覧者からの評価を得た。								
・従来注目されていなかった醍醐寺と奈良の歴史的結びつきへの着目。								
・単なる名品紹介や時代順展示ではなく、醍醐寺の歴史的特色と役割を明確に打ち出す展示構成。								
・「醍醐寺文書聖教7万点」の実態とその重要性について取り上げ、通常注目されにくい文書聖教を主要な展示作品として扱い、観覧者の興味を引き出した。								
また国宝指定に至る文書聖教の保存と管理の歴史を取り上げ、現在の文化財保存に結びつくテーマにスポットを当てた。								
【補足事項】								
								
展示風景				展覧会ポスター				
【定量的評価】項目	26度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
来館者数	78,476人	50,000人	A	—	—	—	—	—
【年度計画に対する総合評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 単なる寺宝展とは一線を画し、醍醐寺文書聖教の重要性和醍醐寺の歴史を理解できる展示構成を実現し、目標値の1.5倍の来館者数を達成した。						
【中期計画記載事項】特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。								
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (奈良国立博物館)年2～3回程度								
【中期計画に対する評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 長年の調査により25年度に国宝指定された醍醐寺文書聖教を主要テーマとし、通常注目されにくい文書聖教の全体像と歴史的意義を紹介することに成功した。これにより、研究者のみならず一般観覧者からも高い評価を獲得した。						

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (3/3)							
【年度計画】 ウ 特別展「第66回正倉院展」(予定) 正倉院宝庫に伝わる宝物約70件を展示。(目標来館者数18万人)								
担当部課	学芸部		事業責任者		部長 内藤 栄			
【実績・成果】 ・展覧会名 天皇皇后両陛下傘寿記念 「第66回正倉院展」 ・会 期 26年10月24日(金)～11月12日(水)(20日間) ・会 場 奈良国立博物館 東新館・西新館 ・主 催 奈良国立博物館 ・特別協力 読売新聞社 ・協 力 NHK奈良放送局、奈良テレビ放送、日本香堂、仏教美術協会、ミネルヴァ書房、読売テレビ ・協 賛 岩谷産業、NTT西日本、キャノン、京都美術工芸大学、近畿日本鉄道、JR東海、JR西日本、ダイキン工業、大和ハウス工業、白鶴酒造、丸一鋼管 ・作品件数 59件 ・来館者数 269,348人(目標180,000人・達成率149.6%) ・入場料金 一般1,100円、高校・大学生700円、小・中学生400円 ・アンケート結果 満足度69% 天皇皇后両陛下傘寿記念にふさわしい華やかな宝物が出陳され、会期は通常より3日長い20日間開催された。とりわけ、宝庫を代表する名品である鳥毛立女屏風4扇、白瑠璃瓶、桑木阮咸、衾御礼履などが人気を集めた。また、手鉾、銅漆作大刀、無莊刀など古代の武器武具類がまとめて展示され、注目を集めた点は評価される。リピーターの獲得はもちろん、新しい客層の開拓も着実に実を結んでいる。一日平均の来館者数が1万人を優に超える展覧会ながら、大きな混乱はなく、講演会やシンポジウムなどの行事も滞りなく開催された。								
【補足事項】								
								
展示風景					展覧会チラシ			
【定量的評価】項目	26年度実績	目標値	評価	経年 変化	22	23	24	25
来館者数	269,348人 (20日間)	180,000人	A		294,804 (20日間)	239,581 (17日間)	238,019 (17日間)	246,269 (17日間)
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 判定根拠：展示の工夫、題箋や参考パネルのわかりやすさ、適切な照明など、概ね好評であった。また、展示ケース内の環境が良好であり、宝物の保存上も問題なかった。 課題と対応：課題は混雑した会場の整理であるが、臨機に対応して改善することができた。							
【中期計画記載事項】 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (奈良国立博物館)年2～3回程度								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 判定根拠：海外からの集客も増え、国際的にも注目されている。当館が正倉院展を開催する博物館としてのイメージも定着し、秋の奈良の代表行事として定着している。 課題と対応：混雑の緩和と学校教育との連携など教育面に課題があり、引き続き検討したい。							

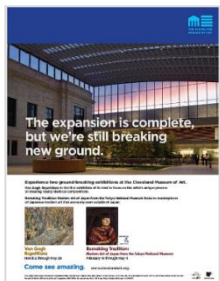
中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (1/5)							
【年度計画】								
ア 特別展「近衛家の国宝 京都・陽明文庫展」(4月15日～6月8日)								
公家を代表する近衛家に伝来した宮廷文化の精華を紹介する。(目標来館者数7万人)								
担当部課	学芸部企画課		事業責任者		文化財課主任研究員 荒木和憲			
【実績・成果】								
・展覧会名 特別展「華麗なる宮廷文化 近衛家の国宝 京都・陽明文庫展」								
・会 期 26年4月15日(火)～6月8日(日) (49日間)								
・会 場 九州国立博物館 特別展示室								
・主 催 九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、TVQ九州放送、公益財団法人陽明文庫								
・作品件数 114件(うち、国宝18件、重要文化財34件、重要美術品13件)								
・来館者数 60,808人(目標70,000人・達成率86.9%)								
・入場料金 一般1,500円、高大生1,000円、小中生600円								
・アンケート結果 満足度 88%								
25年6月に世界記憶遺産に登録された国宝「御堂関白記」の公開を中核とするタイムリーな展覧会である。「御堂関白記」に代表される文書・記録の展示では記憶を後世に伝えることの重要性を、書跡の展示では日本書道史の展開を紹介することができた。また、九州ゆかりの近衛信尹を主要なテーマとして位置づけ、初公開となる作品を紹介することができたのも重要な成果である。								
【補足事項】								
・アンケート結果から、本年度の他の特別展に比べて高校生以下の割合が少なかったことが分かった。このことから、書跡・歴史系の展覧会の魅力を若い世代にまで十分に広報できなかったと分析される。								
・見るだけではなく、実際に貴族が使っていた「つづき字」などをタッチパネルに描く体験コーナー「かな文字をかいてみよう」を設置したところ、体感することで書の楽しさ、難しさを実感してもらうことができる展覧会となった。								
								
					御堂関白記の展示風景			
								
					展覧会ポスター			
【定量的評価】項目	26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
来館者数	60,808人	70,000人	C		—	—	—	—
年度計画に対する総合評価	【判定根拠、課題と対応】							
評価：B	来館者数が目標値の87%であったが、九州において大規模で質の高い書跡・歴史系の展覧会を開催できたことは、大変有意義である。また、アンケート結果によると「とても良かった」が半数を上回る51%、「良かった」が37%となっており、お客様満足度が非常に高いことから大変充実した展覧内容だったと言える。							
【中期計画記載事項】特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。								
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。								
(九州国立博物館)年2～3回程度								
中期計画に対する評価	【判定根拠、課題と対応】							
評価：B	国宝「御堂関白記」の世界記憶遺産登録記念を冠する本展覧会は時宜を得たものである。展示作品は質の高い作品ばかりで、来館者の鑑賞時間が長い傾向が認められた。							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (2/5)							
【年度計画】								
イ 特別展「クリーブランド美術館展 ー名画でたどる日本の美ー」(7月8日～8月31日) 平安～明治時代の日本の絵画40数点を通して、日本の美術の流れと魅力をたどる。(目標来館者数5万人)								
担当部課	学芸部企画課		事業責任者		研究員 鷲頭 桂			
【実績・成果】								
・展覧会名 特別展「クリーブランド美術館展 ー名画でたどる日本の美ー」 ・会 期 26年7月8日(火)～8月31日(日) (49日間) ・会 場 九州国立博物館 特別展示室 ・主 催 九州国立博物館・福岡県、クリーブランド美術館、西日本新聞社、TVQ九州放送、テレビ西日本 ・作品件数 51件 ・来館者数 70,794人(目標50,000人・達成率141.5%) ・入場料金 一般1,400円、高大生1,000円、小中生600円 ・アンケート結果 満足度 86% 世界有数の東洋美術コレクションを所蔵するクリーブランド美術館の名品を、九州で初めて紹介した。これまで日本で紹介される機会が少なく、地名や所蔵品の九州における知名度の低さが懸念されたため、展示・照明・解説を工夫し、効果的な広報を行った。同時期に開催した「海を越えた再会ークリーブランド美術館の仲間たち」も好評を得た。								
【補足事項】								
・クリーブランド美術館に現在所蔵されている日本美術と、かつて一揃えだった日本国内の作品を集め、特別展と同時期に、文化交流展示(平常展示)で「海を越えた再会ークリーブランド美術館の仲間たち」と題して展示した。これにより、特別展来場者の54%が文化交流展示も見学した。近年の特別展では40%前後であるため、通常よりも多くの方に来場いただくことができた。 ・教育普及の観点から、会場内の題箋やパネルの文言、デザインを工夫した。子どもや大人の来場者に読みやすく、理解を深める内容となった。 ・クリーブランド美術館の所蔵品について、同館及び東京国立博物館と継続して研究を進める協力関係を築いた。 ・展覧会会期中、講演会や紙面連載、テレビ出演、動画公開など、展示室以外でも展覧会の魅力を伝えることに努めた。								
								
展覧会風景				ポスター				
【定量的評価】項目	26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
来館者数	70,794人	50,000人	S		—	—	—	—
【年度計画に対する総合評価】 評価：S		【判定根拠、課題と対応】 迫力のあるポスターデザイン、多彩な広報展開、教育普及事業などを通じて、集中豪雨の続いた天候不順の時期であったにもかかわらず目標を上回る来場者数を得ることができ、高い満足度を得た。						
【中期計画記載事項】特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (九州国立博物館) 年2～3回程度								
【中期計画に対する評価】 評価：S		【判定根拠、課題と対応】 所期目標の50,000人に対して、141%の70,794人の来館者があり、好評を得た。また、特別展に合わせて文化交流展示(平常展示)で関連展示を行ったため、特別展と文化交流展示の両方を観覧した来場者が54%に上った(通常は40%前後)。						

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (3/5)							
【年度計画】								
ウ 特別展「台北 國立故宮博物院 ー神品至宝ー」(10月7日～11月30日) 台北故宮博物院所蔵の優れた文化財を通して、中国文化の特質や素晴らしさを紹介する。(目標来館者数15万人)								
担当部課	学芸部企画課			事業責任者	文化財課資料管理室主任研究員 畑靖紀			
【実績・成果】								
・展覧会名 特別展「台北 國立故宮博物院 ー神品至宝ー」								
・会 期 26年10月7日(火)～11月30日(日) (51日間)								
・会 場 九州国立博物館 特別展示室								
・主 催 九州国立博物館・福岡県、東京国立博物館、國立故宮博物院、西日本新聞社、NHK福岡放送局、NHKプラネット九州、読売新聞社、産経新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、RKB毎日放送、TVQ九州放送								
・作品件数 110件								
・来館者数 256,070人(目標150,000人・達成率170.7%)								
・入場料金 一般1,600円(1,400円)、高大生900円(700円)、小中生400円(200円) *()内は前売り／20名以上の団体料金								
・アンケート結果 満足度 79%								
中国皇帝コレクションを受け継ぐ世界的な博物館の名品を、東京国立博物館とともに、アジアで初めて紹介した。中国文明を総体的に紹介するために多様な分野の作品を公開し、その照明・解説などの展示方法を工夫して好評を得た。注目度の高い展覧会だったため、展示の期間や内容を様々な媒体を通じて告知し、効果的な広報を行った。								
【補足事項】								
・日本で初めて開催する、本格的な台北故宮展であった。								
・台北故宮の代表的な作品である、汝窯の青磁や肉形石等、貴重な文物を110件出陳することができた。								
・注目度の高い展覧会だったため、新聞、テレビほか交通広告等、多彩な広報を展開し、多くの来場者を迎えることができた。								
・修学旅行の多い秋期の開催であることから、小中学生向けの無料ガイドブックを作成し、配布した。幅広い層に受け入れられる展示となった。								
								
展示風景					展覧会ポスター			
【定量的評価】項目	26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
来館者数	256,070人	150,000人	S		—	—	—	—
【年度計画に対する総合評価】 評価：S		【判定根拠、課題と対応】 中華文明の神髄であり、人類の至宝とも呼ぶべき台北故宮の所蔵品の数々を、日本で初めて出陳することができた。多彩な広報活動を展開して陳列品に関する周知を徹底させ、所期目標を大幅に超える来館者を迎えることができた。						
【中期計画記載事項】特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (九州国立博物館)年2～3回程度								
【中期計画に対する評価】 評価：S		【判定根拠、課題と対応】 日本初の台北故宮展であるこの展覧会では、同館の代表的な作品を数多く九州で紹介することができ、陳列品の品質としても来館者数の数値としても、目標を大きく超える成果を上げることができた。また、2016年の台北故宮での交換展につなげることができた。						

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信									
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (4/5)									
【年度計画】										
エ 特別展「古代日本と百済の交流 ー大宰府・飛鳥そして公州・扶余ー」(平成27年1月1日～3月1日) 日本の古代文化と百済の関わりについて、交流の歴史を紹介する。(目標来館者数3万人、オと一体でカウント)										
担当部課	学芸部企画課		事業責任者		展示課主任研究員 岸本 圭					
【実績・成果】										
・展覧会名 特別展「古代日本と百済の交流 ー大宰府・飛鳥そして公州・扶余ー」										
・会 期 27年1月1日(木・祝)～3月1日(日) (52日間)										
・会 場 九州国立博物館 特別展示室										
・主 催 九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、TVQ九州放送										
・特別協力 国立公州博物館、国立扶余文化財研究所、太宰府天満宮										
・作品件数 74件(うち、国宝4件、重要文化財5件、重要美術品2件、韓国国宝2件、韓国宝物1件)										
・来館者数 59,629人(目標30,000人・達成率198.7%)										
・入場料金 一般1,400円、高大生1,000円、小中生600円(「発掘された日本列島2014」展と共通チケット)										
・アンケート結果 満足度 87%										
本年は日韓国交正常化50周年にあたり、両国の国宝を含め、古代日本と百済との交流を物語る代表的な作品を数多く展示し、両国相互の文化理解に貢献した。また、期間限定ではあるが、門外不出とされる石上神宮の国宝「七支刀」を展示することができた。										
【補足事項】										
										
国宝七支刀展示風景					展覧会ポスター					
【定量的評価】項目	26年度実績		目標値		評価	経年変化	22	23	24	25
来館者数	59,629人		30,000人		S		—	—	—	—
【年度計画に対する総合評価】 評価：S	【判定根拠、課題と対応】 目標値の約2倍となる来館者数があり、とても注目度の高い展示会となった。また、来館者アンケートによると、展示内容に関して「とても良かった」が45%、「良かった」が36%であり、8割以上の来館者から良いとの評価を得た。 また、門外不出とされる石上神宮の国宝「七支刀」を展示することができ、好評を博した。									
【中期計画記載事項】特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (九州国立博物館)年2～3回程度										
【中期計画に対する評価】 評価：A	【判定根拠、課題と対応】 所期目標30,000人に対して198%の来館者があり、予想を遥かに超える反響であった。この展覧会を通して次年度の特別展「美の国日本」でも韓国との連携をつなげることができた。さらに本年は、日韓国交正常化50周年にあたり、また水城・大野城・基肄城築造1350年記念といった節目の年であったことから、非常にタイムリーな展覧会として来館者の知的好奇心を刺激できた展覧会だったと言える。									

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (5/5)							
【年度計画】								
オ 特別展「発掘された日本列島2014」(平成27年1月1日～3月1日)								
近年発掘された埋蔵文化財を中心に、20年の成果を展示する。(目標来館者数3万人、エと一体でカウント)								
担当部課	学芸部企画課		事業責任者		展示課主任研究員 進村 真之			
【実績・成果】								
・展覧会名 特別展「日本発掘 発掘された日本列島2014」 ・会 期 27年1月1日(木・祝)～3月1日(日) (52日間) ・会 場 九州国立博物館 特別展示室 ・主 催 九州国立博物館、文化庁、東北歴史博物館、東京都江戸東京博物館、堺市博物館、長野市立博物館 ・作品件数 960件(うち、重要文化財47件) ・来館者数 59,629人(目標30,000人・達成率198.7%) ・入場料金 一般1,400円、高大生1,000円、小中生600円(「古代日本と百済の交流展」と共通チケット) ・アンケート結果 満足度 87%								
全国の主だった遺跡の出土品を集め展示し、それぞれの発掘調査の成果を広く来館者に知ってもらう機会を提供した。特に、九州内の遺跡から出土した重要文化財を一挙に見ることができる大変貴重な機会を提供できた。								
【補足事項】								
・展示室内で、考古学者が使用するメモ帳「野帳」に焦点を当て、展示作品が出土した遺跡で実際に使われた野帳を6冊紹介した。併せて、当館考古担当者の野帳も展示した。 ・小学生を対象としたワークショップ「なりきり考古学者 スペシャルバージョン」を2回実施。大宰府政庁跡で、考古担当研究員が指導して平板測量を行った。 ・野帳展示に関連して、コクヨ(株)が販売している測量野帳のオリジナルデザインをコクヨとのタイアップで製作し、販売した。デザインは九州地方に多く分布する装飾古墳の文様をモチーフとした。 ・併せて、装飾古墳の文様をあしらったマスキングテープの製作、販売も行った。								
								
展覧会風景								
展覧会ポスター								
【定量的評価】項目	26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
来館者数	59,629人	30,000人	S		—	—	—	—
【年度計画に対する総合評価】		【判定根拠、課題と対応】						
評価：B		最新の科学的な調査を行うとともに、無機質になりがちな展示室に現場の「野帳」を展示することによって来館者からも評価を得た。						
【中期計画記載事項】特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。								
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。								
(九州国立博物館)								
年2～3回程度								
【中期計画に対する評価】		【判定根拠、課題と対応】						
評価：B		特別展については、計画通り順調に開催を行っている。特に教育普及に力を入れた取り組みを実践していることが来館者からの評価を得ることにつながっており、今後も継続していきたい。						

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ③ 海外展							
【年度計画】 (東京国立博物館) 1)海外展「伝統の再創造：日本の近代美術」(平成26年2月16日～5月11日) 会場：クリーブランド美術館 (米国) 東京国立博物館の近代美術作品により、日本近代美術を伝統の再創造という観点で紹介する。								
担当部課	学芸企画部企画課		事業責任者		特別展室長 松嶋雅人			
【実績・成果】 ・展覧会名 海外展「伝統の再創造：東京国立博物館所蔵 日本の近代美術」 Remaking Tradition: Modern Art of Japan from the Tokyo National Museum ・会 期 26年2月16日(日)～5月11日(日)(72日間) ・会 場 アメリカ・クリーブランド美術館ケルビン&エレノア・スミス財団展示ホール ・主 催 クリーブランド美術館、東京国立博物館 ・作品件数 55件(うち、重要文化財6件) ・来館者数 37,648 人 東京国立博物館所蔵の絵画、書跡、彫刻、工芸の近代美術作品の優品を通して、東洋の古典的主題の新たな表現や、西欧から学んだ技術の受容の様相、そして風景画(山水画)が洗練され、花鳥画が再構築されたことなど、近代日本において造形文化の伝統が「再創造」されたことを示すことができた。								
【補足事項】   展覧会風景  チラシ								
【定量的評価】項目	26年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	22	23	24	25
来館者数	37,648人	—	—		—	—	—	—
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 開催館における企画展では近年類のない来館者数を集め、大変高い評価を得たため。						
【中期計画記載事項】 海外からの要請等に応じて、海外において展覧会等を行うことにより、日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 アメリカにおいて広く、日本の優れた文化財をもとにした近代の文化を紹介することができたため。						

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 教育活動の充実 ①学習機会の提供(1/3)							
【年度計画】								
(4 館共通)1) (略)								
(東京国立博物館)1) 日本の歴史・文化及びアジア諸地域の歴史・文化の理解促進を図るための教育普及の先導的事業を実施する。本館地下、本館19室、東洋館2室、6室等を教育普及スペース「みどりのライオン」と位置づけ、適宜、小講堂やミュージアムシアター等も活用し、内容に応じた環境を設定しながら事業を展開する。								
○ファミリー向け教育普及的展示企画「親と子のギャラリー」の実施								
・特集「親と子のギャラリー 仏像のみかた鎌倉時代編」(6月10日～8月31日)								
○教育的展示及びイベント「博物館でお花見を」(平成26年3月18日～4月13日)を実施する。								
○体験型プログラムの実施								
・特集「親と子のギャラリー 仏像のみかた鎌倉時代編」など、総合文化展(平常展)に関連した一般向け及びファミリー向けのギャラリートークや体験型プログラムを実施する。								
・本館19室・本館地下教育普及スペース・東洋館オアシスで展開する教育普及スペースで、ワークショップやハンズオンアクティビティなどの体験型プログラムを実施する。								
・お花見企画「博物館でお花見を」、正月企画「博物館に初もうで」に関連して、ワークシートを用いた体験型プログラムを実施する								
2) 3) (略)								
担当部課	学芸企画部博物館教育課		事業責任者		教育普及室長 小山弓弦葉			
【実績・成果】(東京国立博物館)								
1) 総合文化展の状況に応じ歴史・文化の理解促進を目的とした教育普及事業を展開した。								
・総合文化展鑑賞の手がかりとして、展示や作品に関連した企画を通じ、伝統文化への興味関心を高めることができた。								
・4月16日から本館19室に「みどりのライオン 体験コーナー」を開設。伝統模様のスタンプでポストカードを作る「トーハクでデザイン」、制作工程や技法がわかる「トーハクで○○ができるまで」、e 国宝がさらに使いやすくなった「トーハクで国宝をさぐろう」、3D の作品画像を自由に動かす「トーハクをまわそう」の5つの体験コーナーができた。								
・本館地下、東洋館2室、6室、ミュージアムシアターや小講堂において、体験型プログラム、ギャラリートーク、ワークショップ等を行った。								
○ファミリー向け教育普及的展示として、特集「親と子のギャラリー 仏像のみかた鎌倉時代編」(6月10日～8月31日)を実施し、仏像鑑賞に必要なキーワードをトピックスに、分かりやすく伝えることができた。また、特集「熊めぐり」(4月22日～6月1日)を実施し、熊をテーマにした文化財ならびに、国立科学博物館、恩賜上野動物園から借用した資料をもとに、熊をめぐる文化史や生態についてわかりやすく伝えることができた。								
○「博物館でお花見を」に関連し、鑑賞ガイド、桜セミナー、ボランティアによるガイドツアー及び体験型プログラムを実施した。								
○体験型プログラムの実施								
・総合文化展関連ワークショップ及び関連事業 25回 1,721人								
・博物館でアジアの旅に関連し、「アジアンぬりえ」(10月4・5・11・12日/329人)、「着てみて! ポーズ 中国・韓国の伝統衣装」(9月30日～10月13日/868人)を実施した。また、東洋館2室で体験型プログラム「旅の案内所」、6室で体験型プログラム「アジアの占い体験」を通年実施した。								
・「博物館でお花見を」に関連し「ぬり絵 日本のデザイン、色づかい」(3月29・30日、4月5・6日/684人)、「桜スタンプラリー」(3月18日～4月13日/12,489人)、「花見で一句」(3月18日～4月13日/285人、うち6人が入選)を実施した。正月企画「博物館に初もうで」関連のワークシートを用いたアクティビティ「トーハク羊めぐり」(27年1月2日、3日/5,500人)を実施した。								
○特別展の鑑賞手引きとしてジュニアガイドの制作、配布を行った。								
【補足事項】(東京国立博物館)								
○体験型プログラム								
・東洋館でのアクティビティ「アジアの占い体験」通年34,944人								
・本館19室みどりのライオン体験コーナー 通年197,544人								
								
体験型プログラム 「アジアの占い体験」 (東洋館6室)								
【定量的評価】項目	26 年度実績	目標値	評価	経年 変化	22	23	24	25
—	—	—	—	—	—	—	—	—
【年度計画に対する総合評価】 評定: B		【判定根拠、課題と対応】 全観覧者向け、ファミリー向け、親子向けなどさまざまな対象に向けたプログラムを展開し、幅広い層に楽しむ機会を提供することができた。						
【中期計画記載事項】学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。								
【中期計画に対する評価】 評定: B		【判定根拠、課題と対応】 順調。幅広い層へ機会提供し、目標を達成できた。						

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 教育活動の充実 ①学習機会の提供(2/3)								
【年度計画】 (4館共通) 1)キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施する。 (東京国立博物館) 1)(略) 2)学校との連携事業を推進する。 ・スクールプログラム(鑑賞支援・体験型プログラム等)を継続して実施する(小・中・高校生対象)。 ・職場体験の受け入れを継続して行う(中・高校生対象)。 ・全国高等学校美術・工芸教育研究会所属教員のための研修を継続して実施する。 ・教員鑑賞会・ガイダンスを継続して実施する。 3)(略)									
担当部課	総務部総務課 学芸企画部博物館教育課	事業責任者	課長 竹之内勝典 教育普及室長 小山弓弦葉						
【実績・成果】 (4館共通) 1)国立博物館と大学等との連携を図り、歴史・伝統文化に対する理解促進に寄与し、博物館が所蔵する文化財を核とした学ぶ場を提供することができた。加入校数44校、団体利用を含み28,700名の学生・教員が本制度を利用し入館した。 (東京国立博物館) 2)学校との連携事業を計画通り実施した。 ・スクールプログラムを実施し、児童生徒に対し目的、学年、人数などに応じたプログラムを提供することで、充実した鑑賞体験の提供に寄与した。また、伝統文化への興味関心を高め、理解を促した。なお、一部をボランティアにより実施した(詳細は処理番号2221-1参照)。 ・職場体験として、19校63人を受け入れた。 ・全国高等学校美術・工芸教育研究会所属教員のための研修(共催：東京藝術大学)を26年7月30日～8月1日の3日間開催し、41名が参加した。展示のみならず博物館への理解を深め、学校団体での博物館利用について検討するきっかけとなる研修を提供した。 ・教員鑑賞会・ガイダンスを3回実施し、計469人が参加した。 ○「盲学校のためのスクールプログラム」を3校17人に対して実施した。									
【補足事項】 1)学生向けの広報を充実させるとともに、10月9,10日に若者向けイベント「博物館で野外シネマ」を行ったことにより、キャンパスメンバーズ加入校の入館者数が大幅に増加した。 2)スクールプログラムでは、ガイダンス、鑑賞支援プログラム、体験型プログラムなど11のコースを設け、169校5,594人に対して実施した。また、大学生、専門学校生及び教育関連機関の見学対応を、12校254人を対象に行った。 ○本館1階リニューアルオープンに伴い、展示室に近い本館地下にレクチャースペース、ワークショップスペースを設けることができた。近年増加している数名から40名程度の学校団体での利用時に、規模に適した対応が可能となった。									
									
スクールプログラム 「はじめての東博」実施の様子 (本館地下教育スペース)									
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
キャンパスメンバーズ加入校数		44校	—	—		35	37	38	43
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 従来の事業を進めるとともに、学校連携では盲学校との連携も始めるなど、着実に成果を伸ばしつつある。							
【中期計画記載事項】学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 順調。研究の成果による新たなプログラムの開始を含め、成果をあげている。							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 教育活動の充実 ①学習機会の提供(3/3)								
【年度計画】 (4館共通)1) (略) (東京国立博物館)1)2) (略) 3)文化財について分かりやすく理解するためのギャラリートーク・月例講演会・記念講演会・連続講座・教育普及イベント等を継続して実施する。 (講演会等の目標) 参加者数計7,830人(実施回数計77回) ・講演会 参加者数3,500人(実施回数20回) ・ギャラリートーク等 参加者数4,000人(実施回数55回) ・連続講座 参加者数 250人(実施回数 1回) ・公開講座 参加者数 80人(実施回数 1回)									
担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	教育講座室長 浅湊毅						
【実績・成果】(東京国立博物館) 3)文化財について分かりやすく理解するためのギャラリートーク・月例講演会・記念講演会・連続講座を継続して実施した。総参加者数 計 14,419 人(実施回数 計 127 回) ・講演会 参加者数 6,735 人(実施回数 30 回) うち月例講演会 1,893 人(12 回)、記念講演会 3,651 人(13 回)、テーマ別講演会 1,096 人(4 回)、その他講演会 95 人(1 回) ・ギャラリートーク等 参加者数 7,326 人(実施回数 94 回)(26 年 4 月より列品解説をギャラリートークに名称変更した。) ・連続講座 参加者数 320 人(実施回数 1 回) ・公開講座 参加者数 38 人(実施回数2回)									
【補足事項】 ・その他展示に関連する事業18回・817人 恩賜上野動物園・国立科学博物館連携事業 1回 45人 博物館でアジアの旅関連イベント 8回 772人 特別展「3・11大津波と文化財の再生」関連イベント 9回 ※講演会等の参加者数が目標値を大幅に上回った理由 ギャラリートークは会場の広さと作品の見やすさから 1 回 50 人程度の参加者数を想定したが、テーマや作品が来館者のニーズに非常によく合致したこと、また、年度計画にはなかった特別展開関連ギャラリートーク(台北故宫展 3 回、3・11 大津波と文化財の再生 1 回)、本年度から開始した「博物館でアジアの旅」関連東洋館スペシャルツアー(9 回)の実施も参加者数増加につながった。 講演会においても記念講演会は 250 名、月例講演会は 100 名の参加者数を想定していたが、来館者の興味要望に合致したものが多かったため、ほとんどの講演会において想定を上回る参加者数となった。 ※公開講座(保存修復ツアー)の参加者数が目標値を下回った理由 年度計画策定後に参加人数の見直しを行い、実際の修復現場に入ることに伴う事故の防止及び修復専門スタッフとお客様との交流の充実を図るため、1 回の定員数を80名から20名へ変更した。その代わり実施回数を1回から2回に増やした。									
									
ギャラリートークの様子 (26年4月、会場：本館18室)									
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価		22	23	24	25
うち	講演会等の参加者数	14,419 人	7,830 人	A	経 年 変 化	13,319	12,664	13,193	15,777
	実施回数	127 回	77 回	A		126	112	126	131
	講演会参加者数	6,735 人	3,500 人	A		9,290	8,224	6,952	7,184
	実施回数	30 回	20 回	A		39	32	31	30
	ギャラリートーク参加者数	7,326 人	4,000 人	A		3,659	3,963	5,805	8,205
	実施回数	94 回	55 回	A		83	76	90	98
	連続講座参加者数	320 人	250 人	A		278	380	303	354
	実施回数	1 回	1 回	B		1	1	1	1
	公開講座参加者数	38 人	80 人(40 人)	D(C)		92	97	133	34
	実施回数	2 回	1 回(2 回)	A(B)		3	3	4	2
【年度計画に対する総合評価】		【判定根拠、課題と対応】							
評定：B		順調。一部予定変更があったが、全体としては目標通り事業を達成した。							
【中期計画記載事項】学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。									
【中期計画に対する評価】		【判定根拠、課題と対応】							
評定：B		順調。目標通り事業を達成した。							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 教育活動の充実 ①学習機会の提供		
【年度計画】 (4館共通) 1) キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施する。 (京都国立博物館) 1) 展覧会内容および展示作品への理解を深めるための事業を実施する。 ・「土曜講座」など各種の講座を実施する。 ・展覧会鑑賞ガイド・ワークシートなどを発行する。 ・小中学生向けワークショップ「少年少女博物館くらぶ」を実施する。 ・小中学生向けワークシートを発行する。 ・分かりやすい展示作品解説シート「博物館Dictionary」を発行し配信する。 2) 歴史及び文化財への理解促進を図るために教育普及事業を実施する。 ・テーマを定めた一般向けの連続講座として「夏期講座」などを開講する。 ・京都市内の小中学生を対象とする訪問授業「文化財に親しむ授業」を実施する。 ・文化財への関心を高めるワークショップなどを実施する。 3) 教育諸機関との連携事業を推進する。 ・京都市内4美術館・博物館(京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都文化博物館、京都市美術館)で組織する「京都市内4館連携協力協議会」での連携協力として「京都ミュージアムズ・フォー連携講座」を開催する。 ・教員のための講座を開講する。 (講演会等の目標) 参加者数計3,120人(実施回数計22回) ・記念講演会 参加者数 160人(実施回数 1回) ・土曜講座 参加者数 2,800人(実施回数20回) ・夏期講座 参加者数 160人(実施回数 1回(3日間)) ・「京都ミュージアムズ・フォー連携講座」 参加者数 120人(実施回数 1回)(土曜講座の内数)			
担当部課	学芸部 総務課	事業責任者	教育室長 山川 暁 総務課長 植田義雄
【実績・成果】(4館共通) 1) キャンパスメンバーズを継続し、大学と連携(29校)した。 (京都国立博物館) 1) ・「記念講演会」(1回・193人)・「土曜講座」(31回・3,888人)を実施した。 ・展覧会の「鑑賞ガイド」(国宝・鳥獣戯画と高山寺、140,000部)を発行した。 ・「少年少女博物館くらぶ」(2回・57人)を開催した。 ・小中学生向け「ワークシート」(南山城のみほとけめぐり、50,000部)を発行した。 ・「博物館Dictionary」(4回、8,000部)を発行した。 2) ・「夏期講座(古社寺と文化財Ⅱ)」(1回・206人)を開催した。 ・「文化財に親しむ授業」(9回・581人)を実施した。 ・東日本復興支援の「こども☆ひかりプロジェクト」に参加しワークショップを行った。(2回・620人) ・国際研究セミナー「日仏漆芸交流史を学ぶ」(1回・75人)を開催した。 3) ・「京都ミュージアムズ・フォー連携講座」(1回・113人)を土曜講座と合同で開催した。 ・「社会科教員のための向上講座」(1回・66人)を実施した。			
【補足事項】 ・講座・講演会は、新しくオープンした平成知新館講堂にて実施した。土曜講座は26年度末で1,778回を数える歴史ある普及活動で、参加者の高い評価を得ている。夏期講座は遠方からの聴講者も多く、見学会と合わせて好評を博している。 ・子ども向けのワークシートや博物館Dictionaryは、大人にも入門的な解説書として好評で、モニターアンケートでも評価が高かった。 ・前年度に引き続き、東日本復興支援の「こども☆ひかりプロジェクト」に参加し、仙台にてワークショップを実施した。地元の大学生と連携して実施することで、単発的な復興支援ではなく、継続的に「地域間の交流」や「若者の成長」を促す場を設ける活動としても意義深いものとなった。 ・年度計画にはなかったが、科学研究費補助対象、若手(A)「内外伝世品の調査ならびに比較に基づく京都蒔絵歴史的研究」の成果として、国際研究セミナー「日仏漆芸交流史を学ぶ」を開催した。 ・平成知新館開館に伴い、9月～11月初旬の土曜講座(7回)が想定より多く開催された。			



「こども☆ひかりプロジェクト」
ワークショップの様子



「こども☆ひかりプロジェクト」
ワークショップの様子

【次ページへ続く】

【定量的評価】項目			26年度実績	目標値	評価		22	23	24	25
講演会等の参加者数			4,596人	3,120人	A	経年変化	2,313	1,450	3,150	2,062
実施回数			36回	22回	A		17	15	19	21
うち土曜講座	参加者数	3,888人	2,800人	A	2,076		1,199	2,682	1,257	
	実施回数	31回	20回	A	15		13	16	10	
うち記念講演会	参加者数	193人	160人	A	—		—	215	190	
	実施回数	1回	1回	B	—		—	1	1	
うち夏期講座	参加者数	206人	160人	A	205		193	213	219	
	実施回数	1回	1回	B	1		1	1	1	
うち社会科教員のための向上講座	参加者数	66人	—	—	32		58	40	30	
	実施回数	1回	—	—	1		1	1	1	
セミナー・シンポジウム等	参加者数	243人	—	—	—		—	—	—	
	実施回数	2回	—	—	—		—	—	—	
うちギャラリートーク	参加者数	—	—	—	—		—	—	366	
	実施回数	—	—	—	—		—	—	8	
「京都ミュージアムズ・フォー連携講座」 (土曜講座の内数)	参加者数	113人	120人	C	—		158	119	157	
	実施回数	1回	1回	B	—		1	1	1	
-----			-----	-----	-----		-----	-----	-----	-----
少年少女博物館くらぶ	参加者数	57人	—	—	20		75	85	68	
	実施回数	2回	—	—	1		2	2	2	
文化財に親しむ授業	参加者数	581人	—	—	406		552	613	435	
	実施回数	9回	—	—	5		7	8	7	
ワークショップ（こどもひかり）	参加者数	620人	—	—	—		—	—	1,300	
	実施回数	2回	—	—	—		—	—	2	
-----			-----	-----	-----		-----	-----	-----	-----
ワークシート・鑑賞ガイド	発行部数	190,000部	—	—	15,000		30,000	110,000	20,000	
	発行回数	2回	—	—	1		1	3	1	
博物館Dictionary	発行部数	8,000部	—	—	5,000		5,000	5,000	7,000	
	発行回数	4回	—	—	1		1	1	2	
【年度計画に対する総合評価】 評定：A			【判定根拠、課題と対応】 平成知新館の開館に伴って講堂を活用し、講演会には目標値以上の参加者数があった。さらにセミナーやシンポジウムなど、国外からも研究者を招聘した専門性の高い会合を開くことができた。							
【中期計画記載事項】学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。										
【中期計画に対する評価】 評定：B			【判定根拠、課題と対応】 外部機関と連携協力しながら、各種の学習機会を提供することができた。							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 教育活動の充実 ①学習機会の提供(1/2)							
【年度計画】 (4館共通) 1) キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施する。 (奈良国立博物館) 1) 小中学校との連携 ・奈良県内の小中学校にメールマガジンを配信する。 ・奈良市内の公私立小中学校に博物館だよりを送付する。 ・奈良市内の小学校5年生を中心に、幼稚園児から中学3年生までを対象に奈良市教育委員会と連携して世界遺産学習を実施する。 ・奈良市内の小学校6年生を対象に、奈良市教育委員会と連携して正倉院展見学を実施する。 ・中学生の職場体験学習を受け入れる。 2) (略) 3) 奈良市教育委員会と連携して教員の研修を受け入れる。 4) 地下回廊のタッチパネル式学習端末機で名品のハイビジョン映像等を公開する。 5) 地下回廊で仏像模型及びパネルを用いて、文化財に関する情報を継続的に公開する。								
担当部課	総務課渉外室企画推進係 学芸部教育室	事業責任者	係長 石田義則 室長 岩井共二					
【実績・成果】(4館共通) 1) キャンパスメンバーズへの入会及び更新を積極的に進めてきた結果、本年度までで入会校数は27校、大学との連携を継続した。 (奈良国立博物館) 1) 小中学校との連携 ・奈良県内の小中学校222校に対してメールマガジンの配信を行った。 ・『奈良国立博物館だより』は、奈良市内の全小中学校への郵送配布を行った。 ・世界遺産学習事業は、奈良市内小学校5年生35校、合計2,281名に対して実施した。 ・中学2年生の職場体験を3校12人受け入れた。 3) 奈良市教育委員会と連携した教員への研修(8月26日実施、参加者63名)として講演を行った。 4) 地下回廊のタッチパネル式学習端末機で、収蔵品の中から名品の画像を公開した。 5) 地下回廊で仏像模型及びパネルを用いて、文化財に関する情報を継続的に公開した。								
【補足事項】  小学生に向けた世界遺産学習の様子								
【定量的評価】項目	26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
キャンパスメンバーズ加入校数	27校	—	—		28	28	27	26
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 キャンパスメンバーズ加入校は脱会が1校あったが、新規加入が2校あり、より多くの大学等と連携を図れた。						
【中期計画記載事項】学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 順調に成果を上げているため						

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 教育活動の充実 ①学習機会の提供(2/2)								
【年度計画】 (4館共通) 1) (略) (奈良国立博物館) 1), 3)～5) (略)2) 講座等の開催 ・仏教美術等に関するサンデートークを定期的に実施する。 ・特別展等に際してシンポジウム、フォーラム及び公開講座等を開催する。 ・一般向け教育普及事業として夏季講座を開催する。 ・特別陳列に因み、伝統的行事を体験する催しを実施する。 ・文化財保存修理所の一般公開を行い、文化財保存の意義についての認知度向上に努める。 (講演会等の目標) 参加者数計2,650人(実施回数計27回) ・特別展等講座 参加者数1,500人(実施回数14回) ・夏季講座 参加者数 500人(実施回数 1回(3日間 9講座)) ・サンデートーク 参加者数 650人(実施回数12回)									
担当部課	学芸部教育室		事業責任者	室長 岩井共二					
【実績・成果】(奈良国立博物館) 2) 講座等の開催 ・サンデートークは毎月第3日曜日に実施し、実績は12回、合計978人の参加があり、アンケート結果では87%の平均満足度が得られた。 ・公開講座は、3つの特別展及び2つの特別陳列の会期中に実施した。公開講座の実施回数は、合計12回、1,600人の参加があり、平均満足度は87%を得た。その他、特集展示「和紙-文化財を支える日本の紙-」に関連して記念講座&座談会「和紙-文化財を支える日本の和紙-」を実施した。 ・正倉院展に関連したシンポジウムは「正倉院学術シンポジウム2014」と題して26年11月2日に実施し、3人のパネラーにより基調講演と討論を行った。192人の参加を得、満足度は89%であった。 ・夏季講座は、今年は第43回目を迎え、奈良県文化会館で開催した。「醍醐寺と南都の密教」と題し、26年8月19日～21日の3日間に実施、講師は計9人、561人の参加があった。 ・特別陳列「お水取り」では、東大寺の協力のもと、「お水取り「講話」と「粥」の会」を27年2月14日に実施し、35人の参加があった。 ・文化財保存修理所の一般公開は、27年1月15日に3回実施し、計110人の参加があった。 ○講演会等の実績 総計27回・参加者3,525人 特別展等講座14回・参加者1,986人(うち公開講座12回・1,600人、シンポジウム1回・192人)、夏季講座1回(3日間)・参加者561人、サンデートーク12回・参加者978人									
【補足事項】  正倉院学術シンポジウム2014 会場風景									
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
講演会等の参加者数		3,525人	2,650人	A		3,349	3,006	3,454	3,219
実施回数		27回	27回	B		28	28	29	26
うち特別展等講座参加者数		1,986人	1,500人	A		2,172	1,839	2,172	1,682
実施数		14回	14回	B		15	15	16	13
うち夏季講座 参加者数		561人	500人	B		556	522	438	587
実施回数		1回	1回	B		1	1	1	1
うちサンデートーク参加者数		978人	650人	A	621	645	844	950	
実施数		12回	12回	B	12	12	12	12	
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 当初の予定通り各種の講座及び講演会を実施することができ、目標値を上回る参加者数が得られた上、アンケートでみる満足度も高かった。							
【中期計画記載事項】学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 奈良教育大学、奈良市教育委員会との連携協力を行い、学習プログラムの開発を進めており、中期計画に対し順調である。							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 教育活動の充実 ①学習機会の提供(1/3)								
【年度計画】 (4館共通) 1) (略) (九州国立博物館) 1) 博物館における体験型事業の充実を図る。 ・教育普及ゾーンで活用する様々な教育キットを開発する。 ・幅広い層に向け体験活動の促進を図るため、教育活動の場を提供する。 ・アジア諸国の文化を理解する様々な体験学習プログラムを開発する。 2)～9) (略)									
担当部課	交流課	事業責任者	教育普及室主任研究員 池内一誠						
【実績・成果】 (九州国立博物館) 1) ・体験型展示室「あじっば」の運営を進め、従来からのプログラム、キットの継続展開に加え、これまでの調査研究で得られた新知見を加味して内容を充実させた各プログラムを開発し、来館者向け、及びアウトリーチでの活動時に展開した。 ・「いこうよ！あじっば夏祭り」やボランティアワークショップを実施し、幅広い層の来館者に体験の場を提供した。 ・アジア各国の文化の類似性や相違性についての理解を深めるため、様々なテーマのもと、「あじ庵」「あじぎやら」「ディスプレイ」において特集展示を行った。また、季節にあわせて体験資料の展示替えを随時行った。									
【補足事項】 (九州国立博物館) 1) ・染織の原理について理解を深めるためのプログラムとして、藍の生葉を用いた「藍の生葉で繭を染めてみよう」「藍の生葉でたたき染めをしてみよう」を開発した。(アウトリーチプログラムとして実施) ・従来のプログラムに改善を加えた。(インドネシアと沖縄の音階の相似性に基づき、それぞれの国の楽器を一緒に演奏するプログラム、考古資料としての貝を自然史的・物理的観点から紹介するプログラムなど。アウトリーチプログラムとして実施) ・当館では、他の博物館ならびに社会教育施設等の要望に応え、「きゅーはくきやらばん」として各種体験プログラムを館外において展開している。 ・「あじ庵」における特集展示は「桃の節句」「ひと針に込めた思い」「楽器のいろいろ」「装う」の計4回を実施した。 ・「あじぎやら」における特集展示は「はらのなかのはらっぱで」「木から生まれるもの」「花と鳥(アジア各国の工芸品に表現された花と鳥)」「インドネシアの伝統文化」「郷土人形-笑い・干支・未」の計5回を実施した。 ・ディスプレイにおける特集展示は「インドネシア」「オランダ」「ちょっとひと休み(アジア各国の喫茶具)」「日本・韓国・中国のお正月」の計4回を実施した。 ・小学校児童向けに「わくわく通信」を年間5回発行し、体験プログラム等の告知を行った。配布地域は福岡市を含む博物館近隣 14 市町、毎回 136,000 枚を配布している。募集プログラムは前年度の経験を踏まえ、あらかじめ実施回数を増やす等の措置を行った。それでもほとんどが定員に達した。告知の効果は高い。									
 考古・自然史融合プログラム 「南の貝のものがたり」 (兵庫県立人と自然の博物館におけるアウトリーチにて)									
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
－		－	－	－		－	－	－	－
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 新規プログラム開発、プログラムの改善が順調に進んでいるため、また、小学生・大人など、幅広い年齢層に向けてのプログラムも実施できているため。							
【中期計画記載事項】学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 開発したプログラムは館内のみならず学校や他の博物館等においても実践し、広く学習機会を提供できているため。							



考古・自然史融合プログラム
「南の貝のものがたり」
(兵庫県立人と自然の博物館におけるアウトリーチにて)

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 教育活動の充実 ①学習機会の提供(2/3)								
【年度計画】 (4館共通) 1) キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施する。 (九州国立博物館) 1) (略) 2) 学校教育との連携事業を実施する。 ・ 職場体験(中学生)の受け入れを実施する。 ・ ジュニア学芸員(高校生)事業を実施する。 ・ 博物館活用の促進を図るため、教員研修の場を設置する。 ・ 学校貸出キット「きゅうぱっく」の貸し出しを実施する。 3)～8) (略) 9) 放送大学の面接授業を実施する。									
担当部課	総務課 交流課	事業責任者	課長 阿部 勝 課長 篠崎孝司						
【実績・成果】 (4館共通) 1) キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施した。 (九州国立博物館) 2) ・ 中学生・高校生の職場体験を23校101名(のべ51日間)受け入れた。 ・ 高校生「ジュニア学芸員」は、9校24名の参加を得て計8回の継続プログラムで実施した。 ・ 高等学校初任者研修に係わる体験活動研修を希望する教員4校6名に対し、3日間の体験研修を実施した。 ・ 学校教育における「きゅうぱっく」及び博物館の活用に関する教員研修会を1回実施した。 ・ 学校貸出キット「きゅうぱっく」の貸出を引き続き行い、67件の貸出を行った。 ・ 出前講座や館内での体験等を希望する学校への個別対応を行った。 9) 放送大学の面接授業を実施した。(「美術工芸品にみる文化交流の諸相」26年11月15日、16日)									
【補足事項】 (4館共通) 1) 大学等との連携を継続させるため、本年度も募集、実施し、各教育機関(大学・短期大学・高校)が新規及び継続で入会した。 加入校内訳(大学14校、短期大学3校、専門学校1校、高等学校6校) ・ 会員校の学園祭に協賛した。(6校) ・ 特典の利用として文化交流展を3,641人(学生3,418人、教職員223人)、特別展を2,444人(学生2,128人、教職員316人)が観覧した。また、パスポートを2,434人(学生2,245人、教職員189人)が割引購入した。 ・ 会員校である筑紫台高等学校は、キャンパスメンバーズ制度を活用し、授業のカリキュラムに当館の特別展観覧を組み込んでいる。 (九州国立博物館) 9) ・ 放送大学受講者は定員50名、定員以上の申込があり、放送大学事務局で調整した。 ・ 講義タイトルは24年度と同タイトル。同年度に申込多数で受講できない希望者が多かったため、放送大学事務局と協議のうえ26年度は24年度と同タイトルで実施することとしたためである。									
									
エントランスで接客(誘導業務)を体験する中学生									
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価	経年 変化	22	23	24	25
キャンパスメンバーズ加入校数		24校	—	—		27	28	24	24
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 キャンパスメンバーズ加入校数について前年度数を維持することができ、職場体験、教員研修、放送大学等についても、計画通り着実に実施できたため。							
【中期計画記載事項】学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。									
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 中期計画に対して学校教育との連携を順調に推進しており、職場体験、教員研修、放送大学等についても、計画通り着実に実施できたため。							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 教育活動の充実 ①学習機会の提供(3/3)								
【年度計画】 (4館共通)1) (略) (九州国立博物館)1)2) (略) 3) シンポジウムを開催する。 4) 特別展記念講演会を開催する。 5) 文化交流展、特別展に関連した教育普及事業を実施する。 6) ミュージアムトークを随時実施する。 7) 文化施設等へ講師を派遣する。 8) 特別展の内容に親しみをもたせ、より良く理解するためのワークショップを開催するとともに、文化交流展示の内容とも連携した事業展開を行う。 9) (略) (講演会等の目標) 参加者数 計3,100人 (実施回数計54回) ・特別展記念講演会 参加者数 600人 (実施回数 4回) ・講演及びシンポジウム 参加者数1,300人 (実施回数10回) ・ミュージアムトーク 参加者数1,200人 (実施回数40回)									
担当部課	学芸部企画課・交流課	事業責任者	課長 臺信祐爾	教育普及室主任研究員 池内一誠					
【実績・成果】 (九州国立博物館) 3) 国際シンポジウム「中国皇帝コレクションの意味―工芸における復古と革新―」を開催した。(10月25日開催)(詳細は処理番号3214参照) 4) 本年度は特別展記念講演会を4回開催した。 5) 本年度は講演会等を26回開催し、連続講座も開催した。 6) 定例のミュージアムトークを52回開催し、展示だけでは伝わらない博物館活動の内容を紹介し、好評を博している。 7) 文化施設等へ講師を派遣した。(福岡市 アクロス・文化学び塾等) 8) 文化交流展、特別展に関連した教育普及事業としてワークショップ等を行った。									
【補足事項】(九州国立博物館) 8) ・特別展「近衛家の国宝 京都・陽明文庫展」では、書跡の作品が多数出品されたことから、タブレットを使用した書に親しむ体験コーナー「かな文字を書いてみよう」を設置した。また、ワイヤーを曲げてつづけ字しおりを作るワークショップも行った。 ・特別展「クリーブランド美術館展―名画でたどる日本の美―」では、展示作品である渡辺崋山作「大空武左衛門」が写真鏡を使って描かれたことを体感してもらうため、写真鏡のレプリカを実際に手にとってもらう体験コーナーを設置した。また、夏休み期間中であったことから、親子を対象にした「てづくりカメラワークショップ」を行い、写真鏡の製作と写真鏡を使って絵を描く体験を通して、展示物の魅力を伝えた。 ・特別展「クリーブランド美術館展―名画でたどる日本の美―」の開催にあわせ、日本画ワークショップ「琳派の燕子花を描く」を実施した。小中学生対象(定員10名、申込5名)、15歳以上対象(定員10名、申込48名)の2回実施。 ・特別展「古代日本と百済の交流―大宰府・飛鳥そして公州・扶餘―」では、展覧会関連史跡を展覧会担当者が案内するウォーキングツアー「考古学者と行く! 史跡探訪」を2回実施した。また、同時開催の「日本発掘―発掘された日本列島2014―」では、考古学者の仕事体験する「なりきり考古学者 スペシャルバージョン」を2回実施。考古学担当研究員が大宰府政庁跡の測量の仕方を直接指導した。 ・トピック展示「全国高等学校 考古名品展」の開催にあわせ、「全国高等学校考古学フォーラム in 九州国立博物館2014」を実施した。壇上発表4校、ポスター発表3校、聴衆93人。 ・文化交流展示室関連第9室「梵音具」の展示にあわせ、インドネシアの青銅打楽器アンサンブル「ガムラン」の演奏会を展示室内において2回実施した。各回聴衆約50名。									
									
日本画ワークショップ 「琳派の燕子花を描く」									
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価	22	23	24	25	
講演会等の参加者数		4,694人	3,100人	A	経年変化	3,996	7,833	8,354	7,276
実施回数		82回	54回	A		64	89	102	90
うち特別展記念講演会 参加者数		980人	600人	A		1,410	1,500	966	1,108
実施回数		4回	4回	B		9	7	5	5
うち講演及びシンポジウム参加者数		2,132人	1,300人	A		1,266	4,592	4,918	4,450
実施回数		26回	10回	S		11	39	45	38
うちミュージアムトーク 参加者数		1,582人	1,200人	A		1,320	1,741	2,470	1,718
実施回数		52回	40回	A		44	43	52	47
【年度計画に対する総合評価】 評定: B		【判定根拠、課題と対応】 特別展や文化交流展示における展示作品について、多角的に学習の機会を提供し、理解促進に寄与するなど予定通り実施できており、また来館者の好評を得ている。							
【中期計画記載事項】学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。									
【中期計画に対する評価】 評定: B		【判定根拠、課題と対応】特別展や文化交流展示における展示作品について、幅広い年齢層に対して学習の機会を提供し、理解促進に寄与しているため。							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 教育活動の充実 ②-1 ボランティア活動の支援								
【年度計画】 (東京国立博物館) 1) 各種教育事業及びイベントの補助活動等の充実を図る。 2) 点字パンフレット、触知図、盲学校対応プログラム等による視覚障がい者対応、手話やコミュニケーションボード等による聴覚障がい者への博物館案内等、バリアフリー活動を実施する。 3) 自主企画グループによる各種ガイドツアー等を継続して実施する。 4) ボランティアの自主性を活かし、ボランティアデーなどにおいてボランティアの企画立案によるプログラムの充実を図る。									
担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	ボランティア室長 鈴木みどり						
【実績・成果】 (東京国立博物館) 1) 館内各所での案内、本館19室みどりのライオン体験コーナー、東洋館オアシスでの活動、職場体験の活動補助の他、イベント班とワークショップ班による、年間を通した各種イベント・ワークショップの補助活動を実施。また、今年度よりスクールプログラム班を立ち上げ、スクールプログラムの一部をボランティアにより実施した。また、各活動実施のための研修会・解説会を実施した。 2) 通年で触知図やコミュニケーションボード等を用いたバリアフリー活動を実施。バリアフリー対応班により、盲学校を含む視覚障がい者対応、点字パンフレットの印刷、自主企画グループにより手話通訳付きのガイドを実施した。また、実施準備や活動のための研修会を実施した。 3) 新規1グループを含めた全16の自主企画グループによるガイドツアー等の活動を実施した。また、研究員による、ボランティア活動のための研修会を実施した。 4) 通常の自主企画グループの活動の他に「留学生の日」・「ボランティアデー」・「博物館でお花見を」・「博物館でアジアの旅」などでの活躍の場を設け、より自主性を持った活動を行えるよう支援した。また、ボランティアデーでは、新規ボランティア応募者を対象に募集説明会とボランティアによるボランティア活動紹介ツアーを実施した。									
【補足事項】 2) バリアフリー活動として、点字パンフレットを22冊作成、手話通訳付きガイドツアーとして「たてもの散歩ツアー」(隔月1回、全6回)を実施した。 3) ・各自主企画グループ及びボランティア活動紹介ツアー等を実施した。 (374回 13,428人) ・自主企画グループ(16グループ)による活動は以下のとおり。 樹木ツアー、浮世絵ガイド、本館ハイライトツアー、法隆寺宝物館ガイド、考古展示室ガイド、陶磁ガイド、庭園茶室ツアー、お茶会、彫刻ガイド、英語ガイド、こどもたちのアートスタジオ、たてもの散歩ツアー、たんけんマップ、近代美術ガイド、東洋館ツアー、刀剣・武士の装いツアー ・ボランティアに対する研修を行った。(80回、解説会6回) ※「東京藝術大学大学院インターンシップ」は、従前との比較のため、ボランティア数の内数として計上している。従前の「東京芸術大学学生ボランティア」を25年4月より名称変更し、現在は「2(2)③大学との連携」の事業である。詳細は処理番号2231を参照。									
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価	経年変化	23	23	24	25
ボランティア数		173人	—	—	年変化	159	169	170	169
うち生涯学習ボランティア登録者数		158人	—	—		152	163	164	152
※うち東京藝術大学大学院インターンシップ数		15人	—	—		7	6	6	17
【年度計画に対する総合評価】		【判定根拠、課題と対応】							
評価：B		順調にボランティア活動及び活動支援を行っている。							
【中期計画記載事項】 教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。									
【中期計画に対する評価】		【判定根拠、課題と対応】							
評価：B		ボランティアの特性を活かしながら順調に実績をあげている。							



触知図を使った館内案内
(生涯学習ボランティアによるバリアフリー活動)

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 教育活動の充実 ②-1ボランティア活動の支援								
【年度計画】 (京都国立博物館) 1)平成知新館の新装開館に向け、新規ボランティア事業を立ち上げるための準備を行うとともに、平成知新館でのボランティア活動を開始する。 2)調査・研究支援ボランティアを受け入れ、各種事業活動の充実を進める。 3)文化財に親しむ授業講師（文化財ソムリエ）として大学生・大学院生ボランティアを育成し、小中学校への訪問授業を実施する。 4)「京都・らくご博物館」において、大学生をボランティアとして起用する。									
担当部課	学芸部	事業責任者	教育室長 山川 暁						
【実績・成果】 (京都国立博物館) 1)9月13日の平成知新館オープンとともに、新規ボランティアである京博ナビゲーターの活動を開始した。京博ナビゲーターの募集・活動開始にあたっては、募集説明会（1日×6回）や基礎講座（1日×8回）を実施した。 2)収蔵品調査及び社寺調査の補助のため、調査・研究支援ボランティアを受け入れた。（16人） 3)・文化財ソムリエを対象としたスクーリングを実施した。（21回） ・文化財ソムリエによる、京都市内の小中学校への訪問授業等を実施した。（7回） 4)「京都・らくご博物館」において、大学生をボランティアとして起用した。（9人）									
【補足事項】 1)京博ナビゲーターは、150名の募集に対して358名の応募があり、選考の結果163名が登録された。それぞれ月1回程度来館し、平成知新館内のミュージアム・カートやレファレンス・コーナーにて活動を行った。最も混雑した時期の簡易統計によれば、ミュージアム・カートは一日500人以上の来館者に利用されていた。 2)各研究員の指導のもと、調査・研究支援ボランティアが収蔵品調査及び社寺調査の補助を行った。 3)「文化財ソムリエ」として登録している大学生・大学院生のボランティア（22名）に対して、当館研究員がスクーリング21回を実施した。教材となる文化財や教育普及の手法についてレクチャーを行い、文化財ソムリエが授業案や教材を作成するにあたって、議論を促し、指導・助言を行った。本年度は「平成26年度文化庁地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」の助成を受け、教員と意見交換をするための交流会の開催、他館活動の調査なども精力的に行った。									
									
文化財ソムリエへのスクーリング									
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価		22	23	24	25
ボランティア数		210人	—	—	経 年 変 化	40	64	45	45
うち京博ナビゲーター		163人	—	—		—	—	—	—
うち調査・研究支援ボランティア数		16人	—	—		15	22	21	25
うち文化財ソムリエ数		22人	—	—		7	14	16	13
うちらくご博物館学生ボランティア数		9人	—	—		—	10	8	7
【年度計画に対する総合評価】 評定：A		【判定根拠、課題と対応】 京博ナビゲーターの活動を立ち上げるなど、予期以上の多大な成果をあげた。							
【中期計画記載事項】教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。									
【中期計画に対する評価】 評定：A		【判定根拠、課題と対応】 新規ボランティアを加え、きわめて充実した活動を展開することができた。							



文化財ソムリエへのスクーリング

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 教育活動の充実 ②-1ボランティア活動の支援								
【年度計画】 (奈良国立博物館) 1) ボランティアの各グループ（世界遺産グループ、解説グループ、サポートグループ）の活動の充実を図る。 2) ボランティアの資質向上を目的に、定期的に研修を実施する。 3) 勉強会や見学会等によって、ボランティア同士のグループ別学習の充実を図る。 4) ボランティアの自主性を活かし、ボランティアによる企画立案プログラムの充実を図るための支援を行う。									
担当部課	ボランティア室		事業責任者		室長 清水 功				
【実績・成果】 (奈良国立博物館) 1) ボランティアの新制度が発足して3年目になり、世界遺産グループ、解説グループ、サポートグループ、それぞれの活動がより充実した。奈良市教育委員会と連携し、世界遺産学習として奈良市の35校の小学5年生（2,281人）を受け入れ、また同学習で県内外の小学生～高校生（18校、1,045名）を受け入れた。 2) ボランティア全員に対して、名品展研修を毎月実施し、また特別展、特別陳列の開催ごとに展覧会担当者による展示内容の研修を実施して全ての展覧会図録を配布し、解説と自己研修のための学習資料とした。 正倉院展の会期中に、ボランティアによる講堂解説を実施した。このため、教育室がスライド資料と原稿を作成し、ボランティア室が約1ヵ月間の練習の立会と指導をした。 3) ボランティアのグループ別に、毎月の勉強会を実施し、その指導に当たった。チーム力と知識の向上を図るため、毎月それぞれテーマを決めて勉強会を行った。解説グループの勉強会では、オブザーバーとして学芸部が立会、指導した。 4) ボランティアによる自主企画として、敷地内の茶室庭園や仏教美術資料研究センターの案内ツアーを実施した。プログラムの企画立案にあたって、学芸部や総務課の協力を得ながら、ミーティングの立会と指導をした。 また、ボランティア活動3年目の集大成として、12月に「ボランティア・フェスタ」を実施した。ボランティア・フェスタの企画立案にあたり、実行委員会を組織し、ボランティア室と約1年間計画を練り、ボランティア全員が何らかの活動で関われるよう助言を行った。									
【補足事項】 1) ・正倉院展講堂解説では、解説グループ・世界遺産グループ・サポートグループの3つが協力して、成果を上げた。 ・他施設のボランティアとの交流会を実施し、スライドでボランティア活動を紹介し、当館の展示や施設の案内を行った。また、10月に京エコロジーセンターのシンポジウム「博物館・公園等ボランティア交流会」に参加し、当館ボランティア活動の紹介をして、他館ボランティアと交流を深めた。 ・世界遺産学習では、なら仏像館閉館に伴い、9月から特別プログラム「仏像・いろいろ」を実施した。プログラムの実施にあたり、教育室の指導で原案を作成し、ボランティア室の指導を基に約2ヶ月間の練習を行った。 ・英語や韓国語で、名品展解説を行った。 2) ・ボランティア間の通信誌「ぶりっじ」を、2ヵ月ごとに発行した。 3) ・ボランティアの企画立案による「茶室庭園案内ツアー」を26年4月に、合計2回実施した。「仏教美術資料研究センター見学ツアー」を26年4月に、合計2回実施した。実施にあたって、数回のリハーサルを行い、万全を期した。 ・特別陳列「お水取り」のツアー解説を27年3月に、14日間実施した。 ・ボランティア間の交流と研修を兼ねて、社寺旧跡見学会を26年4月・5月・10月の合計3回実施した。 ・修学旅行生のためのプログラム「仏像の見方」のスライドを、教育室の協力とボランティア室の指導のもとに作成した。27年度に実施する予定。									
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
ボランティア数		110人	—	—		85	87	121	114
うち世界遺産グループ数		38人	—	—		—	—	42	41
うち解説グループ数		43人	—	—		—	—	43	39
うちサポートグループ数		29人	—	—		—	—	36	34
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 ボランティア活動の支援の一層の充実に向け、各グループの活動もより活性化し、また「ボランティア・フェスタ」などの自主的な企画も成功し、当初の目的を達成した。							
【中期計画記載事項】教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 小中高生への世界遺産学習や来館者への解説などの、ボランティア活動への支援により教育普及の充実に寄与した。							



「世界遺産学習」の活動風景



「ボランティア・フェスタ」の活動風景

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 教育活動の充実 ②-1ボランティア活動の支援								
【年度計画】 (九州国立博物館) 1) ボランティアを受け入れ、展示解説部会、教育普及部会、館内案内部会(日本語、英語、中国語、韓国語)、環境部会、イベント部会、資料整理部会、サポート部会、学生会部の充実を図る。 2) ボランティアに対し資質向上を目的に基礎研修・専門研修を実施する。 3) ボランティア同士のグループ別学習の充実を図る。									
担当部課	交流課	事業責任者	ボランティア室主任研究員 八尋智之						
【実績・成果】 (九州国立博物館) 1) 第3、4期ボランティアの体的な活動を重視することによって、活動意欲の向上、活動の活性化・充実、そして市民視点の活動の創造等が行われた。 2) ボランティア自身の企画・実施による研修等を積極的に実施することで、活動の資質の向上や活性化、発展が行われた。 3) 各部会において研修やグループ別学習、活動を行った。また、グループ活動や子どもフェスタにおいて、部会の枠を超えてボランティア同士が活動を行った。									
【補足事項】 1) 第4期ボランティアを中心に、第3期ボランティアからアドバイスを受けながら活動を行った。開館以来の活動に加え、新たな視点・思いによる活動が加わり、活動の発展や充実が計られた。 ・各期ボランティア数(26年度当初) 第3期ボランティア(23年4月から活動)数 144人 第4期ボランティア(26年4月から活動)数 208人 ・通常の活動においては、1日平均30～40名、1ヵ月平均延べ1,000人前後のボランティアが、主に午前と午後に分かれて活動。約6割のボランティアが週1回程度で活動 ・日常の活動は、館内案内、あじっば(体験型展示室)における活動のサポート、文化交流展示室の解説案内、博物館内のIPM活動。土日を中心とした手話通訳による案内。 2) 活動の活性化・発展・創造やボランティアの資質向上を目的に、ボランティア自身の意向に沿った研修や館外研修(視察・交流等)を実施した。 〔主な研修〕障がい者接遇・英語解説講座・古代韓国歴史講座・古文書講座・IPM関連講座 〔主な館外研修先〕壱岐市立一支国博物館・熊本市現代美術館・兵庫県立人と自然の博物館・兵庫県立考古博物館・装飾古墳館・宇佐神宮・伊都国歴史博物館 等 3) 企画から実施まで、全てボランティアに担わせることで、イベントやワークショップのみならず、通常の活動においてボランティア自身や部会(グループ)の主体性や自主性を高めることができた。 〔実施したイベント等〕お月見(26年9月)・手作り年賀状作り(26年12月)・書き初め(27年1月)									
									
ボランティア研修の様子 (バックヤードツアー：第3期による第4期への指導)									
									
学生会部イベントの様子 (オリジナル年賀状作りのワークショップ)									
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価		22	23	24	25
ボランティア数		352人	—	—	経年変化	288	355	308	287
うち展示解説ボランティア数		86人	—	—		63	84	77	75
うち教育普及ボランティア数		37人	—	—		53	48	41	39
うち館内案内ボランティア数		38人	—	—		32	31	29	26
うち外国語案内ボランティア数		94人	—	—		53	89	69	63
うち環境ボランティア数		33人	—	—		28	38	35	29
うちイベントボランティア数		6人	—	—		10	10	6	6
うち資料整理ボランティア数		25人	—	—		18	20	19	19
うちサポートボランティア数		24人	—	—		19	25	23	22
うち学生ボランティア数		9人	—	—		12	10	9	8
【年度計画に対する総合評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 当初計画していたよりも多くの研修を、ボランティアが企画したため、充実した活動を行うことができたため。また、他部会との交流も積極的に行う部会が多かったため。							
【中期計画記載事項】教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 来館した学校団体へは、ボランティアが活動を支援することができた。次年度は博物館と学校の相互交流をより活発に行うため、出前授業を行う予定である。この時、講師として職員だけでなく、当館ボランティアも参加する計画である。また、特別支援学校への対応は職員中心に行っているが、当館ボランティアも含めて、対応を検討していく。							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 教育活動の充実 ②-2博物館支援者の増加								
【年度計画】 (4館共通) 企業との連携及び友の会活動等の会員制度の活性化を図る。 1) 会員制度によるリピーターの拡大に努める。 2) 会員制度利用者を対象とした事業を実施する。 3) 企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。 4) 展覧会事業の協賛企業から各種支援（協賛・協力）を募る。 (東京国立博物館) 1) 各種会員制度を整理し、割引の適用や新たな会員制度を導入することで、リピーターの促進や若年層の拡充を図る。 2) 近隣地域の諸団体や支援団体等と連携したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。									
担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長 竹之内勝典						
【実績・成果】 (4館共通) 1) 26年4月の消費税率改定による料金の改定に伴い、これまで独立していた賛助会・友の会・パスポートの会員制度を一元化し、支援者の選択の幅を広げ、継続的に支援しやすい体系に整備した。 2) 友の会、賛助会会員を対象に、講演会を実施した。また、賛助会会員を対象に感謝会を実施した。 3) 日本橋三越本店と銀座三越の三越新春祭と当館の「博物館で初もうで」での共同企画を実施し、当館の宣伝活動の拡大を図った。 4) 一部の特別展において、三菱商事株式会社と共催で「障がいのある方のための特別鑑賞会」を実施した。 (東京国立博物館) 1) 26年4月の会員制度改定後、個人会員が大幅に増加した。26年度末時点で友の会会員数2,145人(前年度比35%増)、パスポート会員数20,302人(前年度比23%増)となり、新規に創設したベーシック会員も1,038人の新規会員を集めた。賛助会についても、会員数414件(前年度比9%増)、金額ベース8%増を達成した。 2) ・上野ミュージアムウィーク（上野のれん会との共催）、上野の山文化ゾーンフェスティバル（台東区との共催）及び東京・春・音楽祭（東京・春・音楽祭実行委員会との共催）等、地域連携事業に参加した。 ・27年3月14日のJ R上野東京ラインの開業に合わせて国立科学博物館、国立西洋美術館との3館を回れる共通入場チケットを3万枚発行し、上野地域の周遊を促した。									
【補足事項】 (4館共通) 1) 会員へ新会員制度の案内を積極的に行い、リピーターの拡大、及びより上位の会員への移行の推進に努めた。 2) 友の会、賛助会向けに東大寺講演会を実施した。 3) 三越と共同で行った新春祭では、新聞折込や店頭配布、DMなど合計で100万部のチラシにて当館の「博物館に初もうで」の周知ができ、27年1月2日、3日の当館への来館者も過去最高を記録した。8,000人以上が参加したメダルラリーや三越でのトークショー、各種ワークショップの実施など、様々な共同企画を実施した。 4) 「栄西と建仁寺」（4月18日）、「台北 國立故宮博物院展」（7月12日）にて (東京国立博物館) 1) 26年4月1日に会員制度全体をわかりやすく制度改定し、パスポートから友の会、友の会から賛助会へと移行を促す工夫をした。									
									
三越新春祭トークショー（銀座三越）									
【定量的評価】 項目		26年度実績	目標値	評価		22	23	24	25
友の会会員数		2,145人	—	—	経年変化	1,412	1,802	1,570	1,586
パスポート会員数		20,302人	—	—		13,733	17,672	16,569	16,474
ベーシック会員数		1,038人	—	—		—	—	—	—
賛助会員数		414件	—	—		235	292	332	379
個人会員（プレミアム）		2人	—	—		—	—	—	—
（特別）		6人	—	—		—	—	—	—
（維持）		345人	—	—		191	238	269	315
団体会員（プレミアム）		—	—	—		—	—	—	—
（特別）		20団体	—	—		16	19	20	20
（維持）		41団体	—	—	28	35	43	44	
【年度計画に対する総合評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 個人会員の大幅増を達成できた。団体会員は微減となったが、金額ベースでは増となった。次年度は団体会員数増に重点化して取り組みたい。また、大手百貨店との共同企画等を博物館の来館者数増につなげることができており、企業や地域との連携は順調に実施できている。							
【中期計画記載事項】 教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 個人の会員数の増加、企業との共同事業や地域との連携の拡大は、順調に達成できていると評価できる。							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 教育活動の充実 ②-2博物館支援者の増加								
【年度計画】 (4館共通) 企業との連携及び友の会活動等の会員制度の活性化を図る。 1) 会員制度によるリピーターの拡大に努める。 2) 会員制度利用者を対象とした事業を実施する。 3) 企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。 4) 展覧会事業の協賛企業から各種支援（協賛・協力）を募る。 (京都国立博物館) 1) 支援団体等が行う文化財の鑑賞会・見学会等に協力する。									
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長 企画室長	植田義雄 宮川禎一					
【実績・成果】 (4館共通) 1) 「パスポート」事業を継続し、リピーターの拡大に努めた。 2) 「パスポート」会員を対象とした事業を実施した。 3) 企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努めた。 4) 22年度に設置した「ミュージアム・パートナー」制度について引き続き周知を続けた結果、新たに株式会社日本香堂がパートナー会員になった。 (京都国立博物館) 1) 支援団体(社団法人清風会)が行う鑑賞会(3回)・見学会(3回)・会報(3回)の解説・執筆及び、総会の開催に協力した。 また、地域・機関との連携事業に協力した。									
【補足事項】 (4館共通) 2) 「パスポート」会員が当館ミュージアムショップにおいて、「パスポート」会員カードを提示すると、商品(書籍・グッズ等)が10%引きで購入できる等の特典がある。 3) ・人間国宝 桂米朝氏の所属している米朝事務所の制作協力による「京都・らくご博物館」を実施した。今年度は春、秋、冬の3回実施した。 ・アメリカンエキスプレス会員を対象に落語会・特別鑑賞会を開催し博物館の認知度向上に努めた。 ・JR東海と連携し、夜間特別鑑賞会を開催することで、博物館の認知度向上に努めた。 ・ハースト婦人画報社と連携し、特別鑑賞会を開催した。 ・三越伊勢丹と連携し、特別鑑賞会を開催した。 ・ハイアットリージェンシー京都と連携し、平成知新館開館記念セレモニーを開催した。関係者約1,700人を招待したほか、各メディアで大きく取り上げられた。 (京都国立博物館) 1) ・「京都市内4館連携協力協議会」では、京都国立近代美術館、京都市美術館、京都文化博物館、京都国立博物館の4館が連携し、広報のための合同パンフレットを60,000部製作、連携講座やスタンプラリーを実施するなど事業内容の充実を図るとともに、「友の会」の相互協力を行った。									
 京都市内4館連携合同パンフレット									
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価		22	23	24	25
パスポート会員数		6,522人	—	—	経年変化	2,468	2,667	3,064	2,295
ミュージアム・パートナー会員数		1件	—	—		1	2	—	—
清風会会員数		350人	—	—		391	373	353	336
うち賛助会員数		32人	—	—		34	34	33	30
うち特別会員数		63人	—	—		61	61	60	58
うち普通会員数		255人	—	—		296	278	260	248
【年度計画に対する総合評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 企業等と連携し、閉館後の特別鑑賞会などを開催し好評を得た。また平常展示館建替工事中のため年2回しか行えなかった「京都・らくご博物館」を、年3回開催した。							
【中期計画記載事項】教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。									
【中期計画に対する評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 パスポート会員が大幅に増加し、また企業との多彩な連携事業を展開するなど、博物館支援者の増加を図ることができた。							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 教育活動の充実 ②-2博物館支援者の増加								
【年度計画】 (4館共通) 企業との連携及び友の会活動等の会員制度の活性化を図る。 1) 会員制度によるリピーターの拡大に努める。 2) 会員制度利用者を対象とした事業を実施する。 3) 企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。 4) 展覧会事業の協賛企業から各種支援（協賛・協力）を募る。 (奈良国立博物館) 1) 支援団体等との連携により施設を活用したイベント等を実施し、博物館支援の輪を広げる。 2) 支援団体等と連携し、展覧会の充実を図る。 3) 賛助会員制度の継続・拡充を図る。 4) 地域、企業との連携を推進する。									
担当部課	総務課渉外室企画推進係		事業責任者	係長 石田義則					
【実績・成果】 (4館共通) 1) パスポート会員 会員数3,162人(一般3,026人、学生99人、家族37人) 2) 会員に夏季講座を優先的に受講できるようにした。 3) 株式会社日本香堂提供のラジオ番組で、展覧会のPRを行った。 4) 他の主催者と連携し、企業等からの協賛・協力を募った。 (奈良国立博物館) 1) 支援団体等が主催する展覧会の解説付の鑑賞会の実施に協力した。 2) 特別展の実施に際して企業等からの協力金を得て特別展の充実を図った。 3) 賛助会員 27団体46人(特別支援会員：5団体、特別会員：4団体、一般会員(個人)：46人、(団体)：18団体) 4) 観光関連業界と連携し顧客層の開拓を行った。奈良の観光イベント「ムジークフェストなら2014」、「ライトアッププロムナード・なら2014」、「なら燈花会」、「なら瑠璃絵」に対して協力した。									
【補足事項】 ・賛助会員に対する特別観賞会を実施するなど、あらゆる機会を通じて会員獲得に対する努力を行った。 ・24・25年度に引き続いて26年度も日本香堂からの寄附があり、仏像彫刻の解説冊子『仏像を観る』（日本語版、英語版）の改訂版を、寄附金により作成した。									
									
		ムジークフェストなら2014		なら瑠璃絵		日本香堂の寄附により作成した『仏像を観る』（日本語版）表紙			
【定量的評価】 項目		26年度実績	目標値	評価		22	23	24	25
パスポート会員数		3,162人	—	—	経年変化	3,180	2,615	2,486	2,598
賛助会員数		73件	—	—		64	65	68	70
うち特別支援会員数		5団体	—	—		4	5	5	5
うち特別会員数		4団体	—	—		4	5	5	4
うち一般会員数		64件	—	—		56	55	58	61
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 パスポート会員が昨年度比564名増や、賛助会員が3会員増など新たな博物館支援者を獲得する事ができた。							
【中期計画記載事項】教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 順調に成果を上げているため。							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 教育活動の充実 ②-2博物館支援者の増加							
【年度計画】 (4館共通) 企業との連携及び友の会活動等の会員制度の活性化を図る。 1) 会員制度によるリピーターの拡大に努める。 2) 会員制度利用者を対象とした事業を実施する。 3) 企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。 4) 展覧会事業の協賛企業から各種支援（協賛・協力）を募る。 (九州国立博物館) 1) 近隣地域の諸団体や支援団体等と連携したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。								
担当部課	総務課 広報課 交流課	事業責任者	課長 課長 事務主査	阿部 勝 田端幸朋 岩橋神奈子				
【実績・成果】 (4館共通) 1) 「友の会」等の会員制度を継続して実施した。 2) 「友の会」会員を対象に、季刊情報誌『アジアーヂュ』、トピック展示チラシ等の送付を行った。 3) 企業等と連携し、広報活動を行った。 4) 展覧会事業への企業からの協賛・協力を得た。 (九州国立博物館) 1) 支援団体や近隣地域と連携したイベントを実施し、広報活動の充実を図った。								
【補足事項】 (4館共通) 1) 「年間パスポート」の広報を実施した。 (九州国立博物館) 1) 支援団体や近隣地域と連携したイベント ・福岡県立太宰府高等学校と連携して、特別展「華麗なる宮廷文化 近衛家の国宝 京都・陽明文庫展」に関連した書道実演を開催した。(26年5月25日) ・支援団体である九州国立博物館を愛する会と連携して、特別展「古代日本と百済の交流—大宰府・飛鳥そして公州・扶餘—」に関連した影絵公演「水城跡のものがたり ひともっこ山と父子島」を開催した。(27年1月18日) ・福岡女子短期大学（太宰府市）と連携して館内のカフェで定期的にコンサートを実施した。 ・開館以来、9年連続で国の重要無形文化財である博多祇園山笠の飾り山をエントランスホールで展示した。この事業は、西日本新聞社と九州国立博物館振興財団との共同事業として実施した。 ・内容を勘案した上で、自治体等が主催するイベントを受け入れ、各団体との連携を強化した。 ・支援団体である九州国立博物館を愛する会、太宰府観光協会への内覧会を行った。(27年1月28日)								
					「近衛家の国宝」関連書道実演			
								
					「古代日本と百済の交流」関連影絵公演			
【定量的評価】項目	26年度実績	目標値	評価	経年 変化	22	23	24	25
友の会会員数	192 人	—	—		144	117	196	141
パスポート会員数	4,990 人	—	—		3,318	3,093	4,224	4,633
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 26年4月の消費税改定による料金の改定にも関わらず、友の会及びパスポート会員数はほぼ前年度並びを維持できた。各種イベントを実施し、博物館の活性化に寄与した。						
【中期計画記載事項】教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。								
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 「友の会」等の会員制度について、徐々にではあるが会員数を増やしている。各種イベントを実施し、博物館の活性化に寄与した。						

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 教育活動の充実 ③大学との連携							
【年度計画】 (東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館) 1) インターンシップを継続して実施する。 (東京国立博物館) 1) 東京藝術大学との連携事業を継続して実施する (大学院生対象)。 2) キャンパスメンバーズへの教育連携事業を実施する。 3) 日本大学芸術学部と連携し柳瀬荘アート・教育プロジェクトを実施する。								
担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	教育普及室長 小山弓弦葉 教育講座室長 浅湊毅 ボランティア室長 鈴木みどり 総務課長 竹之内勝典					
	総務課							
【実績・成果】 (東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館) 1) 博物館学芸員を目指す学生の学習意欲の喚起及び高い職業意識の育成を目的として、大学院生を対象にインターンシップを募集し、それぞれ学芸研究部・学芸企画部の9部署で10～30日間の活動を行い、11大学11名が修了した。 (東京国立博物館) 1) 東京藝術大学大学院インターンシップでは、ギャラリートーク(研究発表)班3名、調査研究班12名が活動した。ギャラリートーク班では大学院生と当館研究員が連携して準備を行い、総合文化展の解説を行った。調査研究班では館蔵の「突起装飾坏 (TJ-5401)」の工程見本の展示及び教育普及事業を行った。 2) キャンパスメンバーズ加入校の学生を対象に、博物館の歴史、保存修復、博物館情報、教育普及事業等について当館の職員が実例を交えた解説を実施。また、キャンパスメンバーズ加入校の学芸員志望学生を対象として、作品の取り扱い等博物館実務全般について演習・実習を実施した。(9月8日～13日に実施し、21大学・34人が参加した) 3) 日本大学芸術学部と共同で「柳瀬荘アート・教育プロジェクト」を実施した。								
【補足事項】 (東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館) 1) インターンシップ ・インターンシップの募集は、近隣の60大学への郵送による通知の他、全国あるいは国外からも応募できるようにウェブサイトでも行った。 ・インターンシップ受入部署 学芸研究部 上席研究員、東洋室、保存修復課、平常展調整室 学芸企画部 教育普及室、教育講座室、情報管理室、デザイン室、広報室 (東京国立博物館) 1) 東京藝術大学大学院インターンシップ ・東京藝術大学大学院インターンシップギャラリートーク (研究発表) 班によるギャラリートーク 18回 参加人数 603人 ・東京藝術大学大学院インターンシップ調査研究班によるギャラリートーク 10回 166人、スライドトーク 1回 33人 ・東京藝術大学大学院インターンシップ調査研究班による制作工程模型展示「突起装飾坏ができるまで」 26年4月15日～27年4月6日 3) 26年10月9日～11月2日の木、金、土、日に実施し、計16日間226名の参加者を得た。								
								
			東京藝術大学大学院インターンによるギャラリートーク					
								
			柳瀬荘アート・教育プロジェクト					
【定量的評価】項目								
26年度実績		目標値		評価		経年変化		
—		—		—		—		
【年度計画に対する総合評価】								
判定：B		【判定根拠、課題と対応】 順調。目標通り事業を達成できた。						
【中期計画記載事項】 大学との連携事業、各種セミナー、インターンシップ等の実施を通じて人材育成に寄与する。								
【中期計画に対する評価】								
判定：B		【判定根拠、課題と対応】 順調。例年通り実施できた。						

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 教育活動の充実 ③大学との連携							
【年度計画】 (京都国立博物館) 1) 京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座を担当する。								
担当部課	学芸部	事業責任者	上席研究員兼保存修理指導室長 赤尾栄慶					
【実績・成果】 (京都国立博物館) 1) 京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座において、研究員4人で8科目の授業を担当し、実際の文化財を教材にしながら、研究指導を行った。								
【補足事項】 ・研究員4人が客員教授(3人)、客員准教授(1人)を担当し、博士前期・後期課程の学生に対して、実作品の展示・調査活動を通じた専門的な教育を行った。博士後期課程の学生1名に対しては、同研究科の『歴史文化社会論講座紀要』に掲載する論文の指導を行い、修士課程の学生1名については、修士論文の指導を行った。 ・京都大学国際交流センターの日本語・日本文化研修留学生に客員教授の1名が「日本の美術」に関する特別講義を当館で行い、見学会を実施した。(12月3日に実施、留学生19人)								
								
学生とのフィールドワーク								
【定量的評価】項目	26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
—	—	—	—	—	—	—	—	—
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 博士後期課程及び修士課程の学生に対して専門的な教育や論文指導等を着実に実施し、また、日本語・日本文化研修留学生のための授業も行うなど、順調に成果を上げた。							
【中期計画記載事項】大学との連携事業、各種セミナー、インターンシップ等の実施を通じて人材育成に寄与する。								
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 博士後期課程と修士課程の学生に指導を行い、計画通り、着実に人材育成を図っている。							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 教育活動の充実 ③大学との連携								
【年度計画】 (東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館) 1) インターンシップを継続して実施する。 (奈良国立博物館) 1) 奈良女子大学及び神戸大学との連携講座を継続して実施する (大学院生対象)。 2) 奈良教育大学・奈良市教育委員会と連携して世界遺産学習のプログラム開発を進める。									
担当部課	総務課総務係 学芸部企画室		事業責任者	係長 金谷嘉久 室長 野尻 忠					
【実績・成果】 (東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館) 1) 立命館大学から3名の学生をインターンシップとして受け入れた。 (奈良国立博物館) 1) ・奈良女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程に学芸部研究員1名を客員准教授として派遣し、日本古典資料論の講義を行った。授業の内容は古典資料講読を中心とし、受講生は前期4人、後期4人であった。 ・神戸大学大学院人文学研究科の連携講座文化資源論に、学芸部研究員2人を客員教授と客員准教授として派遣し、文化資源論の講義を行った。受講した学生は同研究科の修士課程、博士課程の大学院生16人であった。 2) ・26年11月9日(日)、奈良市教育センター及びなら100年会館を会場として、「第5回世界遺産学習全国サミットinなら」を文部科学省・奈良市教育委員会・奈良教育大学等と共同で開催し、女優・タレントのサヘル・ローズ氏及び帝塚山大学教授の西山厚氏による『「伝えるということ」～未来を創るあなたへ』と題した対談及び子供達による世界遺産学習発表会を行った。									
【補足事項】									
 「第5回世界遺産学習全国サミットinなら」チラシ									
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
—		—	—	—		—	—	—	—
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 年度計画どおり、各種の事業を実施できた。							
【中期計画記載事項】大学との連携事業、各種セミナー、インターンシップ等の実施を通じて人材育成に寄与する。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 大学との連携事業、各種セミナー、インターンシップを継続的に実施しており、これらの取り組みを通じて人材育成に寄与できている。							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 教育活動の充実 ③大学との連携								
【年度計画】 (東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館) 1) インターンシップを継続して実施する。 (九州国立博物館) 1) 博物館実習生の受け入れを実施する。									
担当部課	学芸部博物館科学課 交流課	事業責任者	課長 教育普及室主任研究員	今津節生 池内一誠					
【実績・成果】 (東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館) 1) 当館の保存修復施設を利用して地域大学との協業を図る短期インターンシップ研修プログラムを実施した。 (九州国立博物館) 1) 博物館実習生を11大学15人、計10日間受け入れた。(うちキャンパスメンバーズ校は5大学8人) ○博物館見学実習に対応した。(16件延べ491人)									
【補足事項】 (東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館) 1) ・装こう技術に関する短期インターンシップ「文化財保存修復研修」を実施した。(26年8月18日～22日) ・吉備国際大学2人、九州産業大学2人、別府大学1人、広島市立大学1人の計4大学6人が研修に参加した。 ・研修では屏風の下貼り作製に関する講義と実習を通じて、文化財保存修復に対する参加学生の理解と研鑽を深めることができた。 (九州国立博物館) 1) ・実習実施期間 26年8月20日～9月1日(のべ10日間) ・実習内容は、博物館の各機能に関するレクチャー、来館者対応についての実習、展示企画の立案についての実習等を行った。 ○ ・見学実習に対応した大学は、九州産業大学(50人)、九州造形短期大学(150人)、熊本大学(25人)、徳島大学(8人)、崇城大学(10人)、筑紫女学園大学(全4回144人)、佐賀女子短期大学(25人)、香蘭女子短期大学(16人)、長崎国際大学(32人)、九州大学大学院(24人)、早稲田大学(13人)、大阪工業大学(30人)、北九州市立大学(14人) ・見学実習の対応は、研究員による解説、ボランティアによる解説等、大学側の要望等にあわせて実施した。									
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価		22	23	24	25
インターンシップ及び博物館実習参加者数		21人	—	—	経年変化	21	28	29	28
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 館内各部門の協力を得て、順調に博物館実習を実施できているため。							
【中期計画記載事項】 大学との連携事業、各種セミナー、インターンシップ等の実施を通じて人材育成に寄与する。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 博物館実習、見学実習を継続して順調に実施できおり、人材育成に寄与できているため。							



博物館実習：作品取扱実習（金工）の様子

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信																																	
事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ①施設・設備等の充実(1/2)																																	
【年度計画】 (4館共通) 1) 特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図る。 (東京国立博物館) 1) 多言語による案内及び誘導サイン等を順次整備する。 2) より快適な観覧環境を構築するため、展示照明を順次整備する。 3)～6) (略)																																		
担当部課	総務部経理課 学芸企画部企画課 学芸企画部企画課	事業責任者	環境整備室長 大江信浩 特別展室長 松嶋雅人 デザイン室長 木下史青																															
【実績・成果】(4館共通) 1) 当館開催の特別展のうち、6つの特別展で音声ガイドを実施し、来館者サービスの向上を図った。特別展「キトラ古墳壁画」の音声ガイドでは、松尾佳子(声優)のナビゲーター起用等が好評を博し、貸出率が24.8%となった。 (東京国立博物館) 1) 27年1月2日(金)リニューアルオープンした「黒田記念館」への案内について、東博敷地(正門)から記念館までの誘導サインを多言語で整備した。 2) ・リニューアルオープンした黒田記念館の黒田記念室において、天井間接照明用スプレッドレンズ付LEDスポットライトを整備したことにより、展示室全体の明るさ感が向上し、天井装飾を効果的に照明する効果が得られた。 ・東洋館のさらなるお客様誘導効果と親しみやすさ向上のため、東洋館入口前にサインと懸垂幕を設置し、懸垂幕と獅子に対して新たに照明を整備した。																																		
【補足事項】																																		
																																		
黒田記念館へのサイン整備			東洋館入口前サイン、懸垂幕			黒田記念室・天井間接照明																												
<table><tr><td>【定量的評価】項目</td><td>26年度実績</td><td>目標値</td><td>評価</td><td>経年変化</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td></tr><tr><td>音声ガイド貸出台数</td><td>261, 241台</td><td>—</td><td>—</td><td rowspan="2">変化</td><td>130, 850</td><td>319, 172</td><td>225, 235</td><td>154, 056</td></tr><tr><td>展示照明整備件数</td><td>12件</td><td>—</td><td>—</td><td>4</td><td>3</td><td>3</td><td>2</td></tr></table>									【定量的評価】項目	26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25	音声ガイド貸出台数	261, 241台	—	—	変化	130, 850	319, 172	225, 235	154, 056	展示照明整備件数	12件	—	—	4	3	3	2
【定量的評価】項目	26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25																										
音声ガイド貸出台数	261, 241台	—	—	変化	130, 850	319, 172	225, 235	154, 056																										
展示照明整備件数	12件	—	—		4	3	3	2																										
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 所定の目標を達成し、来館者へのサービス向上に成果を出した。																																
【中期計画記載事項】施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。																																		
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 新規にリニューアルオープンした施設等を含め、計画にあげたサービス提供が実現できている。																																

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ①施設・設備等の充実(2/2)								
【年度計画】 (4館共通)1) (略) (東京国立博物館)1)2) (略) 3) 総合文化展におけるスマートフォンアプリを用いたガイド「トーハクナビ」(日本語版・英語版)・「法隆寺宝物館30分ナビ」(日本語版・英語版)を引き続き実施する。 4) 障がい者のために点字版パンフレット等を引き続き配布する。 5) 「総合案内パンフレット」(7言語(8種): 日、英、中(簡体字・繁体字)、韓、仏、独、西)を制作・配布する。 6) 本館2階「日本美術の流れ」の展示を外国人に理解してもらうために、より基礎的な解説を盛り込んだ、3言語(英、中、韓)のパンフレットを継続して制作・配布する。 7) 育児中の来館者が快適に観覧できるよう託児サービスを提供する。									
担当部課	総務部総務課 学芸企画部博物館教育課 学芸企画部広報室			事業責任者	課長 竹之内勝典 課長 小林 牧 教育普及室長 小山弓弦葉 室長 伊藤信二				
【実績・成果】 (東京国立博物館) 3) 24年度より公開しているアプリ「トーハクナビ」(日・英)の提供を継続した。 26年4月にはAndroid版とiOS版コンテンツで機能とコンテンツを統一したver. 2.0を公開し、さらに10月にバージョンアップ(ver. 3.0)を行い、「本館2階 日本美術の流れコース」に新たに「今日のオススメ」作品ガイド機能を搭載した。また、iOSアプリ「法隆寺宝物館30分ナビ」(日本語・英語対応)を引き続き公開した。 4) 障がい者の方のための点字版パンフレット等を引き続き配布した。 5) 総合案内パンフレット「案内と地図」(7言語(8種): 日、英、中(簡体字・繁体字)、韓、仏、独、西)の制作・配布を行った。 6) 本館2階「日本美術の流れ」の展示を外国人に理解してもらうために、より基礎的な解説を盛り込んだ3言語(英、中、韓)のカラーパンフレットを継続して制作・配布した。展示テーマと主な展示作品の解説を収録した日本語版は展示替えに応じて更新・配布した。11月、「トーハクナビ」の「今日のオススメ」作品ガイドの配信開始に伴い、『博物館ニュース』ページ中の「日本美術の流れ」を「今日のオススメ」と連動させ、アプリ掲載作品ガイドをかねるパンフレット「日本美術の流れ 今日のオススメ」として作成し、配布した。また、総合文化展の見学ポイントを示し、鑑賞と理解を促す子供向けワークシート「本館1階見学マップ」「本館2階見学マップ」「暮らしの道具 今昔」「日本の伝統もよう」の4種を制作・配布した。 7) これまで試行実施に留まっていた託児サービスを、26年度より通年で実施した。									
【補足事項】 3) 各アプリの今年度のダウンロード件数は以下の通りである。 ・Android版「トーハクナビ」2,615件(累計6,353件、24年4月18日公開) ・iOS版「トーハクナビ」5,995件(累計8,923件、25年9月26日公開) ・iOSアプリ「法隆寺宝物館30分ナビ」1,071件(累計22,926件、23年1月20日公開) (東京国立博物館) 6) 「日本美術の流れ」パンフレット 日本語版計17回更新(第312号～第329号)、「日本美術の流れ 今日のオススメ」パンフレット(26年1月から各月1回) 7) 託児サービスは特別展の有無に限らず通年で実施した。会場は昨年度までの会議室ではなく、正門プラザ内に新設された託児室を使用。サービスは原則毎月第1、第3土曜日、第2、第4水曜日の4回提供を行い、26年4月23日(水)～12月20日(土)の30回実施、利用者数は58人(児童数60人)だった。昨年度に引き続き、アンケートではご利用いただいたすべてのお客様から、サービスに対して満足であるとの回答を得た(「大変良かった」91%、「良かった」9%)。今後は更に利用者を増やすことができるよう、ウェブサイト上での告知等、引き続き広報活動を進める予定である。 ○新設された正門プラザ内に授乳室を開設した。 ○23年度より開始したベビーカー貸出サービスを継続した。									
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価	経年 変化	22	23	24	25
リーフレット等		7言語	7言語	B		7	7	7	7
【年度計画に対する総合評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 順調。「トーハクナビ」の作品解説(日・英)掲載開始により、本館展示案内のいっそうの充実がはかられた。また、託児サービスの本運用を行うなど、多岐にわたり観覧環境の整備に努めた。							
【中期計画記載事項】施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 順調。「トーハクナビ」の作品解説(日・英)掲載開始により、より時代に即したサービスを提供できた。託児サービスを始めとして、来館者の様々なニーズに応じた観覧環境の整備を着実に進めている。							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信																			
事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ①施設・設備等の充実																			
【年度計画】 (4館共通) 1) 特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図る。 (京都国立博物館) 1) 快適な観覧環境を提供するための平成知新館の建替プログラムを継続して推進する。 2) 館内案内リーフレット(6言語：日、英、中、韓、仏、西)を継続して制作・配布する。																				
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長 植田義雄 部長 松本伸之																	
【実績・成果】 (4館共通) 1) 特別展及び平常展（平成知新館名品ギャラリー）において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図った。 (京都国立博物館) 1) 25年度に展示製作工事が完了した平成知新館（名品ギャラリー）の開館準備として、より快適な観覧環境を提供するため、外構工事（本館前庭整備）、南門ショップ改修整備、サイン追加整備を実施した。 2) 前年度に製作した館内案内リーフレット(6言語：日、英、中、韓、仏、西)を継続して配布した。また、平成知新館展示案内リーフレット(6言語：日、英、中、韓、仏、西)を新規に制作・配布した。																				
【補足事項】 (4館共通) 1) 音声ガイド利用台数 計76,671台 特別展覧会「南山城の古寺巡礼」（日本語のみ）8,753台 平成知新館オープン記念展「京へのいざない」（4言語：日、英、中、韓）18,246台 特別展覧会「国宝 鳥獣戯画と高山寺」（日本語のみ）40,328台 平成知新館 名品ギャラリー(4言語：日、英、中、韓)9,374台 (京都国立博物館) 1) ・文化財保存修理所の車椅子用便所を温水暖房付便器に改修した。 ・南門休憩室を文化財保護基金コーナーに改修し、南門ミュージアムショップを拡充した。 ・平成知新館開館に合わせて重要文化財旧表門「正門」を一般のお客様の退館及び、団体のお客様の入退館用として利用を開始した。あわせて表札を新たに製作した。 ・植込み・芝生の改修や屋外展示物の配置替えを行い、本館前広場をシンメトリーに整えた。																				
 南門に新設された保護基金コーナー  表札が改められた正門  中央部の植込みを改修し東西軸線を強調																				
<table><tr><td>【定量的評価】項目</td><td>26年度実績</td><td>目標値</td><td>評価</td><td rowspan="2">経年変化</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td></tr><tr><td>音声ガイド貸出台数 リーフレット等</td><td>76,671台 6言語</td><td>— 6言語</td><td>— B</td><td>47,668 6</td><td>34,095 6</td><td>35,037 6</td><td>17,202 6</td></tr></table>				【定量的評価】項目	26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25	音声ガイド貸出台数 リーフレット等	76,671台 6言語	— 6言語	— B	47,668 6	34,095 6	35,037 6	17,202 6
【定量的評価】項目	26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24		25											
音声ガイド貸出台数 リーフレット等	76,671台 6言語	— 6言語	— B		47,668 6	34,095 6	35,037 6	17,202 6												
<table><tr><td>【年度計画に対する総合評価】 評価：A</td><td colspan="3">【判定根拠、課題と対応】 判定根拠：平常展（平成知新館名品ギャラリー）音声ガイドにおいて多言語（4言語）を導入し、積極的な情報提供を推進した。庭園も含めた施設全体として意匠統一された整備を行うことで、快適かつ美的な環境を実現し、各種メディアから高い評価を得て集客増に繋がった。</td></tr></table>				【年度計画に対する総合評価】 評価：A	【判定根拠、課題と対応】 判定根拠：平常展（平成知新館名品ギャラリー）音声ガイドにおいて多言語（4言語）を導入し、積極的な情報提供を推進した。庭園も含めた施設全体として意匠統一された整備を行うことで、快適かつ美的な環境を実現し、各種メディアから高い評価を得て集客増に繋がった。															
【年度計画に対する総合評価】 評価：A	【判定根拠、課題と対応】 判定根拠：平常展（平成知新館名品ギャラリー）音声ガイドにおいて多言語（4言語）を導入し、積極的な情報提供を推進した。庭園も含めた施設全体として意匠統一された整備を行うことで、快適かつ美的な環境を実現し、各種メディアから高い評価を得て集客増に繋がった。																			
【中期計画記載事項】施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。																				
<table><tr><td>【中期計画に対する評価】 評価：A</td><td colspan="3">【判定根拠、課題と対応】 判定根拠：平成知新館建替プログラムの実施及び平成知新館展示案内リーフレット制作・配布等各種案内の充実を通じ、快適な観覧環境の提供を行った。</td></tr></table>				【中期計画に対する評価】 評価：A	【判定根拠、課題と対応】 判定根拠：平成知新館建替プログラムの実施及び平成知新館展示案内リーフレット制作・配布等各種案内の充実を通じ、快適な観覧環境の提供を行った。															
【中期計画に対する評価】 評価：A	【判定根拠、課題と対応】 判定根拠：平成知新館建替プログラムの実施及び平成知新館展示案内リーフレット制作・配布等各種案内の充実を通じ、快適な観覧環境の提供を行った。																			

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ①施設・設備等の充実							
【年度計画】 (4館共通) 1) 特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図る。 (奈良国立博物館) 1) 快適な観覧環境を提供するための展示施設の計画的な整備を実施する。 2) 誘導サイン及び展示照明を整備し、より快適な観覧環境を確保する。 3) 正倉院展の際に託児室を設置する。 4) ウェブサイトで展覧会の混雑状況・待ち時間の速報を行う。 5) 館内案内リーフレット(7言語：日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して制作する。 6) なら仏像館の会場案内図、展示一覧を作成する。								
担当部課	総務課渉外室	事業責任者	総括専門職員 森継明広					
【実績・成果】 (4館共通) 1) 特別展において音声ガイドを活用した情報提供を行い、来館者に対するサービスの向上を図った。 (奈良国立博物館) 1) 快適な観覧環境を提供するための展示施設の計画的な整備を実施した。 2) 誘導サイン及び展示照明を整備し、より快適な観覧環境を提供した。 3) 正倉院展の会期中に、託児室を開設し、保育士2人が常駐して1歳児から未就学児までの預かりを予約制で実施した。 会期中142人の利用があった。 4) ウェブサイトでの展覧会の混雑状況・待ち時間の速報については、正倉院展において特別協力の新聞社ウェブサイト にリンクを張る形で行った。 5) 館内案内リーフレット(7言語：日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して制作した。 6) なら仏像館の会場案内図、展示リストを作成・配布した。								
【補足事項】 (奈良国立博物館) 1) なら仏像館休館後の庭園等開放実施のための通路の整備工事を行い、より快適な観覧環境を提供した。 2) 正倉院展の会期中には、臨時の誘導サインを増設し、より快適な観覧環境を提供した。								
								
通路整備		館内誘導サイン						
【定量的評価】項目	26年度実績	目標値	評価	経年 変化	22	23	24	25
音声ガイド貸出台数 リーフレット等	55,466台 7言語	— 7言語	— B		69,219 7	46,113 7	41,504 7	46,953 7
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 なら仏像館休館後の展覧会のない時期に庭園等の無料開放を実施して来館者サービスの維持に努めた。						
【中期計画記載事項】施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 館内案内リーフレットの多言語化を継続し、正倉院展では託児室を設置した。						

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ①施設・設備等の充実(1/2)							
【年度計画】 (4館共通) 1) 特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図る。 (九州国立博物館) 1)～5) (略)								
担当部課	学芸部企画課		事業責任者		課長 臺信祐爾			
【実績・成果】 (4館共通) 1) 特別展等において展覧会の内容のより深い理解を助けるための音声ガイドを実施した。								
【補足事項】 (4館共通) 1) 特別展音声ガイド ・特別展「近衛家の国宝－京都陽明文庫展」では、60,808人の来館者に対して8,955台の貸出があった（貸出率14.7%）。 ・特別展「クリーブランド美術館展－名画でたどる日本の美」では、70,794人の来館者に対して7,416台の貸出があった（貸出率10.5%）。 ・特別展「台北 国立故宮博物院－神品至宝－」では、256,070人の来館者に対して39,633台の貸出があった（貸出率15.5%）。 ・特別展「古代日本と百済の交流－大宰府・飛鳥そして公州・扶餘－」及び同時開催特別展「日本発掘－発掘された日本列島2014－」では、59,629人の来館者に対して6,111台の貸出があった。（貸出率10.2%）								
○文化交流展示音声ガイド（3言語対応：英語、中国語、韓国語） 文化交流展示音声ガイド実施状況（貸出件数） 文化交流展示 計5,550台 英語版 1,864台 中国語版 1,193台 韓国語版 2,493台								
 特別展音声ガイド貸出風景								
 音声ガイド利用の様子								
【定量的評価】項目	26年度実績	目標値	評価	経年 変化	22	23	24	25
音声ガイド貸出台数	67,665台	－	－		81,717	56,993	114,064	55,611
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 本年度の特別展「台北 国立故宮博物院－神品至宝－」において来館者数が多かった影響で、前年度より貸し出し台数が増加しており、来館者の理解に役立っている。						
【中期計画記載事項】施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 所期の目的を達成しており、順調に推移している。						

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ①施設・設備等の充実(2/2)							
【年度計画】 (4館共通) 1) (略) (九州国立博物館) 1) 快適な観覧環境を提供するための展示施設等の調査・分析及び検討を進める。 2) 来館者にとって分かりやすい展示室内サインを開発し、快適な鑑賞環境を提供する。 3) 館内案内リーフレット(7言語：日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して制作する。 4) 文化交流展示室の展示を、日本文化に初めて接する海外の来館者にも理解しやすいような、外国語のパンフレットを刊行する。 5) 英語・中国語・韓国語版の文化交流展示室のマップを継続して制作する。								
担当部課	学芸部企画課 展示課 総務課	事業責任者	課長 臺信祐爾 課長 楠井隆志 課長 阿部 勝					
【実績・成果】 (九州国立博物館) 1) 開館10周年に向けて、文化交流展示室のケース配列を再検討し、展示テーマの見直しや中央部分の活用等について議論を重ねた。 2) 分かりにくいという声のあった関連展示室サインの場所とデザインについて、デザイナーへの提案要件事項を整理し、開館10周年を機にリニューアルを図る予定である。 3) 館内案内リーフレット(7言語：日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して作成・配布した。 4) 文化交流展示室では引き続き、英語・中国語・韓国語版のマップを展示替に応じて更新し、作成・配布した。 (中期計画記載事項) ・身障者トイレに幼児用補助便座を取り付けた。(6ヵ所：1階、3階、4階) ・公益財団法人日本博物館協会が実施する車椅子・ベビーカーの寄贈事業を活用し、ベビーカーを新たに2台導入した。 ・斜行リフト案内板(国博通り側)に英語・中国語・韓国語の案内文を追記した。								
【補足事項】 (九州国立博物館)								
		障がい者トイレに設置した幼児用補助便座						
【定量的評価】項目	26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
リーフレット等	7言語	7言語	B		7	7	7	7
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 身障者トイレに幼児用補助便座を取り付けるなど利用者へ配慮した。						
【中期計画記載事項】施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 ベビーカーを新たに2台導入し、斜行リフト案内板に英語・中国語・韓国語の案内文を追記するなどして利用者に配慮した取り組みを推進している。						

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ②来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営		
【年度計画】 (4館共通) 1)来館者のニーズを引き出すため来館者調査を実施し、その結果を改善に活かす。 2)混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を立て、収容力に応じた入場者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの対象となる文化財の解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。			
担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長 竹之内勝典
【実績・成果】 (4館共通) 1)・タッチパネルアンケート(特別展、総合文化展)を平成館、本館、東洋館で開催された全ての特別展及び総合文化展でアンケートを実施し、集計結果を元に環境改善に努めた。 ・「総合文化展100万人プロジェクト」の一環として、館内環境の整備や外国人来館者対応の問題点の洗い出しなどに努めた。 2)特別展「台北 國立故宮博物院－神品至宝－」において、期間中の混雑対応等、展覧会場の快適な環境維持に努めた。			
【補足事項】 1)・定期的にアンケートの項目を見直し、要望が多いキャプション等への指摘に対して改善を行った。 ・お客様からの質問・意見については、担当部署へ照会するとともに館内で情報共有を図った。また、質問には迅速に対応した。 ・100万人プロジェクトの一環として、外国人を対象としたモニタリング調査を実施し、実際の来館体験をヒアリングした。作品解説や館内案内などに問題があったため、次年度以降順次改善予定。 ・100万人プロジェクトの一環として、展示作品の音声ガイドを総合文化展に導入。既存の「トーハクなび」に作品解説を追加し、より初心者にもわかりやすい解説を目指した。英語版も同時リリースした。 ・100万人プロジェクトの一環として、外国人来館者を想定して館内一部にて試験的にWiFiを導入した。今後も上野地区等と連携の上、順次導入予定。 2)特別展会場における混雑対応 ・特別展「台北 國立故宮博物院－神品至宝－」では、入場待ちのお客様に少しでも快適にお並びいただけるよう、テントの増設やミストマシン、給水所の設置、移動販売の実施などを行った。 ・特別展「台北 國立故宮博物院－神品至宝－」の『翠玉白菜』特別展示期間中の2週間及び「日本国宝展」の期間の最終週は、開館時間を延長した。 ○上野公園と周辺博物館・美術館で開催するイベント「創エネ・あかりパーク2014」に協力し、施設への美術品画像の投影と期間中の開館時間延長を実施した。			

			
外国人モニタリング調査の様子			
			
トーハクなび英語版作品解説			

【定量的評価】項目	26年度実績	目標値	評価		22	23	24	25
栄西と建仁寺 満足度	72%	—	—	経年変化	—	—	—	—
キトラ古墳壁画 満足度	63%	—	—		—	—	—	—
台北 國立故宮博物院－神品至宝－ 満足度	63%	—	—		—	—	—	—
東アジアの華 陶磁名品展 満足度	60%	—	—		—	—	—	—
日本国宝展 満足度	70%	—	—		—	—	—	—
3.11 大津波と文化財の再生 満足度	59%	—	—		—	—	—	—
みちのくの仏像 満足度	79%	—	—		—	—	—	—
総合文化展 満足度	77%	—	—		88%	65%	70%	78%

【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 アンケートでの満足度に大きな変化はなく、アンケートやモニタリング調査で出された意見や要望について引き続き検討が必要。特に特別展により長時間の待ち時間が発生したものがあったため、今後の混雑対策について検討中である。
【中期計画記載事項】 一般来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的実施する。調査結果から来館者のニーズを把握し、観覧料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。また、施設の収容力に応じた来館者数を確保するとともに、混雑時の対応を含め利用者に配慮した運営を行う。	
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 外国人をはじめとする一般来館者の意見については聴取できているため、それを基に今後改善を行う。混雑時の観覧環境の維持も課題である。

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信										
事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ②来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営										
【年度計画】 (4館共通) 1) 来館者のニーズを引き出すため来館者調査を実施し、その結果を改善に活かす。 2) 混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を立て、収容力に応じた入場者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの対象となる文化財の解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。 (京都国立博物館・奈良国立博物館) 1) 特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。 (京都国立博物館) 1) モニターを委嘱し、提言を受け、博物館運営に反映する。											
担当部課	総務課			事業責任者	総務課長 植田義雄						
【実績・成果】 (4館共通) 1) 来館者アンケートを実施し、その結果を改善に生かした。 2) 混雑時には入場制限を行い、来館者の安全の確保、快適な観覧環境の維持に努めた。 (京都国立博物館・奈良国立博物館) 1) 特別展覧会等に関する専門家の展覧会評を求め、『京都国立博物館だより』に掲載した。 (京都国立博物館) 1) 小学校・中学校・高等学校の教員、キャンパスメンバーズ加盟校の学生及び外国人招致活動用務に携わっている方、近畿地区在住の外国人の方へモニターを委嘱し、提言を受けた。館内で情報を共有し、展覧会を含めた博物館運営に反映した。											
【補足事項】 (4館共通) 2) ・明治古都館内及び庭園内において、混雑状況に応じて休憩場所の箇所を変更し、お客様が休憩しやすいようにした。前年度に引き続いて、特別展会期中、日よけテント、待合所テントの設置、自動販売機及び観光客の旅行用大型バッグ(カート)の収納が可能な大型コインロッカーの増設も行った。 ・また、前年度に引き続き、特別展会期中に入館までの待ち時間等の情報をウェブサイト等で掲載した。 ・「鳥獣戯画と高山寺」展会期中は、展示室内の混雑を避けるため入館制限を行った。入館待ちのお客様のために、明治古都館前にテントを設置した。 (京都国立博物館) 1) ・作品の展示期間についてもっと積極的に情報提供すべきとの意見があったため、広報刊行物において展示期間を積極的に記載し、情報提供を行った。 ○職員等への防災・接遇研修等 ・当館職員を対象に、普通救命講習及びAED取扱講習会を実施した。全事務職員が普通救命講習を受講しており、衛士は上級救命講習を受講している。AED取扱についても繰り返し訓練している。 ・各展覧会の開催期間中に火災及び地震を想定した避難誘導訓練を実施し、職員等の防災に対する意識を高めた。 ・京都市総合防災訓練に参加し、庭園内において支援物資の配布や情報提供の訓練を行った。											
 入館待ちのお客様のためのテント (「鳥獣戯画と高山寺」会期中)											
 避難誘導訓練風景											
【定量的評価】項目				26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
南山城の古寺巡礼 満足度				92%	—	—		—	—	—	—
国宝 鳥獣戯画と高山寺 満足度				84%	—	—		—	—	—	—
平常展 満足度				74%	—	—		—	—	—	—
【年度計画に対する総合評価】 評定：B				【判定根拠、課題と対応】 特別展覧会ではテントやコインロッカーの増設を行い、混雑状況に応じて入館制限も行うなど、快適な観覧環境を実現すべく、施策を着実に実施した。							
【中期計画記載事項】一般来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的 to 実施する。調査結果から来館者のニーズを把握し、観覧料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。また、施設の収容力に応じた来館者数を確保するとともに、混雑時の対応を含め利用者に配慮した運営を行う。											
【中期計画に対する評価】 評定：B				【判定根拠、課題と対応】 来館者へのアンケートや専門家による批評、モニターからの提言などの取り組みを継続的にやっている。							



入館待ちのお客様のためのテント
(「鳥獣戯画と高山寺」会期中)



避難誘導訓練風景

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信										
事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ②来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営										
【年度計画】 (4館共通) 1) 来館者のニーズを引き出すため来館者調査を実施し、その結果を改善に活かす。 2) 混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を立て、収容力に応じた入場者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの対象となる文化財の解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。 (京都国立博物館・奈良国立博物館) 1) 特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。											
担当部課	総務課渉外室			事業責任者		総括専門職員 森継明広					
【実績・成果】 (4館共通) 1) 来館者のニーズを引き出すため来館者にアンケートを実施し、その結果を改善に活かした。 2) 混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を行い、実際の混雑に対しては、収容力に応じた来館者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの対象となる文化財の解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努めた。 (京都国立博物館・奈良国立博物館) 1) 特別展「国宝 醍醐寺のすべて―密教のほとけと聖教―」に関し、専門家の展覧会評を『奈良国立博物館だより』92号に掲載した。											
【補足事項】 (4館共通) 1) アンケートなどの意見を反映して、下記の改善を行った。 ・正倉院展の会期中、展示ケースのガラス清掃を業者委託により実施した。 ・正倉院展の会期中、臨時誘導サインを設置した。 ・正倉院展の会期中、館内やトイレを見回り、ゴミや汚れを発見次第、迅速に対応を行った。 ・ウェブサイトから寄せられたご意見等の質問に対し、迅速に対応した。 2) 混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を立て、実際の混雑に対して工夫等を行った。 ・正倉院展では、入場待ちの来館者のためテントを設置し、ピロティではモニターを設置して展示案内や館内注意事項の映像を流した。 ・正倉院展では、混雑状況(待ち時間)の速報を、ハローダイヤル、近鉄奈良駅、J R奈良駅及び読売新聞大阪本社(特別協力)のウェブサイトと連携して行った。 ・正倉院展では、館内の混雑調整のための入場制限や入場待ち列の混雑緩和のための誘導案内を行った。											
【定量的評価】 項目				26年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	22	23	24	25
武家のみやこ 鎌倉の仏像 満足度				85%	—	—		—	—	—	—
国宝 醍醐寺のすべて 満足度				84%	—	—		—	—	—	—
第66回正倉院展 満足度				69%	—	—		77%	73%	77%	70%
名品展 満足度				81%	—	—		75%	74%	79%	84%
【年度計画に対する総合評価】 評価：B				【判定根拠、課題と対応】 来館者アンケートを実施し、その結果をもとに改善を実施した。							
【中期計画記載事項】 一般来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から来館者のニーズを把握し、観覧料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。また、施設の収容力に応じた来館者数を確保するとともに、混雑時の対応を含め利用者に配慮した運営を行う。											
【中期計画に対する評価】 評価：B				【判定根拠、課題と対応】 特別展について専門家の展覧会評を『奈良国立博物館だより』に掲載している。また一般来館者のアンケートを実施し改善すべきところを把握し、特に混雑する正倉院展については工夫してその緩和に努めた。							



入場待ち列テント



入場待ち列テント

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信											
事業名	(3)快適な観覧環境の提供 ②来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営											
【年度計画】 (4館共通) 1)来館者のニーズを引き出すため来館者調査を実施し、その結果を改善に活かす。 2)混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を立て、収容力に応じた入場者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの対象となる文化財の解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。												
担当部課	総務課		事業責任者		課長 阿部 勝							
【実績・成果】 (4館共通) 1)来館者のニーズを引き出すため、文化交流展示及び各特別展で来館者調査を実施した。 2)・混雑が予想される展覧会（特別展「台北 國立故宮博物院―神品至宝―」）について、入場規制、展示レイアウトの工夫をし、展覧会場の快適な環境維持に努めた。 ・来館者のニーズ等を把握するため、識者や市民代表などの外部委員による懇話会を開催した。												
【補足事項】 (4館共通) 1)管理運営の改善のためアンケート結果を関係各課へ回覧した。 ・平常展アンケート 満足度 62% 回答数 267件 (とても良い 36%、良い 26%、普通 14%、あまりよくない 1%、よくない 4%、無回答 19%) 2)混雑が予想された特別展「台北 國立故宮博物院―神品至宝―」では、以下の対応を行った。 ・ハローダイヤル、日本道路交通情報センターなど関係各所にファックスを送信し、混雑状況の周知を図った。 ・主催事務局において、特別展「台北 國立故宮博物院―神品至宝―」公式ウェブサイト、「Facebook」にて待ち時間を発信した。 ・入場待ちの来館者のために、ミュージアムホールにて展示品紹介映像を流した。(10月7日～20日) ○開館10周年に向けて、「次の10年を考える懇話会」を開催し(1回)、外部委員からの要望・意見聴取等を実施し、「次の10年を考える懇話会のまとめ」を作成した。 ○太宰府消防署の協力により、地域と連携した防災訓練を実施した。 ○筑紫野警察署の協力により、不審物発見時(爆破予告)避難訓練を実施した。												
					特別展「台北 國立故宮博物院―神品至宝―」 会場内待ち列の様子							
【定量的評価】項目					26年度実績	目標値	評価		22	23	24	25
近衛家の国宝 京都・陽明文庫展 満足度					88%	—	—	経年変化	—	—	—	—
クリーブランド美術館展 一名画でたどる日本の美― 満足度					86%	—	—		—	—	—	—
台北 國立故宮博物院 ―神品至宝― 満足度					79%	—	—		—	—	—	—
古代日本と百済の交流 ―大宰府・飛鳥そして公州・扶余― 満足度					87%	—	—		—	—	—	—
発掘された日本列島2014 満足度					87%	—	—		—	—	—	—
文化交流展 満足度					62%	—	—		59%	65%	70%	65%
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 アンケート結果は概ね好評を得ている。また、管理運営のためのアンケート結果を改善に向けて活かしている。さらには、外部からの要望意見聴取等をまとめという形で発行した。なお、混雑が予想された特別展「台北 國立故宮博物院―神品至宝―」については、東京国立博物館へ事前調査を行い、情報収集し、その情報を基に混雑対策を講じることができた。その結果、入場の待ち時間はあったが、混乱なく入場案内ができた。										
【中期計画記載事項】 一般来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的の実施する。調査結果から来館者のニーズを把握し、観覧料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。また、施設の収容力に応じた来館者数を確保するとともに、混雑時の対応を含め利用者に配慮した運営を行う。												
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 管理運営のためのアンケート結果を関係各課で改善に向けて活かしている。また、外部委員のまとめを全職員に配布し、来館者ニーズ等に対する職員の意識改革の推進を図った。なお、混雑が予想される特別展については、関係部署と連携を取り対応等を講じることができた。										

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ③ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実								
【年度計画】 ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、利用者サービスの向上に努める。 (4館共通) 1)オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。 (東京国立博物館) 1)正門周辺の再開発に伴い設置する無料ゾーンに、ミュージアムショップを併設する。 2)黒田記念館別館のカフェで黒田清輝作品関連のグッズ販売を行う。									
担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長	竹之内勝典					
【実績・成果】 (4館共通) 1)・ミュージアムグッズは、東京国立博物館協力会と協議を重ね、新たな商品の開発に努めた。26年度は、考古フィギュア、卓上カレンダーなどを新たに販売開始した。 ・レストランでは、特別展に合わせたメニューを提供する等、サービスの向上に努めた。 ・低価格帯のカフェがないとのお客様の声を受けて、26年10月の「アジア・フェス」期間中にケータリングカーによる軽食の屋外販売を試行的に行い、順調であったことから、3月のお花見の時期に合わせて本格的に野外販売を開始した。 (東京国立博物館) 1)正門プラザの無料ゾーンに、ミュージアムショップを併設し、26年4月15日にオープンした。 2)黒田記念館別館の上島珈琲店で黒田清輝作品関連商品の販売を引き続き行った。また、27年1月2日の黒田記念館のリニューアルオープンにあわせ、黒田記念館内にミュージアムショップをオープンし、同日よりオリジナルグッズを販売した。									
【補足事項】 (4館共通) 1)・オリジナル商品として、海洋堂による考古フィギュアの第2弾の販売を開始した。 ・東洋館の展示作品を集めた卓上カレンダーを製作、販売を開始した。 ・定期的にミュージアムショップを利用・非利用した来館者を対象にアンケート調査を実施した。 ・オリジナル切手シートを製作、販売を開始した。 ○今後もミュージアムショップやレストランと連携協力を図りつつ、利用者のニーズをより適切に反映できるよう努めていく必要がある。									
 考古フィギュア第2弾  正門プラザ ミュージアムショップ  黒田記念館 ミュージアムショップ									
【定量的評価】 項目		26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
－		－	－	－		－	－	－	－
【年度計画に対する総合評価】 評価： B		【判定根拠、課題と対応】 レストランやショップと協力しながら、サービスの向上に努めている。							
【中期計画記載事項】 ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。									
【中期計画に対する評価】 評価： B		【判定根拠、課題と対応】 引き続き利用者の意見を収集し、サービスの向上に努めている。							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ③ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実								
【年度計画】 ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、利用者サービスの向上に努める。 (4館共通) 1)オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。 (京都国立博物館) 1)レストラン利用者にアンケート調査を行いサービス向上に努める。 2)平成知新館に新たなレストランを設け、更なる利用者サービス向上を図る。									
担当部課	総務課		事業責任者		総務課長 植田義雄				
【実績・成果】 (4館共通) 1)新規にオリジナルグッズを作成し、また展覧会に応じた関連商品、関連書籍等を取り揃え、サービスの向上に努めた。 (京都国立博物館) 1)レストラン利用者にアンケート調査を実施し、アンケートの集計結果をレストラン外部委託業者に提示し、さらなる接客サービスの向上に努めた。 2)平成知新館に新たなレストランを設けた。 ○平成知新館内に新たなミュージアムショップを設けた。									
【補足事項】 ・南門施設は21年7月にオープンし、ミュージアムショップ、レストラン、インフォメーションコーナーがあり、入場料を払わずにお客様が利用できるスペースとなっている。3業務とも外部業者に委託しているが、連絡を密にとり、当館の要望に応えた運営になるよう心がけた。 ・明治古都館（特別展示館）が閉館の期間についても、ミュージアムショップ、レストラン及びインフォメーションコーナーは営業を行った。 ・インフォメーションコーナーでは、展覧会関係及び京都観光案内等のチラシ掲示や、英会話のできる人員の配置など、当館の案内だけでなく京都市内の観光案内等も行った。 ・当館オリジナルグッズ（クリップ、立体カード、ジグソーパズル等）を引き続き販売した。 ・来館できない方には、図録等の通信販売を実施した。 ・ミュージアムショップにおいて、25年度に引き続き、350種類の絵はがきを販売し、日本美術を中心としたグッズを販売した。 ・手ぬぐいやタンブラーなど季節感のあるものの販売も行った。26年9月から新たに竹虎ぬいぐるみ、名品トランプ、チケット入れ、平成知新館開館記念切手等の販売を開始し好評であった。									
 竹虎ぬいぐるみ									
 名品トランプ									
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
－		－	－	－		－	－	－	－
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 平成知新館内に新たにレストラン及びミュージアムショップを設け、利用者サービスの向上に努めるなど、着実な成果をあげた。							
【中期計画記載事項】ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 ミュージアムショップやレストランのサービスについて、利用者に対し定期的にアンケートを行うなど、快適な観覧環境を実現するための事業を的確に推進している。							

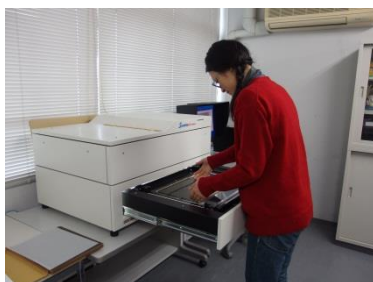
中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ③ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実								
【年度計画】									
ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、利用者サービスの向上に努める。									
(4館共通)									
1)オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。									
(奈良国立博物館)									
1)ノベルティグッズを作成し、来館者に配布するなどのサービスを行う。									
2)仏教美術に関する図書の販売の充実を図る。									
担当部課	総務課渉外室		事業責任者		総括専門職員 森継明広				
【実績・成果】									
(4館共通)									
1)オリジナルグッズ（元気になる仏像シリーズ、正倉院展模様シリーズ、博物館グッズ）の商品をミュージアムショップで販売し、サービスの向上に努めた。									
(奈良国立博物館)									
1)・正倉院展のオータムレイトの観覧券を購入した方に非売品のしおりを配布した。									
・27年1月2日に来館された方に正月サービスとして非売品のオリジナルステッカーを配布した。									
2)仏教美術に関する図書の販売の充実を図った。									
【補足事項】									
(4館共通)									
1)堅苦しくなりがちな仏像をかわいらしくデザインし、手を上げている、走っている等の仏像の動きをポップなカラーで表現した「元気になる仏像シリーズ」の新品ミニクリアファイル、正倉院展模様のお盆「桜盆」、お線香・お香等をミュージアムショップで開発し販売した。									
  									
ミニクリアファイル お盆「桜盆」 お線香・お香									
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
－		－	－	－		－	－	－	－
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 ノベルティグッズを作成して来館者に配布し、サービスの向上に努めた。また、ミュージアムショップにおいて、オリジナルグッズを新たに開発し販売した。							
【中期計画記載事項】		ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。							
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 ミュージアムショップにおけるオリジナルグッズや仏教美術に関する図書の販売について、利用者の意見を参考に充実を図った。また、レストランにおいても利用者の意見を収集し、サービスの向上に努めており、中期計画期間中の改善が順調に行われている。							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(3)快適な観覧環境の提供 ③ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実								
【年度計画】									
ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、利用者サービスの向上に努める。									
(4館共通)									
1)オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。									
(九州国立博物館)									
1)特別展に関連した特別メニューを提供するなど、サービスの向上に努める。									
担当部課	広報課		事業責任者		課長 田端幸朋				
【実績・成果】									
(4館共通)									
1)ミュージアムショップでは、特別展及び文化交流展示の展示内容に即した商品陳列を行い、オリジナル商品の陳列面積を増やすとともに地場産業のお菓子やグッズなどを提供した。									
(九州国立博物館)									
1)レストランでは、特別展に関連したメニューを期間限定で提供した。									
【補足事項】									
(4館共通)									
1)オリジナルグッズとして特別展の図柄をデザインした「さいふごま」を製作した。									
新聞の「お薦めのミュージアムグッズが買える東西10施設」という企画の西日本部門で4位に選ばれた。									
(九州国立博物館)									
1)特別展に関連したメニューを提供した。									
・特別展「近衛家の国宝」では、京料理に馴染みのある鰯や胡麻豆腐を取り入れ、京都産の野菜や丹羽の黒豆、西京味噌等を使い「京都」をイメージした『ミュージアム松花堂弁当「京春御膳」』や京都の食材を使ったランチコース等を提供した。 ・特別展「クリーブランド美術館展」では、“アメリカン満載”のスペシャルランチ、アメリカンリブローズステーキセット等を提供した。 ・特別展「台北 國立故宮博物院－神品至宝－」では、台北 國立故宮博物院敷地内のレストラン「故宮晶華」の牛肉麵（台湾の牛肉麵コンクール優勝メニュー）等を提供した。									
特別メニューが好評で、テレビで取り上げられた。また、入店待ちの行列ができることが多かった。									
									
アメリカンリブローズステーキセット									
									
グランプリ牛肉麵									
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
－		－	－	－		－	－	－	－
【年度計画に対する総合評価】		【判定根拠、課題と対応】							
評価：B		ミュージアムショップが新聞に取り上げられ、特別展「台北 國立故宮博物院」開催中はレストランが大勢の方で賑わうなど順調である。							
【中期計画記載事項】		ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。							
【中期計画に対する評価】		【判定根拠、課題と対応】							
評価：B		経営側との頻繁な意見交換を行うなど、中期計画に基づいてサービスを改善するための取り組みを行った。							

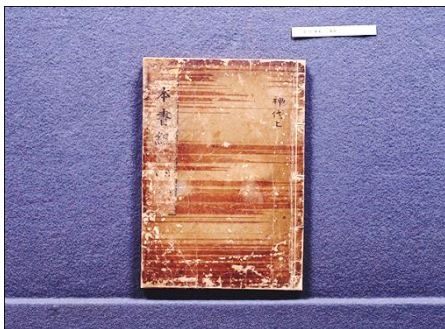
中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ①デジタル化の推進								
【年度計画】(4館共通) 1) 収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びインターネットでの公開を継続して行う。 2) 収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語（日、英、中、韓、仏）の説明を付したデジタル高精細画像（e 国宝）を継続して公開する。 3) 約5,800件（東京：300、京都：2,000、奈良：3,000、九州：500）の収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施する。 (東京国立博物館) 1) 外部への公開を見据えた「列品管理プロトタイプデータベース」(学芸業務支援システム)の構築を進め、博物館機能の充実を図る。 2) 収蔵品に関する基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き推進する。 3) 収蔵品の和古書・洋古書のデジタル化を実施し、データを整備して、公開する。 4) 法隆寺献納宝物について、5ヵ国語（日、英、中、韓、仏）の説明を付したデジタル高精細画像（「法隆寺献納宝物デジタルアーカイブ」）等の提供を法隆寺宝物館にて継続して実施するとともに、システムの更新について検討する。									
担当部課	学芸企画部博物館情報課	事業責任者	課長 高橋裕次						
【実績・成果】(4館共通) 1) デジタル画像を資料館及びインターネットで公開した。 2) 国宝・重要文化財の高精細画像(e 国宝)を継続して公開した。またiOS、Androidそれぞれのアプリ版「e国宝」を継続して公開した。 3) 通常博物館で使用する形態の既存フィルムのデジタル化は大半が既に終了しており、今年度は、26年度新規フィルム撮影分及び25年度末撮影分にあたる、カラーフィルム41枚、モノクロフィルム38枚をデジタル化した。 (東京国立博物館) 1) 「列品管理プロトタイプデータベース」について、機能向上に向けてプログラムコードの大幅な整理を行うとともに、列品に関する調査結果のデータの流し込み機能を開発した。 2) 収蔵品情報のデータ化とデータ整備を推進した。 3) 収蔵する和古書・漢籍について25,991カット、また洋古書について10,820カットのデジタル撮影を行い、前年度までに撮影したものの一部を公開した。 4) 「法隆寺献納宝物デジタルアーカイブ」は故障のため25年4月より一時公開を停止しシステムの更新を行ったが、27年度の法隆寺宝物館の改修が完了した後、再度公開する予定である。 ○東京国立博物館情報アーカイブの運用を継続し、収蔵品、調査研究成果等の情報公開の充実を図った。									
【補足事項】(4館共通) 2) 各アプリ版「e国宝」の年度末時点でのダウンロード件数累計は以下の通りである。 ・iOSアプリ512,034件（23年1月20日リリース）参考：25年度末時点446,827件 ・Androidアプリ173,877件（25年2月6日リリース）参考：25年度末時点161,433件 (東京国立博物館) 3) 既存フィルムのデジタル化は大半が既に完了しているため、デジタル化件数目標値及び実績値は、新規撮影フィルム分を計上している。目標値300件に対し実績79件となった要因は、26年度の新規フィルム撮影件数は前年同様となると見込んで目標値を設定していたが、撮影そのもののデジタル化が計画策定時の予定以上に進み、デジタル化が必要なフィルムがそもそも少なかったことによるものである。デジタル化可能な分については全て実施しており、当事業の目的は達成されていると考える。今後は適正な評価のため、次期中期では、数値でなく文章表現での目標設定も検討している。 4) 利用者用端末を設置している法隆寺宝物館中2階資料室は、平成館工事に伴い26年12月から27年4月まで休憩室としており、平成27年度の法隆寺宝物館改修後の資料室再開と同時に利用者端末稼働となる見込である。 ○本館19室のリニューアルに伴い、「e国宝」のデータをタッチパネルで閲覧する「トーハクで国宝をさぐろう」及び三次元計測データをジェスチャーで操作する「トーハクをまわそう」をそれぞれ開発し、公開した。									
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数		79件	300件(79件)	D(B)		8,639	1,468	776	550,305
うちカラーフィルム		41件	—	—		5,136	1,392	715	304
うちモノクロフィルム		38件	—	—		3,503	76	61	1
うちマイクロフィルム		—	—	—		—	—	—	550,000
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 デジタル画像の公開、データベース開発やデータ整備等は順調である。既存フィルムのデジタル化はほぼ全て完了しているため、目標値の設定について見直しが必要である。一方、和古書・洋古書のデジタル化件数は増加している。また本館19室では先進的なシステムを開発し、データ公開を大きく充実させた。							
【中期計画記載事項】収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、データ整備及びデジタル化を推進する。また、整備したデータを公開するウェブサイトなどの公開システムの充実を行う。公開データの件数は継続的に増加させる。収蔵品等に関するデジタル化件数は、その都度目標を設定する。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 既存フィルムのデジタル化はほぼ完了しているが、その他のデータ整備や和古書・洋古書デジタル化を進めた。また本館19室では先進的な公開システムを開発した。							



リニューアル後の本館19室

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ①デジタル化の推進								
【年度計画】 (4館共通) 1) 収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びインターネットでの公開を継続して行う。 2) 収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語（日、英、中、韓、仏）の説明を付したデジタル高精細画像（e 国宝）を継続して公開する。 3) 約5,800件（東京：300、 京都：2,000、 奈良：3,000、 九州：500）の収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施する。 (京都国立博物館) 1) 収蔵品について6言語（日、英、中、韓、仏、西）の説明を付した国宝重要文化財・名品 高精細画像閲覧システムの整備を継続して実施する。									
担当部課	学芸部		事業責任者		列品管理室長 浅見龍介				
【実績・成果】(4館共通) 1) 収蔵品のデジタルデータを作成し、文化財情報システム及び公開収蔵品データベースのシステム修正およびデータ更新を随時行い、当館デジタルアーカイブ及び公開情報サービスを行った。 2) 収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語（日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語）の説明を付したデジタル高精細画像（e国宝）を継続して公開した。 3) ・収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を継続し、5,536件実施した。 ・フィルム用スキャナを運用し、既存フィルムのデジタル化を促進した。 ・ガラス乾板及びマイクロフィルムのデジタル化を行った。（詳細は処理番号2422を参照） (京都国立博物館) 1) 京都国立博物館所蔵国宝重要文化財・名品高精細画像公開システム「KNM GALLERY」の内容及び表示方法等について前年度に引き続きシステム修正を行った。 (中期計画記載事項)今年度は公開データを103件増加した。									
【補足事項】 (4館共通) 3) デジタル化に必要なフィルム量が膨大であるため、昨年度に引き続き、従来のアウトソーシングと同時に、館内でのスキャニング作業を積極的に行い、フィルムのデジタル化が促進され、費用削減にも貢献した。 ・館内のフィルム用スキャナを使用出来る要員を増やすことにより、館内でのスキャニング作業の充実をはかるとともに、8×10フィルム等の館内ではスキャニング出来ないフィルムを外注に出し、デジタル化を効率的に行うことができた。 (京都国立博物館) 1) 26年6月に当館ウェブサイトのリニューアル公開を行い、「KNM GALLERY」と合わせて相乗的かつ効果的な運用を図れるように、再構成した。									
									
京都国立博物館所蔵国宝重要文化財 ・名品高精細画像公開システム 「KNM GALLERY」			フィルムのスキャニング作業						
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価	経年 変化	22	23	24	25
収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数		5,536件	2,000件	A		—	2,165	2,732	2,682
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 既存フィルムのデジタル化は目標値を大きく上回った。しかし、6言語による高精細画像閲覧システムは費用対効果の面で問題が生じ、見直しを始めた。							
【中期計画記載事項】収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、データ整備及びデジタル化を推進する。また、整備したデータを公開するウェブサイトなどの公開システムの充実を行う。公開データの件数は継続的に増加させる。収蔵品等に関するデジタル化件数は、その都度目標を設定する。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 デジタル化は大幅に進めることができた。公開方法について課題が残った。言語によるアクセス件数を考慮して対応を検討したい。							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ①デジタル化の推進								
【年度計画】 (4館共通) 1)収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びインターネットでの公開を継続して行う。 2)収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語（日、英、中、韓、仏）の説明を付したデジタル高精細画像（e 国宝）を継続して公開する。 3)約5,800件（東京：300、京都：2,000、奈良：3,000、九州：500）の収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施する。 (奈良国立博物館) 1)収蔵品について情報の整備を継続して実施し、収蔵品データベースの充実を図る。 2)画像データベースの個別データを約2,000件追加更新する。 3)修理記録・古写真・ガラス乾板等の整理とデジタル化を推進し、運用方法について検討する。 4)仏教美術情報の公開・普及を図る。									
担当部課	学芸部資料室		事業責任者	室長 宮崎幹子					
【実績・成果】(4館共通) 1)収蔵品データベースと画像データベースの公開により、来館者及びインターネットでの情報提供を継続して行った。 2)国宝・重要文化財のデジタル高精細画像(e 国宝)を継続して公開した。 3)収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施した(5,154件)。 (奈良国立博物館) 1)収蔵品情報システムに新たに収蔵品となった文化財の情報を継続して蓄積し、内容の充実に努めた。これらは公開用の収蔵品データベースにも反映され、当館から発信する収蔵品の情報を充実させることが出来た。また画像データベースとのリンク情報も追加し、情報の効率的な運用と公開に努めた。 2)写真情報システムの個別データを5,447件追加更新した。このうち公開データは3,376件。 3)「日本美術院彫刻等修理記録」の整理とデータ修正が完了し、公開用のデータベースを新規に作成した。仏教美術資料研究センターでは全ての画像ならびにテキストデータ、インターネットでは全てのテキストデータを公開した(26年7月)。 4)仏教美術資料研究センターのウェブサイト運営し、蔵書、論文データの更新を行い内容の充実に努めた。 (中期計画記載事項) インターネットで公開している収蔵品データベース、画像データベースの公開件数を継続的に増加させている。									
【補足事項】 「日本美術院彫刻等修理記録」のデータベースを学芸部内で運用し、資料整理とデータ作成を継続していたが、この度作業が完了し、新規に公開用のデータベースを作成して、全ての情報の公開が実現した。このデータベースには、簿冊約400冊（約8万枚）分の修理記録と約7千枚のガラス乾板の画像及び関連テキストが格納されており、文化財に関する情報発信をさらに発展させることができた。 なお、(財)美術院国宝修理所の奈良・京都の各工房からは、全ての画像データを参照出来るように独自に設定をしており、現代の文化財修理事業への協力もより具体的に進めることができた。 既存フィルムの早期デジタル化完了を目指し、フィルムのデジタル化を昨年に引き続き重点的に行った。この作業は他業務との兼ね合いにより例年数値に変化が生じるため、目標値は人員の面からも概ね妥当と考える。									
									
「日本美術院彫刻等修理記録」データベース									
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数		5,154件	3,000件	S		4,311	5,297	4,924	7,615
写真データベースの個別データ追加更新件数		5,447件	2,000件	S		5,190	4,370	13,402	9,093
【年度計画に対する総合評価】 評価：S		【判定根拠、課題と対応】 既存フィルムのデジタル化を重点的に実施し、目標値を大幅に超える数値となった。既存データの訂正、非公開から公開への切り替えを行ったため、昨年度より若干減少したものの、引き続き既存フィルムのデジタル化を重点的に行っているため。							
【中期計画記載事項】収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、データ整備及びデジタル化を推進する。また、整備したデータを公開するウェブサイトなどの公開システムの充実を行う。公開データの件数は継続的に増加させる。 収蔵品等に関するデジタル化件数は、その都度目標を設定する。									
【中期計画に対する評価】 評価：S		【判定根拠、課題と対応】 目標値を大きく上まわり、かつデータの質の維持にも力を注いでおり、中期計画におけるデータ整備及びデジタル化について顕著な成果と言えるため。							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ① デジタル化の推進							
【年度計画】 (4館共通) 1) 収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びインターネットでの公開を継続して行う。 2) 収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語（日、英、中、韓、仏）の説明を付したデジタル高精細画像（e 国宝）を継続して公開する。 3) 約5,800件（東京：300、 京都：2,000、 奈良：3,000、 九州：500）の収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施する。 (九州国立博物館) 1) 収蔵品に関するコンテンツを順次追加し、デジタルアーカイブの充実を図る。 2) 対馬宗家文書データベース等の効率的な運用を検討し、実施する。 3) 海外調査で撮影した写真やビデオを展示や教育普及事業で活用するための整備を行う。								
担当部課	学芸部文化財課 交流課		事業責任者	課長 富坂 賢 教育普及室主任研究員 池内一誠				
【実績・成果】 (4館共通) 1) 「九州国立博物館収蔵品デジタルアーカイブ」の拡充を図り、館内及びインターネットで継続して収蔵品情報を発信した。 2) 収蔵品の国宝・重要文化財について、デジタル高精細画像(e 国宝)を継続して公開した。 3) 776件の収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施した。 (九州国立博物館) 1) 九州国立博物館デジタルアーカイブの運用・公開を継続した。 2) 対馬宗家文書データベースの運用・公開を継続した。 3) ミャンマーにおける伝統文化・工芸品等の実態を調査して写真に収め、今後の博物館教育の参考資料とした。次年度以降体験型展示室「あじっば」にてミャンマーの資料を展示する際に活用する予定である。								
【補足事項】 (九州国立博物館) 3) 体験用資料収集の過程で、ミャンマー現地における日常生活・伝統校文化・工芸品等についての写真及び動画撮影を行った。撮影カット数のべ1,256枚、撮影動画時間240分。撮影した写真及び動画は今後体験型展示室「あじっば」において随時活用の予定である。								
 フィルムのデジタル化画像 「紙本墨刷日本書紀 帆足長秋書入本」 (第1冊巻第1 表紙)								
【定量的評価】項目	26年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	22	23	24	25
収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数	776件	500件	A		1,391	2,146	1,450	62
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 デジタルアーカイブ及び宗家文書データベースの運用・公開を前年同様に実施した。また、ミャンマーにおける伝統文化・工芸品の実態を静止画・動画に収めることができ、且つ次年度以降の活用について具体的な方法等が確認できた。						
【中期計画記載事項】収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、データ整備及びデジタル化を推進する。また、整備したデータを公開するウェブサイトなどの公開システムの充実を行う。公開データの件数は継続的に増加させる。 収蔵品等に関するデジタル化件数は、その都度目標を設定する。								
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 収蔵品等のデータ整備及びデジタル化については順調に推移している。						

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ②博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化								
【年度計画】 美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図る。また、資料の登録や検索・利用については、最新の情報処理技術を用いた、活用しやすいシステムを開発する。 (4館共通) 1)約13,000件（東京：6,000、 京都：3,000、 奈良：3,000、 九州：1,000）の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備する。 (東京国立博物館) 1)資料館において、美術史等の情報及び資料を一般に広く公開するために、図書管理システム及び画像管理システムを軸とした図書資料、画像資料などのデータ整備を推進し、レファレンス機能とサービスの充実を図る。 2)法隆寺宝物館において、観覧者向け図書コーナーサービスを継続実施する。 3)調査・研究・教育など博物館の機能全般に関わる有益な情報及び関係資料を収集・蓄積する。 4)資料館の機能の拡充に向け、施設・設備の見直しを含めた、利用計画を策定する。									
担当部課	学芸企画部博物館情報課	事業責任者	課長 高橋裕次						
【実績・成果】(4館共通) 1)本年度は10,720件の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備した。 (東京国立博物館) 1)・資料館における美術史等の情報・資料の公開のため、8,115件の図書資料のデータ整備入力を行った。 ・博覧会資料565件と売立目録332件の書誌データを整備し、国立情報学研究所が提供する総合目録データベースへの登録を実施した。また所蔵する和雑誌のNCへの所蔵登録を継続し、1,995タイトルの所蔵情報を点検・登録した。 ・画像管理システムに画像データ10,720件を登録し、既存データ493件の修正を行って正確な情報の提供に努めた。 ・シーボルト旧蔵本の保存とデジタルアーカイブでの公開について図書館振興財団からの助成を受け、修理・保管箱作成(77冊)及びデジタル撮影(29冊)等を行い、一部をウェブサイトで公開した。 ・また助成金枠以外にも洋書28冊、漢籍79冊の貴重書のデジタル撮影を行った。 ・博覧会資料と売立目録について、中性紙封筒への収納を行った。また、博覧会関係資料、戦前目録類、洋書等約2,000点について大量脱酸の処理のための事前調査を行い、戦前目録492冊について脱酸化処理を実施した。 ・資料の閲覧、複写及びレファレンスサービスを継続し、資料館利用者数は前年度に引き続き増加した。 (6,118人 参考：25年度5,661人) ・「日本国宝展」の開催時期に合わせ、「東京国立博物館資料館 調べ方ガイド 1重要文化財」を作成し、資料館内での配布と、ウェブサイトでのPDF版公開を行った。また図書館システム改定に合わせ検索方法のガイド(冊子)を作成し、PDF版を公開した。 2)法隆寺宝物館において、観覧者向け図書コーナーサービスを継続した。(12月～年度末までは平成館工事に伴い飲食可能な休憩スペースとしたため中止。27年4月再開予定。) 3)当館開催の特別展(戦後分)の出品作品データベースを作成・維持した。また、刊行物に収載されている当館の所蔵品を調査し、約86冊の図書・雑誌のデータに列品番号の情報を入力した。 4)黒田記念館の書庫スペースについて、書架を設置し、資料の再配置の一環として一部の資料を移動した。									
【補足事項】(東京国立博物館) 1)・図書資料データ整備の内訳は、新規受入図書 6,849冊、既存図書の遡及入力1,266冊である。一部の個人寄贈図書を除いて遡及入力はほぼ完了したが、引き続きデータ整備を継続している。 ・博覧会資料と売立目録については従来当館独自に書誌を整備していたが、今回NCのルールに準拠して書誌を再整備した。またこれらの資料及び雑誌の所蔵登録の際、NCに書誌がない場合は原則としてNC書誌を新規作成しCiNii Booksでも検索できるようにしている。 4)・図書資料の展示コーナー及び新着書架において、所蔵資料紹介の展示(年2回)、及び月毎の新着資料の展示を行った。また、展覧会開催に合わせて、特別展開関連図書コーナーを設置し、資料館及び展示会場インフォメーションにて関連図書リストを配布した。 ・『東京国立博物館ニュース』及びライブラリーニュース(OPAC)に記事を掲載し資料館からの情報発信に努めた。									
資料館調べ方ガイド 1 									
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数		10,720件	6,000件程度	A		11,343	10,566	9,556	9,865
うちフィルム撮影		77件	—	—		5,377	1,379	1,063	22
うちデジタル撮影		10,643件	—	—		5,966	9,187	8,493	9,843
新規図書整理		6,849件	—	—		7,345	3,970	4,877	4,989
遡及図書整理		1,266件	—	—	7,836	5,459	13,693	3,505	
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 法隆寺宝物館での図書コーナーは平成館工事により一時中止があったが、基本である資料館での美術史等の情報及び資料の公開とその活用を支援する事業は順調に行われ、検索方法ガイドの作成など新たな利用促進の試みも進んでいる。							
【中期計画記載事項】美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、情報の発信と、レファレンス機能を充実させる。									
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 データ整備入力、データベース作成、調べ方ガイド作成など、情報の発信とレファレンスに有益な業務を展開できた。							

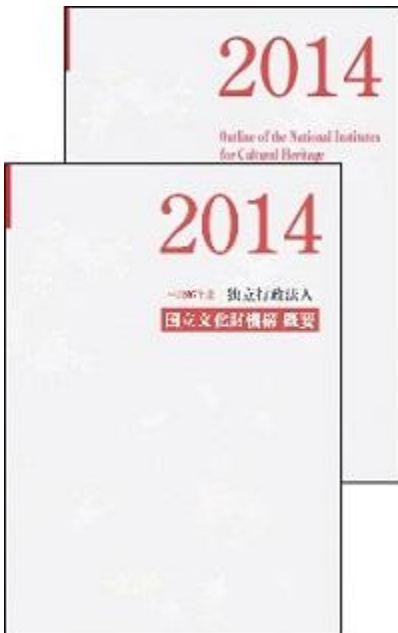


資料館調べ方ガイド 1

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信																																							
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ②博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化																																							
【年度計画】 美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図る。また、資料の登録や検索・利用については、最新の情報処理技術を用いた、活用しやすいシステムを開発する。 (4館共通)1)約13,000件 (東京：6,000、 京都：3,000、 奈良：3,000、 九州：1,000)の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備する。 (京都国立博物館) 1)資料情報などの研究系システムについて、サーバ仮想化（多数のサーバを仮想的に少数のハードウェア装置へ集約する技術）による費用低減と性能向上を図る。 2)蔵書管理システムをデータベース統合し、資料の管理性や検索性を向上させる。																																								
担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長 浅見龍介																																					
【実績・成果】(4館共通)1) ・収蔵品、出品作品等の新規撮影は、フィルム撮影を557枚、デジタル撮影を4,370枚行った。 ・高精細デジタルカメラが導入され、デジタル撮影を中心としてフィルム撮影も並行して行った。 ・画像利用申請に伴う収蔵フィルムのデジタル化作業を継続して行った。 ・当館で所有するスキャナを使用し、所蔵フィルムのデジタル化を開始した。 ・8×10フィルムの高精細スキャニング作業を開始した。 ・館蔵ガラス乾板の保存整理作業、及びガラス乾板のデジタル化を継続して行った。 ・フィルムの保存状態改善のため、保存に適した収納箱への移し替えを継続して行った。 ・経年劣化の激しいマイクロフィルムのデジタル化を継続して行った。 ・調査、研究、教育等に資するため、図書資料においては、新規図書9,758冊、逐次刊行物1,011冊を収集した。 (京都国立博物館) 1)研究系基盤サーバにおいて仮想化統合を実施した。処理能力の向上により、レファレンスの検索速度が向上した。 2)・蔵書管理システムについて、図書システムとサブシステムを統合したことにより資料検索の利便性を向上させた。 ・統合する際、サブシステムに登録している書誌データに登録番号を付与し、管理上の便宜を図った。																																								
【補足事項】 ・当館の展覧会出品作品の撮影は、「南山城の古寺巡礼」展、「修理完成記念 国宝 鳥獣戯画と高山寺」展、また27年4月7日開催予定の「桃山時代の狩野派」展を対象として進めた。 ・平成知新館開館に伴い、オープン記念展「京へのいざない」、特別展観「山陰の古刹・島根鰐淵寺の名宝」、特集陳列「雛まつりと人形」、特別展観「天野山金剛寺の名宝」を対象とした出品作品の撮影を行った。 ・京都市左京区の知恩寺において今年度の社寺調査を行い、併せて作品の撮影を行った。 ・高精細のデジタルカメラを用いた撮影の本格運用を開始した。 ・画像利用申請に伴うアウトソーシングのスキャニングとは別に、劣化の激しい撮影年代の古いカラーフィルムを、当館で所有するスキャナを使用して、館内においても順次スキャニングしデジタル化を開始した。 ・当館所有のスキャナでは8×10フィルムの高精細スキャニングが行えないため、ドラムスキャナを使用したスキャニングをアウトソーシングで開始した。 ・デジタル画像の提供は、別途「@KYOTOMUSE Digital Archives」(artize.net)を介し継続的に行っている。 ・ガラス乾板の劣化状態調査を京都造形芸術大学の協力により行い、同時にスキャナを用いて、ガラス乾板のデジタル化を行った。 ・劣化しているフィルム保存箱を、保存に適した収納箱に順次、移し替えを行っている。 ・重要度の高いマイクロフィルムのデジタル化を行った。 ・図書管理システム、資料の登録・検索を行う文化財情報システムについては、引き続き情報システム検討委員会で課題を検討しつつ、運用している。																																								
館内資料作成の撮影風景 																																								
<table><tr><td>【定量的評価】項目</td><td>26年度実績</td><td>目標値</td><td>評価</td><td rowspan="4">経年変化</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td></tr><tr><td>収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数</td><td>4,927件</td><td>3,000件</td><td>A</td><td>3,379</td><td>3,580</td><td>2,713</td><td>4,525</td></tr><tr><td>うちフィルム撮影</td><td>557件</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>3,410</td><td>2,168</td><td>1,406</td></tr><tr><td>うちデジタル撮影</td><td>4,370件</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>170</td><td>545</td><td>3,119</td></tr></table>								【定量的評価】項目	26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25	収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数	4,927件	3,000件	A	3,379	3,580	2,713	4,525	うちフィルム撮影	557件	—	—	—	3,410	2,168	1,406	うちデジタル撮影	4,370件	—	—	—	170	545	3,119
【定量的評価】項目	26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25																																
収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数	4,927件	3,000件	A		3,379	3,580	2,713	4,525																																
うちフィルム撮影	557件	—	—		—	3,410	2,168	1,406																																
うちデジタル撮影	4,370件	—	—		—	170	545	3,119																																
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 新規撮影件数・図書資料の収集を滞りなく実施することができた。																																						
【中期計画記載事項】美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、情報の発信と、レファレンス機能を充実させる。																																								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 資料の収集・整備、及び情報の発信とレファレンスを滞りなく行うことができた。																																						

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ②博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化							
【年度計画】 美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図る。また、資料の登録や検索・利用については、最新の情報処理技術を用いた、活用しやすいシステムを開発する。 (4館共通) 1)約13,000件（東京：6,000、 京都：3,000、 奈良：3,000、 九州：1,000）の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備する。 (奈良国立博物館) 1)図書情報システム及び写真情報システムによる資料整備と情報蓄積を推進し、内外の利用者に対してサービスの充実を図る。 2)仏教美術資料研究センターの耐震補強工事完了をうけて、利用者に対し利便性向上を図るため、資料配置を全面的に見直し、資料の有効的な活用と効率的な運用について検討し、実施する。								
担当部課	学芸部資料室	事業責任者	室長 宮崎幹子					
【実績・成果】 (4館共通) 1)収蔵品・展覧会等出品作品等の新規撮影を多数行い、関連データを整備した(5,478件)。 (奈良国立博物館) 1)・図書情報システム及び画像情報システムによる情報蓄積を推進し、仏教美術資料研究センター及びインターネットにおける情報公開を充実させた。 ・OPACの機能を強化し、図書・論文の書誌情報を一括で検索する画面を新規に作成した。これにより、内部で継続して蓄積を行っている、論集・学術雑誌・展覧会図録等に掲載されている論文情報をより有効に活用することが叶い、情報発信と利便性の向上が実現した。 2)仏教美術資料研究センターでは、通常の資料・施設の公開にとどまらず、ボランティアによる建築案内や、専門家の見学や研修の受け入れを複数回行っている。今年度は、文化庁招聘の日本美術資料専門家（欧米）の研修を実施し、日本東洋美術に関する資料の蓄積やデジタル化について強い関心が集まった。こうした外部からの見学・取材依頼に適宜対応することにより、機能及び施設の普及・宣伝に着実に効果を上げている。								
【補足事項】 1)美術史分野における論文情報の蓄積と公開は、昨今世界的な話題となっているが、日本美術史に関しては、東文研の他に博物館・美術館が自館刊行物について独自に情報の蓄積を行っており、統一的な展開はみられない。当館では、以前より自館刊行物以外にも範囲を広げて論文情報の蓄積に努めており、その数は1万件を超える。こうした情報が効果的に外部に発信する道が拓けたという点で、OPACの機能拡張は大きな意味をもつ。 2)今年度は、なら仏像館の閉館を受けて、仏教美術資料研究センター関野ホールの無料公開を実施した。9月から12月にかけての期間中、16,187人の見学者が訪れた。建物及びセンターの活動の広報に大きな成果をあげた。								
								
		図書・雑誌論文一括検索画面						
【定量的評価】項目	26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数	5,478件	3,000件	A		11,684	6,103	4,960	4,648
うちフィルム撮影	7件	—	—		1,725	219	14	87
うちデジタル撮影	5,471件	—	—		10,677	5,884	4,944	4,561
【年度計画に対する総合評価】 評価： A		【判定根拠、課題と対応】 目標値を上まわる数値となっており、継続的な蓄積が達成されている。						
【中期計画記載事項】美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、情報の発信と、レファレンス機能を充実させる。								
【中期計画に対する評価】 評価： A		【判定根拠、課題と対応】 データ整備の目標値を上まわる数値となるだけに留まらず、情報の発信についてもOPACの機能強化等新たな試みの実施により、着実に機能を充実させることができた。						

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ②博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化								
【年度計画】 美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図る。また、資料の登録や検索・利用については、最新の情報処理技術を用いた、活用しやすいシステムを開発する。 (4館共通) 1)約13,000件（東京：6,000、京都：3,000、奈良：3,000、九州：1,000）の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備する。 (九州国立博物館) 1)博物館資料（図書、写真など）データベースにおける業務の効率化に向けて、第2次業務システムについて継続的に見直しと改良を加え、より充実した業務システム構築を目指す。									
担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長 富坂 賢						
【実績・成果】 (4館共通) 1)1,167件の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備した。 (九州国立博物館) 1)博物館資料（収蔵品、図書、写真など）データベースにおける業務の効率化に向けて、第2次業務システムの検討を行った。その結果、図書管理については、日本事務器製ネオシリウス（蔵書管理システム）を導入した。収蔵品、写真管理については、日本写真印刷製アルタイズネットを導入した。									
【補足事項】 (4館共通) 1)収蔵品・出品作品等の新規撮影は、フィルム撮影に代わりデジタル撮影が主体となりつつある。									
 デジタル撮影風景（スタジオパッション）									
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	22	23	24	25
収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数		1,167 件	1,000件	B		1,393	4,441	2,142	1,512
うちフィルム撮影		4 件	—	—		1,357	2,175	1,480	822
うちデジタル撮影		1,163 件	—	—		36	2,266	662	690
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 目標値は達成した。撮影業務は引き続き外部委託として実施しているが、委託業者の確保と撮影制度の向上には留意している。蔵書管理システム等の導入により、より充実した業務システムの構築を実現することができた。							
【中期計画記載事項】美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、情報の発信と、レファレンス機能を充実させる。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 撮影自体は各年の展覧会開催や借用実績等の事情によってかなり左右されるが、毎年度の目標値は順調に達成している。なお、画像データの管理について新しい文化財管理システムの導入の中でプロトタイプを作成した。							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ③ 広報計画の策定と情報提供								
【年度計画】 (機構本部) 1)機構の概要、年報を作成する。 2)機構本部ウェブサイトを活用し、法人情報の提供を行う。									
担当部課	本部事務局総務企画課		事業責任者		課長 池野浩幸				
【実績・成果】 (機構本部) 1)『独立行政法人国立文化財機構概要 平成26年度』（日本語版・英語版）を26年7月に発行し、PDF 版をウェブサイトに掲載した。 『独立行政法人国立文化財機構年報 平成25年度』を26年12月に発行し、PDF 版をウェブサイトに掲載した。 2)機構本部ウェブサイト (http://www.nich.go.jp/) の運用を継続した。随時掲載情報の追加更新を行い、広く一般に向けた法人情報の提供を行った。									
【補足事項】 1)『独立行政法人国立文化財機構概要』は、今回ページ構成の見直しを行い、日本語版と英語版を別冊子に分けて作成した。(日本語版：2,100 部、英語版カラー600 部。いずれもカラー25 ページ) 『平成 25 年度年報』：232 部、カラー4 ページ・モノクロ 1,226 ページ。 2)機構本部ウェブサイトアクセス件数：325,132件									
 『独立行政法人国立文化財機構概要 平成26年度』 (日本語版・英語版)  『独立行政法人国立文化財機構年報 平成25年度』  独立行政法人国立文化財機構ウェブサイト トップページ									
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
—		—	—	—	—	—	—	—	—
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 計画通り概要・年報を作成し、本部ウェブサイトの運用においても必要な情報提供を行うことが出来た。							
【中期計画記載事項】展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 機構本部から一般への情報提供について、計画通り行うことが出来ている。							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ③広報計画の策定と情報提供								
【年度計画】 (4館共通) 1)年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。 (東京国立博物館) 総合文化展の活性化に重点をおいた広報活動を行う。 1)広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行う。 2)春の「博物館でお花見を」、秋の「博物館でアジアの旅」、正月の「博物館に初もうで」を軸とした総合文化展の広報の企画・運営を行う。 3)本館2階「日本美術の流れ」のテーマ解説及び主な展示作品の解説をまとめ、展示替ごとに更新する日本語パンフレットを継続して作成し、配布する。									
担当部課	学芸企画部広報室		事業責任者		室長 伊藤信二				
【実績・成果】 (4館共通) 1)年間スケジュールリーフレットを制作し(35,000部)、送付及び館内配布した。 (東京国立博物館) 1)『東京国立博物館ニュース』(隔月刊)や、総合案内パンフレット「案内と地図」(7言語8種)、「展示・催し物のご案内」を作成、配布した。 2)「博物館でアジアの旅」、「秋の特別公開」、「博物館に初もうで」、「黒田記念館リニューアル」などにおいて、チラシ、パンフレット、ポスターなど各種広報印刷物を作成・配布し、また当館ウェブサイト・SNSによる告知を行った。 3)本館 2 階「日本美術の流れ」のテーマ解説及び主な展示作品の解説をまとめ、展示替ごとに更新する日本語パンフレットを 10 月まで作成し、配布した。11 月以降、「トーハクナビ」の「今日のオススメ」作品の配信開始に伴い、『東京国立博物館ニュース』ページ中の「日本美術の流れ」を「今日のオススメ」と連動させ、パンフレット「日本美術の流れ 今日のオススメ」として作成し、配布した。									
【補足事項】 2)・『東京国立博物館ニュース』では、総合文化展のページを増やし、きめ細かい情報発信に努めた。 ・「博物館でアジアの旅」「博物館に初もうで」では、朝日、読売、毎日新聞への広告を出展した。本広告は第82回毎日広告賞準部門賞を受賞した。									
									
					『東京国立博物館ニュース』728号				
									
					「博物館に初もうで」毎日新聞広告				
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
—		—	—	—		—	—	—	—
【年度計画に対する総合評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 スケジュールや案内は当初計画した形での広報物作成と配布が実施できた。また各企画において印刷物を作成し効果的な広報が展開できた。						
【中期計画記載事項】展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。									
【中期計画に対する評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 より一般来館者の関心を惹き、かつ外国人や若年層など、今後來館の幅を広げうる層にも訴求するような印刷物及び広報展開が実施できている。						

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ③ 広報計画の策定と情報提供								
【年度計画】 (4館共通) 1)年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。 (京都国立博物館) 1)26年9月13日の平成知新館開館に伴い、広報用ポスター・パンフレットの企画・製作・配付等を行う。 2)文化大使を引き続き任命し、広報活動を行う。									
担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長 宮川禎一						
【実績・成果】 (4館共通) 1)年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行った。 (京都国立博物館) 1)・26年9月13日の平成知新館開館に伴い、平成知新館の建築及びオープン記念展を紹介するプレスリリース、広報用ポスター・パンフレットの企画・製作・配付等を行った。 ・平成知新館開館ならびにオープン記念展「京へのいざない」の開催に向けて、事前記者発表を3回（うち1回は東京）開催した。 2)文化大使を引き続き任命し、広報活動を行った。									
【補足事項】 (4館共通) 1)26年4月～27年3月の展覧会日程を記載した年間スケジュールリーフレットを作成・配布した。(30,000部) (京都国立博物館) 2)博物館の活動の周知とイメージアップを図り、当館が幅広い年齢層に受け入れてもらえるよう、引き続き(H23年1月から任命中)文化大使として俳優の竹下景子氏を任命した。(H27年1月) ○近隣私鉄会社と連携し、ポスター・チラシの駅構内掲示等広報活動を実施した。 ○展覧会のジャンルに併せてチラシ等発送リストの見直しを行い、より効果的な情報発信に努めた。 ○メールマガジン会員数の維持・増加を目的として24年度に開始した会員特典の小冊子(PDF)の刊行を継続して行った(詳しくは処理番号2442を参照)。 ○「Twitter」を通じて展覧会の混雑状況の迅速な情報発信を行った。 ○一般社団法人京都府タクシー協会、公益財団法人京都文化交流コンベンションビューローの構成員に対して展覧会の特別鑑賞会を実施し、さらなる観覧者数の増加を図った。 ○ウェブサイトにおける貸出作品の情報公開(トップページ「館外での作品公開」)は、寄託作品や個人名を伏せるなどして、網羅的なリストを提示している。このような情報公開は、日本の博物館では極めて画期的なものといえる。									
 年間スケジュール (26年4月～27年3月)									
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
—		—	—	—		—	—	—	—
【年度計画に対する総合評価】 評定：A		【判定根拠、課題と対応】 年間スケジュールや展覧会チラシ・メールマガジンの発行・ツイッターでの特別展覧会混雑状況の告知など多方向の媒体を活用して着実な広報活動を行うと共に、当初、予定になかった東京での報道発表を実施し、報道関係者及び一般読者等から多大な好評を得た。引き続き様々な機会と媒体に対して積極的な発信を行うこととする。							
【中期計画記載事項】展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。									
【中期計画に対する評価】 評定：A		【判定根拠、課題と対応】 中期計画に従って、年間スケジュールや展覧会チラシ・メールマガジンの発行・ツイッターでの特別展覧会混雑状況の告知など多方向の媒体を活用して博物館の広報活動を着実に行った。また東京での記者発表を実施する等、新館開館に伴い、これまでになく広範な広報活動を行った。引き続き様々なマスコミや媒体に対して積極的な発信を行うこととする。							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ③広報計画の策定と情報提供								
【年度計画】 (4館共通) 1)年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。 (奈良国立博物館) 1)広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行う。 2)特別展の際に、タクシー・ホテル等関係者に対する内覧会を実施し、タクシー・ホテル等利用者への広報活動を展開する。 3)地域の観光協会を通じて観光客への広報活動を展開する。 4)地域の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動の展開を図る。 5)文化大使を引き続き任命し、広報活動を行う。 6)写真・映像の撮影等に場所提供を含め協力することにより博物館の認知度を高める。									
担当部課	学芸部情報サービス室 総務課渉外室企画推進係	事業責任者	室長 吉澤 悟 係長 石田義則						
【実績・成果】 (4館共通) 1)26年7月～27年5月の展覧会日程を記載したリーフレットの初版を5月に5,000部、一部改訂版を10月に30,000部作成し、配布した。 (奈良国立博物館) 1)それぞれの展覧会の特性や意義に応じた広報の方針、及び印刷物の部数を議論する広報戦略委員会を、6回実施した。 2)特別展では、タクシー・ホテル等関係者に対する内覧会を実施、タクシー・ホテル等の利用者への広報活動を行った。 3)奈良市観光協会への入会をはじめ、積極的に地元観光業界に対し広報活動を展開するとともに情報収集に努めた。 4)奈良県が後援する観光イベントへの積極的な協力や、奈良県ビジターズビューローとの連携等、地域の観光団体等と連携した広報活動を展開した。 5)文化大使の次期候補者から就任の内諾を得た。 6)新聞社や鉄道会社の広報誌、地元のタウン情報誌等の写真撮影協力やテレビ局に対して放送のための映像撮影協力をし、博物館の認知度を高めた。									
【補足事項】 3)・「はじまりは正倉院展実行委員会」に参加し、「まちなかバル」及びスタンプラリーに協力した。 ・地元ホテルのスタンプラリーの特典として、観覧料金の割引を実施した。 ・地元商店街の割引クーポン利用施設に参加した。 5)次期候補は「笑い飯哲夫」。									
									
年間展示案内リーフレット（一部改訂版）									
【定量的評価】 項目	26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25	
—	—	—	—	—	—	—	—	—	
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 昨年に引き続き、近隣商店街など地域と連携して博物館の情報を発信することができた。							
【中期計画記載事項】 展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 順調に成果を上げているため。							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ③広報計画の策定と情報提供								
【年度計画】 (4館共通) 1)年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。 (九州国立博物館) 1)特別展の実施に伴う広報・宣伝材料を制作する。 2)現在及び過去や将来の展示リストを検索・紹介し、新鮮な展示情報を情報発信するためのウェブデータベースの整備を継続する。 3)地域の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動を展開する。 4)九州観光推進機構などを通じた海外への広報・営業活動を展開する。 5)文化交流展示室からの積極的な情報発信を図るため、ポスター・ちらし・ウェブコンテンツの活用を一層、促進する。									
担当部課	学芸部企画課 学芸部広報課	事業責任者	課長 臺信祐爾 課長 田端幸朋						
【実績・成果】 (4館共通) 1)年間スケジュールリーフレット「九州国立博物館 展示スケジュールのご案内」の制作・配布を行った。(50,000部) (九州国立博物館) 1)特別展にかかわるポスター、ちらしなどの広報・宣伝材料を制作した。 2)過去の特別展やトピック展などの情報の整備とともに、現在及び将来の展示リストの検索・紹介、新鮮な展示情報について情報発信するためのウェブデータベースの整備についても実施した。 3)トピック展示ポスター、ちらし、「展示・イベントスケジュール」の設置など観光協会と連携した広報活動を実施した。 4)九州観光推進機構のウェブサイトにも博物館情報を掲載し、アジアへ情報を発信した。 5)特別展と文化交流展示室とで統一的な企画を行った際、チケット半券に文化交流展示室の詳細情報を記載し、特別展来場者が文化交流展示室へも足を運ぶよう工夫した。									
【補足事項】 3)・商工団体へ展示・イベント案内ちらしを毎月、『季刊情報誌アジアージュ』を年4回送付し、会員等への周知を依頼した。 ・福岡県が運営するポップカルチャー配信サイト「アジアンビート」のウェブサイトにも博物館情報を掲載した。 4)・旅行代理店やクルーズ客船の担当等を招聘し広報・営業を行った。 ・航空会社国際線機内誌に特別展及び施設紹介を掲載した。 5) 特別展「クリーブランド美術館展―名画でたどる日本の美―」とあわせて、文化交流展示室において特別公開「海を越えた再会―クリーブランド美術館の仲間たち―」という統一的な企画を行った。その際に、チケットの半券に文化交流展示室での特別公開の情報（特別公開タイトル、会期）を掲載することでパブリシティの向上に取り組んだ。その結果、特別展来場者の54%が文化交流展示を観覧し、通常時より多くの来館者を動員することができた。									
									
年間スケジュールリーフレット									
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価	経年 変化	22	23	24	25
－		－	－	－		－	－	－	－
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 実施した特別展のそれぞれの適正に応じたポスター・ちらしなどの制作や、航空会社機内誌への掲載など新たな取り組みも行うことができた。							
【中期計画記載事項】展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 各年度において広報計画を策定し、告知にあたっては、企画目的を考慮し、地域・年齢層などのターゲティングを行い、効果的に広報を行うことができた。							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ④広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動								
【年度計画】 (4館共通) 1) マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。 2) ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行う。 3) メールマガジンを配信する。 (東京国立博物館) 1) 『東京国立博物館ニュース』の編集・発行・配布を行う。(年6回) 2) ウェブサイトでは、ブログや投票などの博物館の顔が見えるコンテンツ及びユーザ参加型のコンテンツを継続して発信する。 3) スマートフォン対応を目的としたモバイルサイトの充実を図る。 4) SNS(ツイッター、フェイスブック)による情報発信を継続して行う。 5) 主要メディアの文化担当記者との懇談会を開催し、マスコミとの連携を強化する。									
担当部課	学芸企画部広報室		事業責任者		室長 伊藤信二				
【実績・成果】 (4館共通) 1) マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開した。 2) ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行った。 3) メールマガジンを配信した。(22回) (東京国立博物館) 1) 『東京国立博物館ニュース』の編集・発行・配布を行った。(年6回) 2) ・「1089ブログ」により、情報発信を行った。(更新数82回) ・「投票」など、読者参加型のコンテンツで、展示や文化財についての興味喚起を図った。 3) 26年4月よりスマートフォン対応を目的としたモバイルサイトを開発し、26年12月17日に一般向けに正式公開した。 4) 25年7月より開始したSNS「Facebook」、「Twitter」による情報発信を継続し、よりタイムリーな情報発信と新たな来館者層の開拓に努めた。 5) 新聞雑誌各紙の美術・文化担当記者ならびに文部科学省記者クラブのメンバーを対象とした記者懇談会第2回を実施した(26年4月14日)。また総合文化展示活性化の一環として企画した「博物館でアジアの旅」では、FMラジオ局J-WAVEと連携し、リスナーを招待しての打楽器コンサートを開催した。									
【補足事項】 (4館共通) 1) 茶道美術関連雑誌『なごみ』26年10月号の東京国立博物館特集に協力し、140年を超える歴史と蓄積された文化財の質の高さに裏打ちされた東京国立博物館の品格を十分にアピールできた。 (東京国立博物館) 2) ・「1089ブログ」では、研究員はもとより、館内の様々な部署の職員が、展示・催し、その他館の活動に関する情報発信に関わった。 ・「Twitter」フォロワー11,388(前年度5,255)、「Facebook」いいね!6,823(前年度3,288)を獲得し、前年度より着実に数を伸ばしている。									
									
『なごみ』26年10月号 東京国立博物館特集			記者懇談会						
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価	経年 変化	22	23	24	25
『東京国立博物館ニュース』発行		6回	6回	B		6	6	7	6
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 雑誌の特集対応、ウェブサイトの充実やSNSの活用により、東京国立博物館のより積極的なPRに寄与した。							
【中期計画記載事項】 広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 スマートフォン用サイトの開発や記者懇談会の実施などにより、一般およびメディア媒体への認知度は年々着実に浸透している。							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ④広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動								
【年度計画】 (4館共通) 1)マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。 2)ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行う。 3)メールマガジンを配信する。 (京都国立博物館)1)『京都国立博物館だより』、『Newsletter』(英文)の編集・発行・配布を行う。(年4回) 2)地域等が主催する各種の委員会に参加・連携し、広報活動を展開する。 3)京都市内4美術館博物館で連携し、共通の展覧会情報パンフレットを制作・配布する。 4)既刊の博物館ディクショナリーをウェブサイトに掲載し、新刊をメールマガジンにて配信し、利用者の拡大を図る。 5)収蔵品貸与情報をウェブサイトにて公開する。									
担当部課	学芸部		事業責任者	企画室長 宮川禎一					
【実績・成果】(4館共通) 1)各展覧会の招待日のプレス発表会とは別に、調査研究成果のプレス発表会を随時開催し、博物館の研究活動の広報に努めた。また平成知新館開館にあわせ、平成知新館の建築及びオープン記念展を紹介する事前記者発表を開催した。 2)ウェブサイトによる情報提供(日本語・英語)、及び、モバイルサイトによる情報提供を行った。 3)メールマガジンを配信した。また、メールマガジン読者限定特典のブックレット「京博PLUS」の配信を行った。(メールマガジン12回、ブックレット6回) (京都国立博物館) 1)『京都国立博物館だより』(年4回)、『Newsletter』(年4回)の発行・配布を行った。 2)東山南部地域の社寺やホテル等と連携し、展覧会チケットが割引券となる地域マップ付チラシを作成し、広報活動を展開した。 3)京都市内4館(京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都府文化博物館、京都市美術館)の連携協力の提携を結び、共通の展覧会情報パンフレットを作成・配布した。 4)既刊の博物館Dictionaryをウェブサイトに掲載し、新刊をメールマガジンにて配信し、利用者の拡大を図った。 5)収蔵品貸与情報をウェブサイトにて公開した。 ○京都新聞社と連携し、年間を通して館蔵の名品を紹介する『名品手帳』を連載した。 ○雑誌『婦人画報 京都国立博物館非公式ガイドブック』、『月刊文化財 京都国立博物館・平成知新館の全て』、書籍『京都で日本美術をみる【京都国立博物館編】』(集英社)を始め、多くの雑誌、書籍、に記事が掲載され新たな来館者層の開拓に寄与した。 ○朝日放送の「京へのいざない」9月15日放送など複数のテレビ番組の京都国立博物館特集番組に協力して新たな来館者層の開拓に寄与した。									
【補足事項】 ・『京都国立博物館だより』は、年4回、それぞれ5千部から2万部発行(季節による来館者見込により増減)し、観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館他、郵送希望者にも発送している。 ・『京都国立博物館だより』は平成知新館の開館にあわせ、デザインを一新し、平成知新館開館、平常展示の再開により頁数も増やした。 ・『Newsletter』は、『京都国立博物館だより』の英語版として原則として年4回発行。日本語版にあわせてデザインを刷新し、イメージの統一を図った。現在124号に達しすでに四半世紀を超えた刊行物であり、外国人観覧者や留学生らの好評を博している。 ・「京博PLUS」は、メールマガジン読者を増やすため、読者限定特典として、わかりやすさや即時性をより重視した博物館全体を話題にするブックレットとして24年度末に刊行を開始、本年度も継続して刊行した。									
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
『京都国立博物館だより』発行		4回	4回	B		4	4	4	4
『Newsletter』発行		4回	4回	B		4	4	4	3
【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 より読みやすく平常展示の内容について読者に興味を持ってもらえるよう『京都国立博物館だより』や英語版『Newsletter』デザインを刷新し、新たな京博を印象付ける広報活動を展開した。さらに平成知新館の開館にあたりさまざまな媒体の活用が進んだため。								
【中期計画記載事項】 広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。									
【中期計画に対する評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 『京都国立博物館だより』・『Newsletter』・Webサイトの更新・メールマガジンの発行など平成知新館の開館にあたり着実な刊行が継続できている。さらにテレビ・雑誌・単行本などに新館の紹介番組・記事がでるように積極的な広報展開を実施し、中期計画に対し順調に成果を上げている。								



京都新聞名品手帳 婦人画報 10月号

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ④広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動(1/2)								
【年度計画】 (4館共通) 1) マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。 2) ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行う。 3) メールマガジンを配信する。 (奈良国立博物館) 1)～7) (略)									
担当部課	学芸部情報サービス室 総務課渉外室企画推進係		事業責任者	室長 吉澤 悟 係長 石田義則					
【実績・成果】 (4館共通) 1) 年間を通じて文化財の魅力を紹介する新聞連載を行ったほか、各特別展等の開催に合わせて、マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開した。 2) 特別展や公開講座等の企画ごとに、また展示替えごとにウェブサイト及びモバイルサイトを更新し、最新の情報提供を行った。 3) メールマガジンを毎月1回配信した。(11回)									
【補足事項】 1) ○名品展及び館全体の広報 ・読売新聞に、年間を通じて文化財の魅力を紹介する連載「奈良博手帖」を行った。(隔週) ・大阪府警連絡誌「なにわ」に毎月展示品解説のコラムを投稿した。 ・朝日新聞日曜版に館蔵品の魅力紹介の記事を連載した (全6回)。 ○特別展「鎌倉の仏像」広報 ・読売新聞に展示品紹介を連載した。(5回) ○特別展「醍醐寺のすべて」広報 ・読売新聞に展示品紹介を連載した。(3回) ・大阪市営地下鉄にチラシ配置、車内吊製作等を行った。 ・全国書店配付の無料しおりを作成・配置した。 ・大阪の日経新聞社読者への広告ハガキを配付した。 ○「第66回正倉院展」広報 ・読売新聞に展示品紹介を連載した。(5回) ・NHK教育で「日曜美術館 第66回正倉院展」がそれぞれ放映された。									
 全国書店配布の無料しおり									
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
—		—	—	—		—	—	—	—
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 昨年に引き続き、各メディアの協力を得て、広報物の製作に努めた。							
【中期計画記載事項】 広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 順調に成果を上げているため。							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ④広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動(2/2)								
【年度計画】 (4館共通)(略) (奈良国立博物館) 1)特別展及び名品展の情報を掲載した『奈良国立博物館だより』の編集・発行・配布を行う。(年4回) 2)ウェブサイトの外国語版の充実を図る。 3)「奈良トライアングルミュージアムズ」(奈良国立博物館、奈良県立美術館、入江泰吉記念奈良市写真美術館)の3館で連携し、集客増に繋がる広報活動を展開する。 4)周辺関係社寺等と連携し、特別展等の割引特典付きチラシを配布する。 5)マスコミからの取材申し込みを積極的に受け入れ、展覧会、博物館活動への理解・促進を図る。 6)季刊誌『奈良国立博物館だより』のPDF版をウェブサイトに継続して掲載する。 7)英語による展覧会チラシを作成し、外国人観光客誘致のための情報発信を行う。									
担当部課	学芸部情報サービス室 総務課渉外室企画推進係		事業責任者		室長 吉澤 悟 係長 石田義則				
【実績・成果】 (奈良国立博物館) 1)名品展や特別展の紹介に加え、文化財情報を満載した季刊誌『奈良国立博物館だより』を発行した。(4回) 2)ウェブサイトの英語版に関して、すべての内容や用語の見直しを図った。適切な美術用語、新しい施設名称、外国人にも分かり易い表現などを積極的に採用し、アクセス数の集中する正倉院展の会期前までに修正を完了した。 3)奈良トライアングルミュージアムズ(奈良国立博物館・奈良県立美術館・入江泰吉記念奈良市写真美術館)として、26年9月に奈良国立博物館にてワークショップ、26年12月に奈良まほろば館にて東京セミナーを実施した。 4)・東大寺、春日大社の協力を得て、体験型のイベントを行った。 ・冬季の集客を図るため割引券を作成し、観光案内所及び市内の宿泊施設に配布した。 ・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」について、期間限定(27年1月2日～4日)の無料観覧券(※名品展も無料)を、春日大社において配付し、おん祭展の広報と館の認知度アップに繋げた。 ・特別陳列「お水取り」について、期間限定(27年3月6日～8日)の無料観覧券(※名品展も無料)を、東大寺において配付し、お水取り展の広報と館の認知度アップに繋げた。 5)特別展、特別陳列等の開催にあたっては、報道発表、プレスプレビューを実施、取材にも積極的に対応した。 6)季刊誌『奈良国立博物館だより』のPDF版をウェブサイトに掲載した。 7)特別展では、英文チラシを作成、外国人観光客向けの情報発信を行った。									
【補足事項】									
									
奈良トライアングルミュージアムズ 「東京セミナー」									
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価	経年 変化	22	23	24	25
『奈良国立博物館だより』発行		4回	4回	B		4	4	4	4
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 昨年に引き続き、近隣美術館や関連社寺と連携しイベントを行い、集客に努めた。							
【中期計画記載事項】 広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 順調に成果を上げているため。							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ④広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動								
【年度計画】 (4館共通) 1)マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。 2)ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行う。 3)メールマガジンを配信する。 (九州国立博物館) 1)ウェブサイトで提供する博物館情報の充実を図るとともに、利用者の利便性を考慮した情報の発信に努める。 2)「九州国立博物館季刊情報誌アジアーヂュ」の編集・発行・配布を行う。(年4回) 3)太宰府市と連携し、スマートフォンに対応した文化情報発信サイトにより情報発信を行う。									
担当部課	広報課 総務課		事業責任者	課長 田端幸朋 課長 阿部 勝					
【実績・成果】 (4館共通) 1)マスコミや公共交通機関等と連携し、新聞紙上での作品の解説や公共交通機関での広報活動を行った。 2)ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行った。26年7月、フォーマットをリニューアルした。 3)メールマガジンを配信した。(毎月2回、年24回) (九州国立博物館) 1)ウェブサイトにて文化交流展示室の「今月の名品」のスケジュール等を掲載し、また研究員が展覧会等の解説を行う動画を「YouTube」で配信した。(詳細は処理番号2454参照) 2)九州国立博物館季刊情報誌『アジアーヂュ』を発行した。(年4回) 3)スマートフォン向け情報ガイド「太宰府市イベントガイド」で展覧会情報等を発信した。 ○『きゅーはく攻略本』を増刷・福岡県内全小中学校等へ配付した。(26年8月・27年1月)									
【補足事項】 (4館共通) 1)・公共交通機関にて、ポスターの掲示、チラシの設置等を行った。 ・新聞紙上で展示作品の解説を行った。 新聞にて特別展「華麗なる宮廷文化 近衛家の国宝 京都・陽明文庫展」、特別展「クリーブランド美術館展—名画でたどる日本の美」、特別展「台北 國立故宮博物院—神品至宝—」、特別展「古代日本と百済の交流—大宰府・飛鳥そして公州・扶餘—」及び同時開催特別展「日本発掘—発掘された日本列島2014—」の展示解説を連載し、展示作品の紹介を行った。 2)・駐車場の混雑対策のため、ウェブサイト、モバイルサイトにて駐車場空き情報を継続して提供した。 ・ウェブサイト利用者からの意見に九博メールで対応した。 ・団体利用の来館者には、これまで電話にて受付後、FAXで申込書を送っていたが、ウェブサイトより直接申込書をダウンロードできるようにした。また、「よくあるご質問」ページに、より詳細な利用情報を掲載した。 3)・読者投稿紹介やクイズなど双方向型とした。 ・登録数は毎月伸びており、開封率も高水準を維持している。 (九州国立博物館) 2)九州国立博物館季刊情報誌『アジアーヂュ』を26年4月1日、7月1日、10月1日、27年1月1日の4回発行した。 ○若年層も含めりピーター確保のため『きゅーはく攻略本』を継続して配布した。									
九州国立博物館 季刊情報誌 アジアーヂュ Asiage vol. 35 九州国立博物館 2026 文化交流 百済 古代日本 THE AGE OF DRAMATIC INTERACTION IN EAST ASIA: BETWEEN ANCIENT JAPAN AND BAECJE 季刊情報誌『アジアーヂュ』 Vol. 35									
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
九博季刊情報誌『アジアーヂュ』発行		4回	4回	B		4	4	4	4
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 ウェブサイト利用者からの意見に対応し、より快適な利用者サービスの向上に努め、好評の声を得た。							
【中期計画記載事項】 広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。									
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 積極的な広報活動を順調に行っている。 特に故宮展では、多くのマスメディアと連携し、十分な告知が行えた。							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ⑤ ウェブサイトアクセス件数の向上を図る。								
【年度計画】 (4館共通) 1)アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図る。									
担当部課	学芸企画部広報室		事業責任者		室長 伊藤信二				
【実績・成果】 (4館共通) 1)アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図った。(詳細は処理番号2441参照)									
【補足事項】 1)・SNS、メールマガジン、ブログなど複数媒体を連動させた情報発信を行い、訴求力を高めた。 ・トップページのフラッシュに新規画像を追加、「博物館に初もうで」や開催中の特別展に関連した画像も使用し、各企画の訴求力を高めた。 ・特別展ごとに、テーマを絞って展示作品をピックアップし投票していただく投票コーナーを実施した。 ・所蔵作品をデザインしたポストカード等、ダウンロードアイテムを更新した。 ・特別展「東アジアの華 陶磁名品展」に関して中国語・韓国語のページを設け充実を図った。 ・動画「国宝元興寺極楽坊五重小塔の展示の様子」、「国宝繪図屏風 平成の大修理」をアップした。 ・「とーはくナビ」の更新版をアップした。 ・27年1月の「黒田記念館」リニューアルオープンなどに伴い、基本情報の改訂、マップ画像の改訂等を行った。 ・スマートフォン用ウェブサイトを開発、26年12月17日に公開した。									
○内部業務用システムの改変 ・更新作業の効率化を図るため、CMS（コンテンツ管理システム）機能の改変を実施した。									
					 ウェブサイト 1089ブログ				
					 スマートフォン用ウェブサイト画面				
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
ウェブサイトアクセス件数		4,248,437件	—	—		4,971,306	2,772,633	2,982,729	2,898,885
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 SNSやブログを積極的に活用し多くのアクセスを得た。スマートフォン対応ウェブサイトを開発し、予定通り公開することができた。							
【中期計画記載事項】ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 コンテンツ内容の充実とともに、日々新展開するITツールに積極的に対応し、着実にアクセス数を延伸している。							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ⑤ ウェブサイトアクセス件数の向上を図る。								
【年度計画】 (4館共通) 1)アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図る。									
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	総務課長 企画室長	植田義雄 宮川禎一					
【実績・成果】 (4館共通) 1)平成知新館(新平常展示館)開館を控えた26年6月に、当館ウェブサイトのリニューアル公開を行った。 ・ウェブサイトにおいて、平成知新館開館に伴う新規コンテンツの集中投入や各種情報の大幅な整理を行ったほか、特別展覧会、各種講座、イベント、教育等のコンテンツも掲載や更新を継続的に実施し、内容の充実に努めた。 ・ウェブサイトにおける博物館概要、刊行物案内などのページも刷新するとともに、研究成果の発信機能を強化した。 ・メールマガジン及びメールマガジン読者特典ブックレットを配信し、親しみやすさの向上等に努めた。(詳しくは処理番号 2442 を参照) ・平成知新館開館に伴う来館者の混雑に対応するため、これまで特別展会場の混雑状況を発信してきた「Twitter」の活用を広げるなどの試みを行った。									
【補足事項】 1) ・平成知新館開館に伴って名品ギャラリー（平常展）の全展示室に渡る情報ページを新製したほか、開館記念展「京へのいざない」など多数の展示情報、各種講座、イベント、教育事業等に関わる情報を集中的に新規掲載し、最新の博物館情報の広報に努めた。 ・ウェブサイトはトップページの主要部にタイル状デザインを採用するなどして情報を整理し、ユーザが目的の情報へ短いステップで到達できるよう導線から全面的に見直した。また、PDF 形式記事への依存度を極力減らすことでモバイル端末の利用者にも配慮し、閲覧しやすい記事コンテンツ充実を図った。 ・月1回発行しているメールマガジンについても、平成知新館開館や特別展覧会に伴う臨時号を随時追加して最新の博物館情報の提供に努めるとともに、より親しみやすく展覧会の見どころや作品などを紹介する読者特典ブックレットを併せて発行した。 ・特別展覧会においては SNS メディア「Twitter」を通じて会場の混雑状況を1時間ごとに発信してきたが、これを平成知新館開館記念展に伴う混雑への対応にも活用を広げた。「Twitter」を使用しない閲覧者にも配慮するとともに、SNS の特性である情報速達性を生かし、台風に伴う臨時休館などの防災情報発信にも活用を広げた。 ・収蔵品データベースで公開する画像は全て見やすく整えた上で公開し、また昨年度より検索できる件数をさらに増やし、利便性を高めた。 ・開館前後の各種報道によってウェブサイトへのアクセスが集中したが、システムの各種調整や監視強化によって対応した。									
									
					リニューアルしたトップページ				
リニューアルしたトップページ									
【定量的評価】項目									
ウェブサイトアクセス件数		26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
		2,964,705件	—	—		2,077,562	1,835,640	1,837,113	1,562,480
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 平成知新館開館に合わせたリニューアル公開を通じ、広報強化を実現した。情報発信に関わるマンパワー不足が限界を超えており、今後の課題となる。							
【中期計画記載事項】 ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。									
【中期計画に対する評価】 評定：A		【判定根拠、課題と対応】 前年度に対し、190%のアクセス件数向上を達成した。来年度のアクセス数低下に備え、引き続き情報発信の充実を図る。							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ⑤ ウェブサイトアクセス件数の向上を図る。								
【年度計画】 (4館共通) 1)アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図る。									
担当部課	学芸部情報サービス室	事業責任者	室長 吉澤 悟						
【実績・成果】 (4館共通) 1) ・「トピックス」の欄を頻繁に更新し、さらにイベント情報欄には文字情報のみならずチラシ画像なども掲載して、より多くの情報を発信することに努めた。 ・特別展および特別陳列を紹介する頁に、主な出陳作品の写真付き解説を掲載し、展示構成や作品理解への便宜を図った。特に昨年以上に掲載作品を増やし、より展覧会の理解に資するよう努めた。 ・『奈良国立博物館だより』の最新版をウェブサイト上で閲覧できるよう適宜アップした。 ・「第66回 正倉院展」の会期中、読売新聞大阪本社（特別協力）のウェブサイトと連携して「ただ今の混雑状況」を知らせる小窓を設置した。 ・ホームページから閲覧できる主要作品の写真情報や解説の追加・見直しに努めた。									
【補足事項】 天皇后両陛下傘寿記念 第66回正倉院展 アンケート集計結果 開催期間:平成26年10月24日～11月12日(20日間) 回答者数:1,404人 入場者数:269,348人 回収率: 0.52% ①観覧会開催を知った方法(重複回答あり) ②展示に関する満足度 ③第一回からの正倉院展来館回数 ④来館者年齢層 ⑤来館者地域別 ⑥主な意見・感想 ・正倉院の様々な種類の宝物が、まんべんなく展示され観覧がつかみやすかった。 ・1300年近く前のものをいかに大切に美しく保存し、見せてくださって感激です。 ・見づらい細かな文様をパネル展示することで、宝物の詳細がよくわかった。 ・古文書に細かく注が付いてあり、わかりやすい。展示解説は年々わかりやすく工夫されていると思う。 ・人が多すぎてゆっくりと見られなかったのが残念。 ・展示室内の人の流れが悪かった。順路等工夫できる余地があると思う。									
ウェブサイト内で閲覧可能な各特別展のアンケート集計結果									
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
ウェブサイトアクセス件数		1,196,669件	—	—		769,293	722,249	845,202	893,553
【年度計画に対する総合評価】 評価: B		【判定根拠、課題と対応】 昨年に引き続き、イベント情報等への充実に努めた。							
【中期計画記載事項】ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。									
【中期計画に対する評価】 評価: B		【判定根拠、課題と対応】 順調に成果を上げているため。							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ⑤ウェブサイトアクセス件数の向上を図る。								
【年度計画】 (4館共通) 1)アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図る。									
担当部課	広報課 総務課	事業責任者	課長 課長	田端幸朋 阿部 勝					
【実績・成果】 (4館共通) 1)ウェブサイトにおいて特別展、トピック展示、特別公開やイベント等の情報を常に更新し、内容の充実を図った。 ・研究員が展覧会の解説を行う動画の配信を行った。 ・駐車場空き情報の提供を行った。 ・26年5月から、ご利用案内に「団体でのご利用について」を追加し、学校団体等からの問合せに迅速に対応できるように努めた。 ・26年7月から、「画像のご利用について」の項目を追加し、文化財ならびに博物館建物外観等画像の利用に関する問合せに迅速に対応できるよう努めた。									
【補足事項】 (4館共通) 1) ・前年度までは、修学旅行等の学校団体からの問合せには、個別に電話とファックスで対応していたが、ウェブサイトに「団体でのご利用について」を追加することで、各学校団体には事前にウェブサイトで情報を提供できるようになった。 ・前年度までは、文化財ならびに博物館建物外観等画像の利用に関する問合せには、個別に電話で対応していたが、ウェブサイトに「画像のご利用について」を追加することで、事前にウェブサイトで情報を提供できるようになった。 ・特別展「華麗なる宮廷文化 近衛家の国宝 京都・陽明文庫展」、特別展「クリーブランド美術館展—名画でたどる日本の美」、特別展「台北 國立故宮博物院—神品至宝—」、特別展「古代日本と百済の交流—大宰府・飛鳥そして公州・扶餘—」や文化交流展示室のトピック展示「全国高等学校 考古名品展」等を、ウェブサイトにて研究員が解説する動画を「YouTube」で配信した。 ・駐車場の混雑対策のため、ウェブサイト、モバイルサイトにて駐車場空き情報を継続して提供した。									
									
				九州国立博物館ウェブサイト 「団体でのご利用について」					
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
ウェブサイトアクセス件数		1, 827, 152件	—	—		1, 384, 701	1, 150, 408	2, 078, 279	1, 209, 272
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 スペースの都合でチラシに掲載できない情報などもウェブサイトにも盛り込み充実を図った。その結果、アクセス件数が前年度を上回った。							
【中期計画記載事項】		ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。							
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 ウェブサイトアクセス件数の向上を図るため、特別展、トピック展示、特別公開やイベント等の情報を常に更新し、また研究員が展覧会の解説を行う動画の配信など内容の充実を推進している。							